

ロボット等を活用した障害者支援手法の開発に向けた調査研究事業 調査結果報告書

令和3年3月

株式会社浜銀総合研究所

目 次

1. 調査研究の目的と方法	1
(1) 調査研究の目的	1
(2) 調査研究の方法	2
(3) 本調査研究事業の全体像	5
2. アンケート調査結果	6
(1) アンケート調査の実施概要	6
(2) アンケート調査結果	7
(3) アンケート調査結果のまとめ	111
3. ヒアリング調査結果	119
(1) ヒアリング調査の実施概要	119
(2) ヒアリング調査結果	121
(3) ヒアリング調査結果のまとめ	131
4. まとめ	133
(1) 調査結果からわかったポイント	133
(2) 今後の開発・普及に向けた提言	135
資料編	139
(1) 施設票	141
(2) 職員票	153

1. 調査研究の目的と方法

(1) 調査研究の目的

- 現在、国においては「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」や「未来投資戦略」などにより、福祉サービスの生産性向上や職員の負担軽減に向けたサービス提供現場へのロボットの導入促進を政策の柱の1つとして定めて、様々な施策が展開されている。
- 厚生労働省においても、「ロボット技術の介護利用における重点分野（6分野13項目）」を定め、ロボットの開発・導入に向けた様々な施策が先行して展開されており、その結果として、特別養護老人ホームや有料老人ホーム等を中心に、少しずつではあるがロボット介護機器の導入が進んでいる。
- こうしたロボット介護機器については、令和元年度に当社が実施した「障害分野におけるロボット等の導入促進に向けた調査研究」（障害者総合福祉推進事業）を踏まえれば、障害福祉分野においても職員の負担軽減や業務の効率化、支援の質の向上などの観点から大きな期待が寄せられており、実際に一部の施設等においては積極的にロボット介護機器を活用する事例がみられた。
- しかしながら、多くの障害福祉サービス事業所は、ロボット介護機器に関する情報を有しておらず、また、どのような支援行為にロボット介護機器を活用することが負担軽減や生産性向上を通じた職場環境の改善に効果的かといった点や、ロボット介護機器の活用を前提とした支援手法のポイントなどが整理されていない現状がある。
- そこで本事業においては、下記を主たる目的として調査研究を実施した。

【調査目的】

- 身体・知的・精神などの障害児者向けのサービス事業所を対象にアンケート調査を実施し、COVID-19 状況下における事業所の業務量や業務負担等に関する実態を把握するとともに、ロボット介護機器の導入状況や導入にあたっての課題、期待されるロボット介護機器の機能等について把握する。
- 調査結果の分析を通じ、ロボット介護機器の活用により効率化や支援の質の向上が期待されるものを抽出し、支援行為ごとの具体的な機器活用のポイントを検討する。
- 加えて、既にロボット介護機器等を導入している障害福祉サービス事業所に対して、ヒアリング調査を実施し、ロボット介護機器等を導入する際のポイントやプロセスの実態等について、把握する。
- 上記の調査結果および機器活用のポイントを整理し、報告書にまとめるとともに、概要版として「障害者支援施設におけるロボット介護機器の活用事例」を作成し、関係機関へ配布し、ロボット介護機器導入を検討する契機とする。

（２）調査研究の方法

前節で述べた目的を達成するために、本調査研究ではアンケート調査およびヒアリング調査を実施した。また、調査結果等の検討を行うため、有識者で構成されるワーキンググループを開催した。

① アンケート調査

- 障害者支援施設における、①業務の内容と負担の大きさ、②ロボット介護機器等の導入に対する考え方や導入状況、導入における課題の２点を把握し、障害者支援現場の業務実態を踏まえてロボット等の導入推進を行う方策を検討することを目的とした。
- 具体的には、「施設向け調査（施設票）」「職員向け調査（職員票）」の２種類の調査を行い、下記の２点を主なリサーチクエスチョンとして設定した。

- 施設ではどのような業務が行われており、どのような業務の負担が大きいのか？
- 上記の（負担が大きい等の）業務に対して、ロボット介護機器等を活用する可能性があるのか？また、「業務の負担が大きい」「効率化の余地がある」にも関わらず、ロボット介護機器等を活用する可能性が低い場合、活用することを阻害する要因はどのようなところにあるのか？

- 上記の調査により、各施設における業務実態を施設側／職員側それぞれの視点から把握するとともに、施設側と職員側とでロボット介護機器等の活用の可能性についてどのように考えているか把握することを試みた。

② ヒアリング調査

- ロボット介護機器等を活用する際のポイント、導入手順などについて詳細な情報を把握することを目的とし、ロボット介護機器等を導入している障害者支援施設・事業所に対して、ヒアリング調査を実施した。

③ ワーキンググループの開催

- 本調査研究事業では、ワーキンググループを組成し、調査や成果物の内容等について検討を行った。
- ワーキンググループのメンバーについては、身体・知的・精神の３障害児者への支援に精通する学識経験者、ロボット工学分野の学識経験者、福祉現場で活用可能なロボット介護機器の開発や同機器の導入状況等に知見を有する有識者などで構成した。
- 具体的な人員構成およびワーキンググループ各回の議題については、次ページのとおりである。

■ワーキンググループ・委員（敬称略）

【委員】（敬称略・座長以下五十音順）

氏 名	所 属
飯島 節	本有識者ワーキンググループ座長 筑波大学名誉教授、介護老人保健施設ミレニウム桜台 施設長
熊崎 博一	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・青年期精神保健研究室長
五島 清国	公益財団法人テクノエイド協会 企画部長
琴坂 信哉	埼玉大学理工学研究科 人間支援・生産科学部門 准教授
東 祐二	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害工学研究部 部長
日詰 正文	国立重度知的障害者総合施設のぞみの園 総務企画局 研究部 部長
山口 創生	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神保健サービス評価研究室長

【オブザーバー】

厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課

【事務局】

氏 名	所 属
田中 知宏	株式会社浜銀総合研究所地域戦略研究部 上席主任研究員
有海 拓巳	株式会社浜銀総合研究所地域戦略研究部 主任研究員
加藤 善崇	株式会社浜銀総合研究所地域戦略研究部 副主任研究員
辻本 侑生	株式会社浜銀総合研究所地域戦略研究部 研究員
秋本 克規	株式会社浜銀総合研究所地域戦略研究部 研究員

■ワーキンググループ各回の実施概要

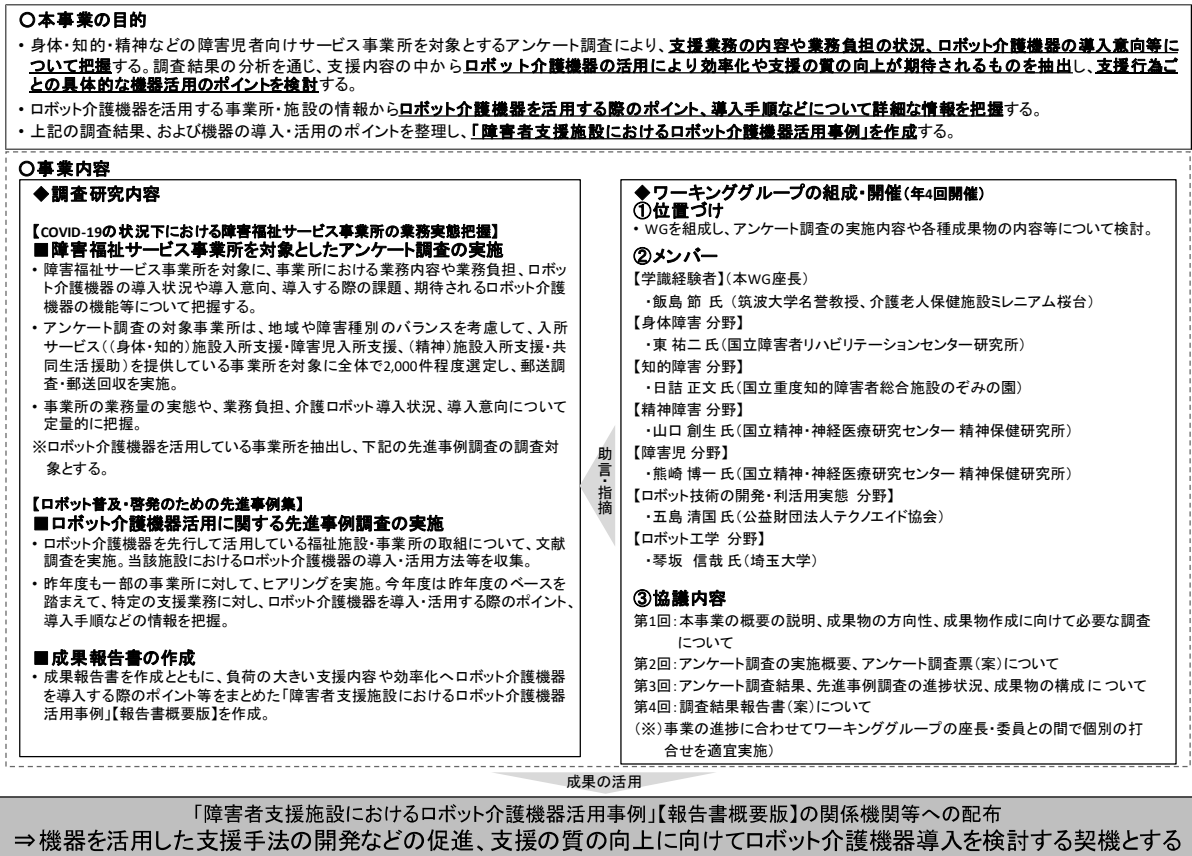
回	日時・会場	議題
第 1 回	【日時】 2020 年 8 月 13 日（木） 13 時 30 分～15 時 30 分 【場所】 オンライン開催	○ 委員事前ヒアリング結果の説明 ○ 本調査研究事業の方向性の変更について ○ 成果物の方向性について ○ 成果物の作成に向けて必要な調査について
第 2 回	【日時】 2020 年 10 月 12 日（月） 15 時 00 分～17 時 00 分 【場所】 オンライン開催	○ アンケート調査の実施概要について ○ アンケート調査票（案）について ○ スケジュールについて
第 3 回	【日時】 2021 年 1 月 21 日（木） 10 時 00 分～12 時 00 分 【場所】 オンライン開催	○ アンケート調査結果について ○ ヒアリング調査の進捗状況について ○ 成果物の構成について
第 4 回	【日時】 2021 年 3 月 22 日（月） 15 時 30 分～17 時 30 分 【場所】 オンライン開催	○ 調査結果報告書案について

※ 上記に加え、事業の進捗に合わせてワーキンググループの座長・委員との間で個別の打合せを適宜実施した。

(3) 本調査研究事業の全体像

○ 本調査研究事業の全体像は、下記のとおりである。

図表 1 本調査研究事業の全体像



（出所）浜銀総合研究所作成

2. アンケート調査結果

(1) アンケート調査の実施概要

- アンケート調査については、「施設票」と「職員票」の2種類の調査票を用いて、郵送配布、郵送回収により実施した。
- 調査実施期間は、2020年11月12日～2020年12月11日とした。
- 調査対象は独立行政法人福祉医療機構 WAMNET の全国の事業所データから 2,000 事業所を抽出した。内訳については、施設入所支援（約 1,100 事業所）、障害児入所支援（約 400 事業所）、共同生活援助（対精神障害者向け）（約 500 事業所）とし、地域別のバランスを考慮したうえで、抽出した。
- 調査方法については、調査対象となった施設に対して、「施設票」、「職員票」、「送付状」、「返信用封筒（2種類）」および（回答者にロボット介護機器を具体的にイメージして頂くことを目的として）「介護ロボットの開発支援の重点6分野」を郵送配布した。その後、回答して頂いた「施設票」と「職員票」を別々に郵送して頂き、回収した。
- 各調査票における回答対象者・調査項目・回収数は下表のとおりである。

図表 2 アンケート調査の実施概要

調査票	回答対象者	調査項目	回収数
施設票	施設入所支援、共同生活援助、障害児入所支援のいずれかのサービスを提供する施設・事業所の施設長	● 施設の状況について ● 施設の職員の業務や業務の負担感について（日勤・夜勤別） ● ロボット介護機器等の導入の可能性について ● ロボット介護機器等の現状について ● ロボット介護機器等の導入のプロセスについて ● ロボット介護機器等の導入促進に向けたご意見について ● 施設の人員体制等について	865 件 (回収率 43.3%)
職員票	施設票を配布した施設の中で、下記の条件を満たす常勤職員 1 名 ① 入所者・利用者に対する直接ケア業務に従事している方。(生活支援員等) ② 2020 年 10 月において日勤および夜勤・宿直のいずれの時間帯でも勤務をしている方。(夜勤や宿直がない施設・事業所の場合、②の条件は除外) ③ 貴施設での勤務年数が 3 年程度であり、施設内の一通りの業務に対応可能な方	● 回答者自身について ● 現在の業務について ● ロボット介護機器等について	826 件 (回収率 41.3%)

(2) アンケート調査結果

本節では、各設問について、主に障害種別¹とのクロス集計結果を掲載し、そこから得られた特徴について記載する。

1) 施設票の結果

①施設の状況について

a：施設を運営する法人の法人種別

施設を運営する法人の法人種別についてみると、全体では、「社会福祉法人(社協以外)」が79.1%と最も高かった。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では、「社会福祉法人(社協以外)」が9割以上であったのに対し、精神障害は「社会福祉法人(社協以外)」、「医療法人」、「特定非営利活動法人」がそれぞれ2割以上であった。

図表3 施設を運営する法人の法人種別（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
社会福祉法人（社協以外）	94.0%	96.8%	23.5%	75.7%	79.1%
社会福祉協議会	1.5%	0.5%	1.9%	1.5%	1.0%
医療法人	0.0%	0.0%	27.8%	0.0%	5.3%
特定非営利活動法人	0.0%	0.2%	22.8%	0.0%	4.5%
営利法人（株式会社など）	0.0%	0.7%	15.4%	0.0%	3.4%
国・都道府県・市町村	2.3%	1.0%	0.6%	16.2%	3.5%
その他	2.3%	0.7%	8.0%	6.6%	3.2%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

¹ 障害種別については以下のとおりに分類した。（以下同様）

- ・ 身体障害：施設が提供する入所系サービスの対象者のうち、最も多い入居者数・利用者数が「身体障害」である施設。
- ・ 知的障害：施設が提供する入所系サービスの対象者のうち、最も多い入居者数・利用者数が「知的障害」である施設。
- ・ 精神障害：施設が提供する入所系サービスの対象者のうち、最も多い入居者数・利用者数が「精神障害」である施設。
- ・ 障害児：入所系サービスの対象者の障害の多少にかかわらず、施設が提供している主な入所系サービスで「障害児入所支援（福祉型）」、あるいは「障害児入所支援（医療型）」と回答した施設。

b：施設が提供している主な入所系サービス

施設が提供している主な入所系サービスについてみると、全体では、「施設入所支援」が **60.8%**、「障害児入所支援（福祉型）」が **10.8%**、「障害児入所支援（医療型）」が **5.0%**、「共同生活援助」が **20.0%**であった。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「施設入所支援」、精神障害では「共同生活援助」がそれぞれ最も多かった。

図表 4 施設が提供している主な入所系サービス（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
施設入所支援	97.0%	92.4%	1.2%	0.0%	60.8%
障害児入所支援（福祉型）	0.0%	0.0%	0.0%	68.4%	10.8%
障害児入所支援（医療型）	0.0%	0.0%	0.0%	31.6%	5.0%
共同生活援助	0.0%	2.2%	98.8%	0.0%	20.0%
無回答	3.0%	5.4%	0.0%	0.0%	3.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

c：施設が提供する入所系サービスの対象者

施設が提供する入所系サービスの対象者についてみると、全体では、「知的障害」が **85.1%**と最も多く、以下、「精神障害」(**50.8%**)、「身体障害（肢体不自由・内部障害）」(**43.8%**)と続いた。

図表 5 施設が提供する入所系サービスの対象者（複数回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
身体障害（肢体不自由・内部障害）	96.2%	38.0%	8.0%	47.8%	43.8%
身体障害（視覚障害）	58.6%	22.9%	3.1%	13.2%	24.2%
身体障害（聴覚障害）	50.4%	20.7%	1.9%	12.5%	21.0%
知的障害	70.7%	100.0%	53.7%	90.4%	85.1%
精神障害	53.4%	40.2%	100.0%	14.7%	50.8%
難病	32.3%	4.9%	3.1%	10.3%	10.5%
発達障害	19.5%	26.3%	29.0%	41.9%	29.4%
高次脳機能障害	48.1%	6.3%	13.0%	3.7%	14.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.2%

d：施設の定員数（2020 年 10 月末時点）

施設の定員数（2020 年 10 月末時点）についてみると、全体では、「50～60 人未満」が 20.7%と最も多く、「40～50 人未満」（18.7%）、「30～40 人未満」（14.0%）と続いた。なお、1 施設あたりの平均定員数は 48.3 人であった。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「50～60 人未満」が最も多く、1 施設あたりの平均定員数は、身体障害が 51.9 人、知的障害が 57.5 人であった。他方、精神障害では「10 人未満」が最も多く、1 施設あたりの平均定員数が 17.5 人であった²。

図表 6 施設の定員数（2020 年 10 月末時点）（数値を記入）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
10人未満	0.0%	0.7%	37.0%	0.0%	7.4%
10～20人未満	1.5%	0.5%	21.0%	5.9%	5.4%
20～30人未満	1.5%	1.7%	24.7%	10.3%	7.4%
30～40人未満	14.3%	13.2%	10.5%	22.1%	14.0%
40～50人未満	24.1%	23.4%	3.1%	17.6%	18.7%
50～60人未満	36.8%	25.4%	1.2%	12.5%	20.7%
60～80人未満	10.5%	16.6%	1.2%	11.0%	11.8%
80～100人未満	7.5%	10.7%	0.0%	5.1%	7.3%
100人以上	3.8%	7.3%	0.0%	14.0%	6.5%
無回答	0.0%	0.5%	1.2%	1.5%	0.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平 均	51.9人	57.5人	17.5人	52.7人	48.3人
中 央 値	50.0人	50.0人	16.0人	40.0人	40.0人

e：施設の入所者・利用者数（2020 年 10 月末時点）

施設の入所者・利用者数（2020 年 10 月末時点）についてみると、全体では、「40～50 人未満」が 19.7%と最も多く、以下、「30～40 人未満」（16.5%）、「50～60 人未満」（13.6%）と続いた。なお、1 施設あたりの平均入所者・利用者数は 44.9 人であった。

障害種別にみると、「d：施設の定員数（2020 年 10 月末時点）」と同様に、精神障害は他の障害に比べて、入所者・利用者数が少なかった。

図表 7 施設の入所者・利用者数（2020 年 10 月末時点）（数値を記入）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
10人未満	0.0%	1.0%	45.1%	3.7%	9.7%
10～20人未満	3.8%	1.2%	24.7%	17.6%	8.7%
20～30人未満	4.5%	4.4%	19.8%	16.9%	9.1%
30～40人未満	21.8%	18.5%	4.3%	19.9%	16.5%
40～50人未満	27.1%	25.9%	1.9%	14.7%	19.7%
50～60人未満	24.8%	17.6%	1.9%	4.4%	13.6%
60～80人未満	11.3%	18.3%	1.2%	8.8%	12.4%
80～100人未満	3.0%	7.8%	0.0%	5.9%	5.3%
100人以上	3.0%	4.9%	0.0%	5.1%	3.8%
無回答	0.8%	0.5%	1.2%	2.9%	1.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平 均	48.9人	55.5人	15.3人	42.6人	44.9人
中 央 値	48.0人	49.0人	12.0人	34.0人	40.0人

² 精神障害は、他の障害と異なり、施設入所支援に比べて相対的に定員数が少ない共同生活援助が多いことから、入所系サービスによる影響が大きい点に留意が必要である。

f：入所者・利用者について、最も人数が多い年齢層

入所者・利用者について、最も人数が多い年齢層についてみると、全体では、「40歳以上 65歳未満」が68.1%と最も多かった。

障害種別にみると、障害児以外の全ての障害で「40歳以上 65歳未満」が最も多かった。

図表 8 入所者・利用者について、最も人数が多い年齢層（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
18歳未満	0.8%	0.5%	0.0%	74.3%	12.0%
18歳以上40歳未満	3.0%	10.0%	10.5%	12.5%	9.5%
40歳以上65歳未満	78.2%	80.0%	77.2%	11.0%	68.1%
65歳以上	15.8%	7.1%	7.4%	0.0%	7.4%
無回答	2.3%	2.4%	4.9%	2.2%	3.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

g：施設の全入所者・利用者に占める強度行動障害のある方の割合

施設の全入所者・利用者に占める強度行動障害のある方の割合についてみると、全体では、「いない」が35.6%と最も多く、以下、「3割未満」（34.0%）、「3割以上 5割未満」（11.8%）と続いた。

障害種別にみると、身体障害や精神障害では「いない」が最も多かった一方で、知的障害や障害児では「3割未満」が最も多かった。

なお、知的障害では「いない」が9.8%と他の障害に比べて回答割合が少なく、多くの施設で入所者・利用者の中に強度行動障害のある方が所在していることがうかがえた。

図表 9 施設の全入所者・利用者に占める強度行動障害のある方の割合（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
8割以上	0.0%	5.4%	1.2%	1.5%	3.1%
5割以上8割未満	1.5%	21.0%	0.0%	2.9%	11.3%
3割以上5割未満	3.0%	21.7%	0.0%	5.9%	11.8%
3割未満	34.6%	39.8%	3.1%	53.7%	34.0%
いない	57.9%	9.8%	87.7%	30.1%	35.6%
無回答	3.0%	2.4%	8.0%	5.9%	4.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

h：施設の全入所者・利用者に占める重症心身障害のある方の割合

施設の全入所者・利用者に占める重症心身障害のある方の割合についてみると、全体では、「いない」が57.8%と最も多く、以下、「3割未満」(22.7%)、「8割以上」(5.1%)と続いた。

障害種別にみると、身体障害では「3割未満」が最も多かった一方、知的障害や精神障害、障害児では「いない」が最も多かった。なお、障害児では「8割以上」が19.1%となっており、約5施設のうち1施設は入所者・利用者に占める重症心身障害のある方の割合が非常に高いことがうかがえた。

図表 10 施設の全入所者・利用者に占める重症心身障害のある方の割合（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
8割以上	4.5%	2.9%	0.0%	19.1%	5.1%
5割以上8割未満	10.5%	2.7%	0.0%	10.3%	4.7%
3割以上5割未満	10.5%	2.9%	1.9%	2.2%	3.8%
3割未満	40.6%	27.8%	5.6%	9.6%	22.7%
いない	30.8%	58.0%	84.0%	53.7%	57.8%
無回答	3.0%	5.6%	8.6%	5.1%	5.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

i：施設の全入所者・利用者に占める（重症心身障害のある方を除いた）医療的ケアを要する方の割合

施設の全入所者・利用者に占める（重症心身障害のある方を除いた）医療的ケアを要する方の割合についてみると、全体では、「いない」が62.5%と最も多く、次いで、「3割未満」が22.4%となっていた。

障害種別にみると、身体障害では「3割未満」が最も多かった一方、知的障害や精神障害、障害児では「いない」が最も多かった。

図表 11 施設の全入所者・利用者に占める
（重症心身障害のある方を除いた）医療的ケアを要する方の割合（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
8割以上	3.0%	1.0%	5.6%	3.7%	2.7%
5割以上8割未満	4.5%	2.0%	0.6%	3.7%	2.3%
3割以上5割未満	11.3%	1.5%	0.6%	2.2%	3.1%
3割未満	52.6%	22.7%	4.3%	14.0%	22.4%
いない	26.3%	66.1%	80.9%	68.4%	62.5%
無回答	2.3%	6.8%	8.0%	8.1%	6.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②施設の職員の業務について

a：施設の職員が日勤時に従事している業務

施設の職員が日勤時に従事している業務についてみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が 97.5%と最も多く、以下、「健康管理」（96.5%）、「日常生活支援」（94.8%）、「安心・安全対策」（94.3%）、「面談・苦情対応」（94.0%）と続いた。また、他の業務についても、5割以上が従事しているとの回答であった。

障害種別にみると、「間接業務（利用者に関係すること）」や「面談、苦情対応」、「間接業務（職員や法人に関すること）」は全ての障害で 9 割以上、「日常生活支援」や「健康管理」、「安心・安全対策」は 8 割以上であった。

他方、「食事」や「入浴」、「排泄」については、身体障害や知的障害では 9 割以上であるのに対し、精神障害ではいずれの業務も 5 割未満となっており、精神障害は他の障害に比べて傾向が異なっていることがうかがえた。

図表 12 施設の職員が日勤時に従事している業務（複数回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
間接業務（利用者に関係すること）	98.5%	99.0%	93.2%	97.1%	97.5%
健康管理	99.2%	98.8%	88.9%	97.8%	96.5%
日常生活支援	97.0%	98.3%	87.7%	91.9%	94.8%
安心・安全対策	99.2%	96.8%	85.2%	94.1%	94.3%
面談、苦情対応	97.0%	94.1%	90.1%	96.3%	94.0%
間接業務（職員や法人に関係すること）	94.7%	94.9%	90.7%	94.9%	93.9%
食事	97.7%	98.8%	44.4%	97.1%	87.7%
社会生活支援	93.2%	95.1%	49.4%	89.7%	85.0%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	95.5%	90.5%	56.2%	86.0%	83.9%
入浴	97.7%	98.0%	24.1%	94.9%	83.2%
排泄	97.0%	97.1%	15.4%	95.6%	81.2%
行動障害への対応	75.2%	96.6%	41.4%	84.6%	80.7%
清拭・身体整容等	94.7%	95.9%	13.6%	91.9%	79.3%
移乗・移動	97.0%	85.9%	5.6%	55.9%	67.4%
機能訓練	88.0%	79.3%	16.0%	66.9%	66.6%
姿勢保持	94.0%	78.3%	3.1%	47.8%	61.7%
体位変換	92.5%	69.5%	4.3%	47.8%	57.7%
無回答	0.8%	0.5%	1.9%	2.2%	1.2%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い 3 項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

b：日勤時に従事している業務のうち、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務

日勤時に従事している業務のうち、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務についてみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が**56.4%**と最も多く、以下、「入浴」（53.1%）、「食事」（49.1%）、「排泄」（45.1%）、「行動障害への対応」（37.3%）と続いた。

障害種別にみると、知的障害、障害児では、「間接業務（利用者に関係すること）」や「入浴」、「食事」等が多かった一方で、精神障害では「間接業務（利用者に関係すること）」や「間接業務（職員や法人に関係すること）」、「日常生活支援」が多かった。

**図表 13 日勤時に従事している業務のうち、
職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務（複数回答）**

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
間接業務（利用者に関係すること）	63.9%	63.9%	32.5%	56.7%	56.4%
入浴	82.0%	65.4%	3.8%	47.0%	53.1%
食事	69.2%	60.0%	10.0%	45.5%	49.1%
排泄	70.7%	55.1%	1.3%	42.5%	45.1%
行動障害への対応	22.6%	54.1%	6.3%	36.6%	37.3%
間接業務（職員や法人に関係すること）	37.6%	37.3%	19.4%	38.1%	33.9%
健康管理	39.1%	36.8%	15.6%	35.1%	32.8%
清拭・身体整容等	27.8%	46.3%	0.6%	28.4%	31.8%
日常生活支援	32.3%	39.5%	19.4%	23.9%	31.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	25.6%	30.0%	11.3%	35.1%	26.4%
移乗・移動	45.1%	18.0%	1.3%	21.6%	19.7%
安心・安全対策	15.0%	23.4%	7.5%	23.1%	19.0%
社会生活支援	19.5%	21.7%	5.6%	18.7%	17.9%
面談、苦情対応	17.3%	11.7%	17.5%	17.9%	14.4%
機能訓練	17.3%	13.4%	0.6%	11.2%	11.1%
体位変換	21.8%	6.1%	0.0%	11.2%	8.2%
姿勢保持	16.5%	6.3%	0.0%	9.0%	7.2%
無回答	6.8%	9.8%	51.3%	15.7%	18.6%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い**3項目**に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

ｃ：日勤時に従事している業務のうち、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務

日勤時に従事している業務のうち、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務についてみると、全体では、「入浴」が71.0%と最も多く、以下、「排泄」(60.7%)、「移乗・移動」(47.7%)、「行動障害への対応」(37.7%)、「体位変換」(22.5%)と続いた。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「入浴」や「排泄」が上位3項目に入っていた。また、身体障害では「移乗・移動」や「体位変換」が他の障害に比べて、回答が多かったほか、知的障害や障害児では「行動障害への対応」が5割以上であった。

他方、精神障害では他の障害と傾向が異なり、「日常生活支援」や「安心・安全対策」が上位3項目に入っていた。

図表 14 日勤時に従事している業務のうち、
職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務（複数回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
入浴	91.0%	88.8%	9.9%	70.6%	71.0%
排泄	86.5%	75.4%	6.2%	55.9%	60.7%
移乗・移動	83.5%	58.0%	1.9%	36.0%	47.7%
行動障害への対応	16.5%	51.7%	6.8%	55.1%	37.7%
体位変換	45.1%	23.4%	1.2%	22.8%	22.5%
清拭・身体整容等	18.0%	27.3%	2.5%	16.2%	20.0%
間接業務（利用者に関係すること）	9.8%	18.0%	10.5%	16.2%	15.3%
姿勢保持	21.1%	18.0%	0.0%	14.0%	14.6%
食事	15.0%	18.3%	5.6%	11.8%	14.6%
安心・安全対策	9.8%	12.7%	13.0%	16.9%	13.2%
日常生活支援	6.8%	11.5%	21.6%	7.4%	11.9%
健康管理	9.0%	11.5%	8.0%	5.9%	9.6%
社会生活支援	6.0%	10.7%	4.3%	9.6%	8.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	9.0%	7.3%	6.8%	7.4%	7.7%
機能訓練	8.3%	9.0%	0.6%	5.9%	6.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	4.5%	6.3%	3.7%	8.8%	5.9%
面談、苦情対応	3.0%	3.9%	5.6%	6.6%	4.5%
無回答	1.5%	2.9%	54.3%	4.4%	13.1%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

d：日勤時に従事している業務のうち、職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務

日勤時に従事している業務のうち、職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務についてみると、全体では、「行動障害への対応」が**66.8%**と最も多く、以下、「面談、苦情対応」(52.6%)、「間接業務(利用者に関係すること)」(41.3%)、「安心・安全対策」(40.6%)、「健康管理」(33.1%)と続いた。

障害種別にみると、身体障害では6割以上、知的障害では8割以上、障害児では7割以上が「行動障害への対応」と回答していた。他方、精神障害は「面談、苦情対応」が**45.1%**と最も多かった。

図表 15 日勤時に従事している業務のうち、
職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務（複数回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
行動障害への対応	61.7%	83.7%	25.9%	70.6%	66.8%
面談、苦情対応	65.4%	47.6%	45.1%	65.4%	52.6%
間接業務（利用者に関係すること）	45.1%	47.1%	28.4%	38.2%	41.3%
安心・安全対策	45.9%	44.4%	25.9%	40.4%	40.6%
健康管理	32.3%	40.5%	15.4%	33.1%	33.1%
入浴	48.9%	42.0%	1.2%	23.5%	32.1%
排泄	48.1%	42.2%	3.7%	22.1%	32.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	30.1%	30.0%	20.4%	29.4%	28.2%
間接業務（職員や法人に関係すること）	30.1%	31.0%	15.4%	25.7%	27.1%
食事	37.6%	31.5%	4.9%	23.5%	26.1%
日常生活支援	23.3%	19.0%	21.0%	10.3%	18.2%
移乗・移動	27.1%	17.3%	0.6%	8.8%	14.0%
清拭・身体整容等	13.5%	16.6%	0.6%	7.4%	11.7%
社会生活支援	8.3%	9.5%	4.3%	2.9%	7.2%
体位変換	9.8%	5.4%	0.0%	2.2%	4.7%
機能訓練	3.0%	6.3%	0.0%	5.1%	4.6%
姿勢保持	3.8%	5.9%	0.0%	3.7%	4.0%
無回答	2.3%	2.2%	23.5%	3.7%	6.9%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

e：日勤時に従事している業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務

日勤時に従事している業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務についてみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が61.6%と最も多く、以下、「間接業務（職員や法人に関係すること）」（48.7%）、「入浴」（42.0%）、「移乗・移動」（33.3%）、「排泄」（26.4%）と続いた。

障害種別にみると、身体障害では「移乗・移動」が最も多く、知的障害や精神障害、障害児では「間接業務（利用者に関係すること）」が最も多かった。また、「間接業務（職員や法人に関係すること）」についても、身体障害以外の全ての障害で上位3項目に入っていた。

図表 16 日勤時に従事している業務のうち、
効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務（複数回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
間接業務（利用者に関係すること）	66.2%	69.3%	38.9%	63.2%	61.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	47.4%	53.9%	34.0%	52.2%	48.7%
入浴	63.9%	54.6%	3.7%	28.7%	42.0%
移乗・移動	69.2%	36.1%	0.0%	28.7%	33.3%
排泄	51.9%	30.5%	0.6%	18.4%	26.4%
安心・安全対策	29.3%	26.6%	13.6%	22.1%	23.9%
健康管理	26.3%	27.3%	13.0%	22.8%	23.8%
日常生活支援	20.3%	22.4%	19.1%	19.1%	20.5%
行動障害への対応	17.3%	21.2%	4.9%	19.1%	17.2%
体位変換	33.8%	16.6%	0.6%	15.4%	16.2%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	12.8%	11.7%	4.9%	14.7%	11.1%
食事	15.8%	11.5%	7.4%	9.6%	11.0%
姿勢保持	18.8%	12.4%	0.6%	9.6%	10.5%
清拭・身体整容等	12.0%	9.5%	0.6%	3.7%	7.5%
社会生活支援	9.0%	8.8%	1.9%	8.1%	7.3%
機能訓練	11.3%	9.5%	0.0%	3.7%	6.8%
面談、苦情対応	8.3%	5.6%	5.6%	4.4%	5.7%
無回答	2.3%	4.1%	45.1%	12.5%	13.5%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

f：日勤時の業務の中で、職員の身体への負担が特に大きい業務

日勤時の業務の中で、職員の身体への負担が特に大きい業務についてみると、全体では「入浴」が 37.0%と最も多く、以下、「移乗・移動」(14.5%)、「行動障害への対応」(12.9%)、「排泄」(10.3%)と続いた。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「入浴」、障害児では「行動障害への対応」が最も多かった³。

図表 17 日勤時の業務の中で、職員の身体への負担が特に大きい業務（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
入浴	47.4%	48.8%	6.2%	29.4%	37.0%
移乗・移動	29.3%	14.4%	0.6%	15.4%	14.5%
行動障害への対応	0.0%	13.2%	4.9%	34.6%	12.9%
排泄	17.3%	12.4%	0.6%	8.8%	10.3%
日常生活支援	0.0%	0.7%	9.9%	0.0%	2.2%
食事	0.8%	1.5%	3.7%	0.0%	1.5%
間接業務（利用者に関係すること）	0.0%	0.5%	3.7%	1.5%	1.3%
体位変換	2.3%	0.5%	0.6%	2.9%	1.2%
安心・安全対策	0.0%	0.0%	4.9%	0.7%	1.0%
清拭・身体整容等	0.0%	0.7%	1.9%	0.0%	0.7%
健康管理	0.0%	0.7%	1.2%	0.0%	0.6%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	0.8%	0.0%	1.2%	0.7%	0.5%
社会生活支援	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.5%
面談、苦情対応	0.0%	0.2%	1.9%	0.0%	0.5%
機能訓練	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
姿勢保持	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
間接業務（職員や法人に関係すること）	0.0%	0.0%	1.2%	0.7%	0.3%
無回答	1.5%	5.4%	57.4%	5.1%	15.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

³ 精神障害については、「無回答」の割合が多い点に留意が必要である。

g：日勤時の業務の中で、職員が精神的にストレスを感じる事が特に大きい業務

日勤時の業務の中で、職員が精神的にストレスを感じる事が特に大きい業務についてみると、全体では、「行動障害への対応」が40.9%と最も多く、以下、「面談、苦情対応」（13.2%）、「安心・安全対策」（7.4%）と続いた。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「行動障害への対応」、精神障害では「面談、苦情対応」がそれぞれ最も多かった。

図表 18 日勤時の業務の中で、職員が精神的にストレスを感じる事が特に大きい業務
(単一回答)

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
行動障害への対応	28.6%	53.7%	12.3%	49.3%	40.9%
面談、苦情対応	18.8%	7.1%	18.5%	19.1%	13.2%
安心・安全対策	6.0%	8.3%	8.0%	5.1%	7.4%
間接業務（利用者に関係すること）	6.8%	4.4%	6.8%	3.7%	5.0%
健康管理	5.3%	4.6%	3.7%	4.4%	4.5%
入浴	6.8%	4.6%	0.6%	5.9%	4.3%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	5.3%	2.4%	8.0%	2.9%	4.2%
排泄	6.8%	4.6%	0.6%	0.7%	3.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	3.0%	1.7%	4.3%	1.5%	2.3%
食事	3.0%	2.4%	1.2%	1.5%	2.1%
日常生活支援	1.5%	0.7%	6.2%	0.7%	1.8%
移乗・移動	4.5%	0.0%	0.0%	0.7%	0.8%
清拭・身体整容等	0.8%	1.0%	0.0%	0.0%	0.6%
姿勢保持	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%
社会生活支援	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
体位変換	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
機能訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	2.3%	4.1%	29.6%	4.4%	9.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

h：日勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務

日勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務についてみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が30.2%と最も多く、以下、「入浴」（14.5%）、「移乗・移動」（10.8%）、「間接業務（職員や法人に関係すること）」（10.5%）と続いた。

障害種別にみると、身体障害では「移乗・移動」、知的障害や精神障害、障害児では「間接業務（利用者に関係すること）」がそれぞれ最も多かった。

図表 19 日勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務
(単一回答)

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
間接業務（利用者に関係すること）	24.1%	33.9%	24.7%	32.4%	30.2%
入浴	17.3%	19.5%	3.1%	11.0%	14.5%
移乗・移動	30.1%	8.0%	0.0%	12.5%	10.8%
間接業務（職員や法人に関係すること）	8.3%	11.5%	9.3%	11.8%	10.5%
安心・安全対策	4.5%	2.4%	2.5%	5.9%	3.4%
行動障害への対応	0.8%	4.9%	1.2%	2.9%	3.2%
排泄	6.0%	2.0%	0.0%	2.2%	2.3%
健康管理	0.8%	3.4%	2.5%	0.7%	2.3%
日常生活支援	0.8%	2.0%	3.7%	2.2%	2.1%
食事	0.0%	1.0%	3.1%	0.0%	1.2%
体位変換	0.0%	1.5%	0.0%	2.2%	1.0%
姿勢保持	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.6%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	1.5%	0.0%	0.6%	1.5%	0.6%
面談、苦情対応	0.0%	0.7%	0.6%	0.7%	0.6%
清拭・身体整容等	0.0%	0.7%	0.0%	0.0%	0.3%
社会生活支援	0.8%	0.2%	0.0%	0.7%	0.3%
機能訓練	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
無回答	4.5%	7.1%	48.8%	13.2%	16.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

i：日勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務

日勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務についてみると、全体では、「健康管理」が46.7%と最も多く、以下、「行動障害への対応」（6.1%）、「面談、苦情対応」（5.8%）と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で「健康管理」が最も多かった。

図表 20 日勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、
（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
健康管理	45.1%	50.2%	37.0%	47.8%	46.7%
行動障害への対応	3.0%	8.8%	1.9%	7.4%	6.1%
面談、苦情対応	9.0%	3.4%	3.7%	11.8%	5.8%
清拭・身体整容等	6.0%	6.8%	0.6%	4.4%	5.0%
食事	6.8%	5.1%	3.1%	2.9%	4.6%
間接業務（利用者に関係すること）	5.3%	3.4%	3.1%	6.6%	4.2%
日常生活支援	4.5%	2.4%	3.7%	0.7%	2.7%
安心・安全対策	0.8%	2.9%	4.3%	1.5%	2.5%
社会生活支援	3.0%	2.9%	1.9%	1.5%	2.4%
入浴	3.8%	2.7%	0.0%	1.5%	2.1%
間接業務（職員や法人に関係すること）	3.0%	1.5%	2.5%	1.5%	2.0%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	3.8%	1.0%	3.1%	1.5%	1.8%
排泄	0.8%	0.7%	0.0%	1.5%	0.7%
移乗・移動	0.0%	0.5%	0.0%	0.7%	0.3%
体位変換	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.1%
姿勢保持	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%
機能訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	5.3%	7.3%	34.6%	8.8%	12.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

j：施設における、職員の夜勤（午後10時～午前5時の時間帯）・宿直体制の有無

施設における、職員の夜勤（午後10時～午前5時の時間帯）・宿直体制の有無についてみると、全体では、「夜勤・宿直体制あり」が85.0%であった。

障害種別にみると、精神障害では「夜勤・宿直体制なし」が「夜勤・宿直体制あり」を上回った。

図表 21 施設における、職員の夜勤（午後10時～午前5時の時間帯）・宿直体制の有無
（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
夜勤・宿直体制あり	97.7%	97.3%	34.0%	97.1%	85.0%
夜勤・宿直体制なし	2.3%	2.4%	65.4%	2.9%	14.7%
無回答	0.0%	0.2%	0.6%	0.0%	0.3%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

k：施設の職員が夜勤時に従事している業務

施設の職員が夜勤時に従事している業務についてみると、全体では、「安心・安全対策」が**98.0%**と最も多く、以下、「排泄」(**90.1%**)、「健康管理」(**88.7%**)、「間接業務（利用者に関係すること）」(**87.2%**)、「行動障害への対応」(**81.9%**)と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で「安心・安全対策」が最も多かった。他の業務についてみると、精神障害以外の全ての障害で「排泄」が上位3項目に入っていたほか、「間接業務（利用者に関係すること）」も8割以上であった。

他方、精神障害については、「健康管理」や「間接業務（利用者に関係すること）」が上位3項目に入っているが、他の障害に比べるといずれも回答割合が低かった。

図表 22 施設の職員が夜勤時に従事している業務（複数回答）

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
安心・安全対策	99.2%	98.7%	87.3%	98.5%	98.0%
排泄	95.4%	97.0%	21.8%	90.9%	90.1%
健康管理	90.8%	92.2%	54.5%	89.4%	88.7%
間接業務（利用者に関係すること）	86.2%	90.7%	52.7%	90.2%	87.2%
行動障害への対応	69.2%	91.5%	41.8%	80.3%	81.9%
体位変換	93.1%	76.4%	9.1%	40.9%	68.2%
移乗・移動	86.2%	74.2%	7.3%	30.3%	63.5%
間接業務（職員や法人に関係すること）	55.4%	64.7%	38.2%	64.4%	61.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	57.7%	64.2%	36.4%	48.5%	58.1%
清拭・身体整容等	62.3%	65.7%	9.1%	43.2%	57.1%
姿勢保持	70.8%	59.9%	1.8%	22.0%	51.0%
食事	38.5%	43.1%	23.6%	35.6%	39.5%
日常生活支援	32.3%	44.6%	23.6%	33.3%	38.9%
面談、苦情対応	30.8%	30.1%	32.7%	25.0%	29.5%
入浴	15.4%	28.6%	9.1%	22.0%	23.8%
社会生活支援	10.8%	17.5%	7.3%	15.2%	15.2%
機能訓練	5.4%	11.8%	1.8%	7.6%	9.3%
無回答	0.8%	0.3%	10.9%	0.8%	1.2%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

Ⅰ：夜勤時に従事している業務のうち、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務

夜勤時に従事している業務のうち、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務についてみると、全体では、「排泄」が51.7%と最も多く、以下、「間接業務（利用者に関係すること）」（39.3%）、「安心・安全対策」（38.8%）、「行動障害への対応」（34.6%）と続いた。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「排泄」が5割以上であった。また、身体障害では「移乗・移動」や「体位変換」が3割以上、知的障害では「行動障害への対応」が4割以上とそれぞれ他の障害に比べて高かった。

**図表 23 夜勤時に従事している業務のうち、
職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務（複数回答）**

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
排泄	73.8%	57.6%	1.8%	32.6%	51.7%
間接業務（利用者に関係すること）	33.8%	45.6%	7.3%	37.9%	39.3%
安心・安全対策	40.8%	44.4%	7.3%	33.3%	38.8%
行動障害への対応	13.8%	47.6%	1.8%	28.0%	34.6%
健康管理	25.4%	28.6%	3.6%	29.5%	26.3%
間接業務（職員や法人に関係すること）	13.1%	23.6%	3.6%	24.2%	20.4%
清拭・身体整容等	22.3%	24.3%	1.8%	10.6%	19.7%
移乗・移動	33.8%	20.1%	0.0%	6.8%	19.0%
食事	16.9%	22.3%	1.8%	13.6%	18.1%
体位変換	33.1%	10.8%	0.0%	14.4%	14.8%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	10.0%	16.5%	1.8%	8.3%	12.9%
日常生活支援	6.2%	10.5%	1.8%	4.5%	8.0%
入浴	3.8%	7.3%	0.0%	6.1%	6.0%
姿勢保持	6.2%	5.8%	0.0%	4.5%	5.3%
面談、苦情対応	3.8%	3.5%	3.6%	3.0%	3.5%
社会生活支援	0.8%	3.0%	0.0%	3.0%	2.4%
機能訓練	0.8%	3.0%	0.0%	0.8%	2.0%
無回答	13.1%	17.3%	78.2%	31.8%	23.8%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

m：夜勤時に従事している業務のうち、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務

夜勤時に従事している業務のうち、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務についてみると、全体では、「排泄」が70.7%と最も多く、以下、「移乗・移動」(42.7%)、「行動障害への対応」(40.1%)と続いた。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「排泄」が5割以上であり、最も多かった。また、身体障害では「移乗・移動」や「体位変換」も5割以上であり、他の障害に比べて高かった。

図表 24 夜勤時に従事している業務のうち、
職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務（複数回答）

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
排泄	83.1%	78.4%	10.9%	58.3%	70.7%
移乗・移動	63.1%	48.6%	0.0%	20.5%	42.7%
行動障害への対応	16.2%	48.9%	12.7%	47.7%	40.1%
体位変換	58.5%	33.6%	0.0%	25.0%	34.0%
安心・安全対策	36.2%	31.3%	21.8%	31.8%	32.1%
清拭・身体整容等	16.2%	22.3%	3.6%	12.9%	18.1%
間接業務（利用者に関係すること）	9.2%	15.3%	3.6%	15.9%	13.2%
健康管理	10.8%	14.0%	5.5%	15.2%	12.9%
姿勢保持	12.3%	14.5%	0.0%	7.6%	11.7%
入浴	6.2%	15.0%	1.8%	9.8%	11.7%
食事	9.2%	11.3%	1.8%	5.3%	9.4%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	2.3%	6.3%	3.6%	5.3%	5.2%
間接業務（職員や法人に関係すること）	3.8%	5.0%	0.0%	8.3%	4.9%
日常生活支援	0.8%	5.3%	1.8%	4.5%	3.9%
面談、苦情対応	2.3%	2.3%	5.5%	5.3%	3.0%
社会生活支援	0.8%	1.5%	1.8%	2.3%	1.5%
機能訓練	0.8%	1.8%	0.0%	0.8%	1.4%
無回答	3.8%	6.0%	60.0%	7.6%	9.8%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

n：夜勤時に従事している業務のうち、職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務
 夜勤時に従事している業務のうち、職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務についてみると、全体では、「行動障害への対応」が65.2%と最も多く、以下、「安心・安全対策」(60.3%)、「排泄」(41.5%)、「健康管理」(35.9%)、「間接業務（利用者に関係すること）」(31.7%)と続いた。

障害種別にみると、全ての障害において、「行動障害への対応」や「安心・安全対策」が上位3項目に入っていた。また、身体障害では「排泄」が5割以上であった。他方、精神障害では、「日常生活支援」や「面談、苦情対応」が他の障害に比べて高かった。

図表 25 夜勤時に従事している業務のうち、
職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務（複数回答）

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
行動障害への対応	47.7%	76.2%	23.6%	63.6%	65.2%
安心・安全対策	65.4%	63.7%	29.1%	58.3%	60.3%
排泄	53.1%	48.9%	7.3%	22.7%	41.5%
健康管理	36.2%	37.6%	16.4%	39.4%	35.9%
間接業務（利用者に関係すること）	28.5%	36.6%	9.1%	27.3%	31.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	13.8%	21.6%	10.9%	15.9%	18.5%
間接業務（職員や法人に関係すること）	15.4%	16.3%	3.6%	16.7%	15.5%
面談、苦情対応	16.9%	12.0%	20.0%	19.7%	15.0%
移乗・移動	22.3%	15.3%	0.0%	3.8%	13.1%
体位変換	18.5%	7.3%	0.0%	3.8%	8.0%
食事	6.2%	9.8%	0.0%	6.8%	7.9%
清拭・身体整容等	7.7%	9.5%	0.0%	1.5%	7.2%
日常生活支援	1.5%	5.5%	7.3%	3.0%	4.6%
入浴	2.3%	6.3%	0.0%	1.5%	4.5%
姿勢保持	3.1%	4.8%	0.0%	0.8%	3.4%
社会生活支援	0.8%	2.0%	1.8%	0.8%	1.9%
機能訓練	0.0%	0.5%	0.0%	1.5%	0.8%
無回答	4.6%	4.5%	45.5%	9.8%	8.4%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

○：夜勤時に従事している業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務
 夜勤時に従事している業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務についてみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が**52.8%**と最も多く、以下、「安心・安全対策」（**34.1%**）、「排泄」（**30.7%**）、「間接業務（職員や法人に関係すること）」（**30.2%**）と続いた。

障害種別にみると、身体障害では「間接業務（利用者に関係すること）」と「移乗・移動」、知的障害、精神障害では「間接業務（利用者に関係すること）」、障害児では「安心・安全対策」と「排泄」がそれぞれ最も多かった。

図表 26 夜勤時に従事している業務のうち、
 効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務（複数回答）

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
間接業務（利用者に関係すること）	49.2%	57.9%	20.0%	33.3%	52.8%
安心・安全対策	36.9%	37.8%	16.4%	66.7%	34.1%
排泄	46.9%	34.8%	3.6%	66.7%	30.7%
間接業務（職員や法人に関係すること）	22.3%	32.8%	9.1%	0.0%	30.2%
移乗・移動	49.2%	27.8%	1.8%	0.0%	26.9%
健康管理	25.4%	25.1%	9.1%	0.0%	24.1%
体位変換	40.0%	17.8%	1.8%	33.3%	19.9%
行動障害への対応	8.5%	19.0%	10.9%	0.0%	16.5%
姿勢保持	11.5%	8.3%	1.8%	0.0%	7.8%
入浴	4.6%	11.0%	1.8%	0.0%	7.8%
清拭・身体整容等	6.2%	9.8%	1.8%	0.0%	7.3%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	6.2%	7.8%	9.1%	0.0%	7.3%
日常生活支援	0.8%	8.5%	5.5%	0.0%	6.0%
食事	5.4%	6.3%	5.5%	0.0%	5.7%
面談、苦情対応	5.4%	2.3%	5.5%	0.0%	3.7%
社会生活支援	0.8%	2.0%	0.0%	0.0%	2.0%
機能訓練	1.5%	0.8%	0.0%	0.0%	1.0%
無回答	10.8%	11.5%	67.3%	33.3%	17.6%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

p：夜勤時の業務の中で、職員の身体への負担が特に大きい業務

夜勤時の業務の中で、職員の身体への負担が特に大きい業務についてみると、全体では、「排泄」が 36.3%と最も多く、以下、「行動障害への対応」（17.3%）、「移乗・移動」（13.6%）と続いた。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「排泄」、精神障害では「安心・安全対策」、障害児では「行動障害への対応」がそれぞれ最も多かった。

図表 27 夜勤時の業務の中で、職員の身体への負担が特に大きい業務（単一回答）

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
排泄	48.5%	39.8%	7.3%	24.2%	36.3%
行動障害への対応	2.3%	19.0%	9.1%	30.3%	17.3%
移乗・移動	22.3%	14.0%	0.0%	6.8%	13.6%
安心・安全対策	3.8%	5.5%	12.7%	6.8%	5.9%
体位変換	13.1%	2.5%	0.0%	6.1%	4.9%
入浴	0.0%	5.5%	0.0%	4.5%	3.8%
清拭・身体整容等	3.1%	1.5%	1.8%	2.3%	1.9%
健康管理	0.0%	1.0%	0.0%	3.8%	1.2%
間接業務（利用者に関係すること）	0.0%	1.0%	1.8%	2.3%	1.1%
食事	0.8%	1.0%	1.8%	0.0%	0.8%
姿勢保持	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.5%
面談、苦情対応	0.0%	0.0%	5.5%	0.8%	0.5%
日常生活支援	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.3%
間接業務（職員や法人に関係すること）	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.1%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
機能訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
社会生活支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	5.4%	8.3%	60.0%	9.8%	11.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い 3 項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

q：夜勤時の業務の中で、職員が精神的にストレスを感じる事が特に大きい業務

夜勤時の業務の中で、職員が精神的にストレスを感じる事が特に大きい業務についてみると、全体では、「行動障害への対応」が 38.9%と最も多く、以下、「安心・安全対策」(21.1%)、「排泄」(8.8%)と続いた。

障害種別にみると、身体障害や精神障害では「安心・安全対策」、知的障害や障害児では「行動障害への対応」がそれぞれ最も多かった。

図表 28 夜勤時の業務の中で、職員が精神的にストレスを感じる事が特に大きい業務
(単一回答)

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
行動障害への対応	18.5%	47.1%	12.7%	44.7%	38.9%
安心・安全対策	22.3%	22.6%	14.5%	19.7%	21.1%
排泄	20.8%	7.5%	5.5%	2.3%	8.8%
健康管理	11.5%	6.5%	3.6%	11.4%	7.9%
間接業務（利用者に関係すること）	2.3%	3.5%	7.3%	2.3%	3.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	6.2%	1.8%	1.8%	1.5%	2.9%
面談、苦情対応	3.1%	1.0%	9.1%	3.0%	2.3%
移乗・移動	4.6%	0.3%	0.0%	0.8%	1.1%
清拭・身体整容等	0.8%	0.8%	0.0%	0.8%	0.7%
間接業務（職員や法人に関係すること）	0.8%	0.5%	0.0%	1.5%	0.7%
体位変換	2.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%
食事	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%	0.5%
入浴	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.4%
姿勢保持	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
日常生活支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
機能訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
社会生活支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6.9%	7.0%	45.5%	11.4%	10.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

r：夜勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務

夜勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務についてみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が 26.1%と最も多く、以下、「安心・安全対策」（11.8%）、「移乗・移動」（11.6%）と続いた。

障害種別にみると、身体障害では「移乗・移動」が最も多かった一方、知的障害や精神障害、障害児では「間接業務（利用者に関係すること）」が最も多かった。

図表 29 夜勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務
(単一回答)

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
間接業務（利用者に関係すること）	19.2%	28.6%	10.9%	30.3%	26.1%
安心・安全対策	10.8%	13.3%	9.1%	10.6%	11.8%
移乗・移動	24.6%	10.5%	0.0%	6.8%	11.6%
排泄	16.2%	9.3%	1.8%	7.6%	9.7%
間接業務（職員や法人に関係すること）	4.6%	5.5%	1.8%	9.1%	5.6%
行動障害への対応	0.8%	7.3%	3.6%	5.3%	5.4%
体位変換	6.9%	2.5%	0.0%	3.8%	3.3%
健康管理	1.5%	3.5%	0.0%	1.5%	2.6%
入浴	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	1.8%
食事	0.8%	0.5%	1.8%	0.8%	0.8%
清拭・身体整容等	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%	0.5%
面談、苦情対応	0.0%	0.5%	1.8%	0.0%	0.4%
日常生活支援	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.3%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	0.0%	0.3%	1.8%	0.0%	0.3%
姿勢保持	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
社会生活支援	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
機能訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	14.6%	13.8%	67.3%	22.0%	19.6%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

s：夜勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務

夜勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務についてみると、全体では、「健康管理」（43.7%）が最も多く、以下、「安心・安全対策」（10.2%）、「行動障害への対応」（6.9%）と続いた。

図表 30 夜勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、
（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務（単一回答）

	身体障害 n=130	知的障害 n=399	精神障害 n=55	障害児 n=132	全体 n=735
健康管理	40.8%	46.9%	20.0%	44.7%	43.7%
安心・安全対策	13.1%	9.3%	9.1%	10.6%	10.2%
行動障害への対応	2.3%	9.0%	3.6%	7.6%	6.9%
間接業務（利用者に関係すること）	3.1%	5.0%	3.6%	5.3%	4.8%
清拭・身体整容等	0.8%	3.8%	0.0%	0.8%	2.3%
面談、苦情対応	5.4%	1.3%	3.6%	2.3%	2.3%
食事	5.4%	1.8%	0.0%	1.5%	2.2%
排泄	2.3%	2.0%	0.0%	2.3%	2.0%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	2.3%	0.8%	1.8%	0.8%	1.1%
間接業務（職員や法人に関係すること）	0.8%	1.0%	0.0%	2.3%	1.1%
移乗・移動	0.8%	0.5%	0.0%	1.5%	0.7%
日常生活支援	0.0%	0.5%	1.8%	0.8%	0.5%
社会生活支援	0.8%	0.5%	0.0%	0.0%	0.4%
体位変換	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
入浴	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
姿勢保持	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
機能訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	22.3%	17.5%	56.4%	19.7%	21.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

③ロボット介護機器等の導入の可能性について

a：自動で体位変換を行うことが可能な支援機器【体位変換】に関する活用の可能性の有無

自動で体位変換を行うことが可能な支援機器【体位変換】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある⁴」（26.8％）が「活用の可能性がない⁵」（46.2％）を下回った。

障害種別にみると、身体障害は「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 31 自動で体位変換を行うことが可能な支援機器【体位変換】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	15.0%	2.9%	0.0%	1.5%	4.0%
活用の可能性が大いにある	21.8%	14.6%	2.5%	9.6%	12.6%
活用の可能性が多少ある	23.3%	18.3%	0.6%	8.8%	14.2%
どちらともいえない	15.0%	17.8%	3.1%	9.6%	13.3%
活用の可能性はあまりない	12.0%	22.4%	10.5%	21.3%	18.2%
活用の可能性は全くない	6.8%	16.8%	61.7%	43.4%	28.1%
無回答	6.0%	7.1%	21.6%	5.9%	9.6%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	45.1%	32.9%	3.1%	18.4%	26.8%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	18.8%	39.3%	72.2%	64.7%	46.2%

（注）小数点第2位を四捨五入しているため、例えば、「活用の可能性が大いにある」と「活用の可能性が多少ある」の数値を足し合わせても「活用の可能性がある」の数値と一致しない場合がある。（以下同様）

b：姿勢保持を容易にする介助（非装着型）ロボット【姿勢保持】に関する活用の可能性の有無

姿勢保持を容易にする介助（非装着型）ロボット【姿勢保持】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（30.4％）が「活用の可能性がない」（42.3％）を下回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 32 姿勢保持を容易にする介助（非装着型）ロボット【姿勢保持】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	5.3%	1.2%	0.6%	0.7%	1.6%
活用の可能性が大いにある	18.8%	13.4%	2.5%	11.0%	11.7%
活用の可能性が多少ある	22.6%	25.4%	1.9%	13.2%	18.7%
どちらともいえない	33.1%	22.9%	2.5%	11.0%	18.5%
活用の可能性はあまりない	12.0%	20.2%	11.1%	19.1%	17.1%
活用の可能性は全くない	6.8%	12.9%	60.5%	39.7%	25.2%
無回答	1.5%	3.9%	21.0%	5.1%	7.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	41.4%	38.8%	4.3%	24.3%	30.4%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	18.8%	33.2%	71.6%	58.8%	42.3%

⁴ 「活用の可能性がある」は「活用の可能性が大いにある」と「活用可能性が多少ある」の合計。（以下同様）

⁵ 「活用の可能性がない」は「活用の可能性はあまりない」と「活用可能性は全くない」の合計。（以下同様）

c：重量物の持ち上げ等を容易にする移乗介助（装着型）ロボット【移乗・移動】に関する活用の可能性の有無

重量物の持ち上げ等を容易にする移乗介助（装着型）ロボット【移乗・移動】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（41.6%）が「活用の可能性がない」（34.0%）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。なお、身体障害のうち 16.5%は「既に導入している」とのことであった。

図表 33 重量物の持ち上げ等を容易にする移乗介助（装着型）ロボット【移乗・移動】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	16.5%	3.7%	0.0%	2.2%	4.7%
活用の可能性が大いにある	29.3%	25.9%	2.5%	14.0%	19.8%
活用の可能性が多少ある	24.1%	29.0%	2.5%	22.8%	21.8%
どちらともいえない	13.5%	14.4%	4.3%	10.3%	11.8%
活用の可能性はあまりない	9.0%	12.7%	12.3%	15.4%	12.8%
活用の可能性は全くない	5.3%	9.8%	56.8%	29.4%	21.2%
無回答	2.3%	4.6%	21.6%	5.9%	7.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	53.4%	54.9%	4.9%	36.8%	41.6%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	14.3%	22.4%	69.1%	44.9%	34.0%

d：マウスピース型口腔ケア補助ロボット【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無

マウスピース型口腔ケア補助ロボット【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（28.3%）が「活用の可能性がない」（40.2%）を下回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 34 マウスピース型口腔ケア補助ロボット【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
活用の可能性が大いにある	12.8%	12.2%	2.5%	8.1%	9.5%
活用の可能性が多少ある	18.0%	25.1%	3.7%	18.4%	18.8%
どちらともいえない	37.6%	27.3%	6.2%	22.1%	23.9%
活用の可能性はあまりない	20.3%	19.0%	9.9%	16.2%	17.3%
活用の可能性は全くない	9.0%	12.0%	56.8%	30.1%	22.9%
無回答	2.3%	4.4%	21.0%	5.1%	7.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	30.8%	37.3%	6.2%	26.5%	28.3%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	29.3%	31.0%	66.7%	46.3%	40.2%

e：衣服の着脱をサポートする支援機器【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無

衣服の着脱をサポートする支援機器【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(24.2%)が「活用の可能性がない」(45.2%)を下回った。

障害種別にみると、身体障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 35 衣服の着脱をサポートする支援機器【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
活用の可能性が大いにある	10.5%	8.8%	1.9%	5.9%	7.2%
活用の可能性が多少ある	21.8%	20.7%	3.7%	16.2%	17.0%
どちらともいえない	35.3%	28.8%	3.7%	15.4%	22.7%
活用の可能性はあまりない	20.3%	22.7%	13.6%	23.5%	20.8%
活用の可能性は全くない	9.8%	14.4%	55.6%	33.1%	24.4%
無回答	2.3%	4.6%	21.6%	5.9%	8.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	32.3%	29.5%	5.6%	22.1%	24.2%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	30.1%	37.1%	69.1%	56.6%	45.2%

f：自分で食事を行うことが可能な食事支援ロボット【食事】に関する活用の可能性の有無

自分で食事を行うことが可能な食事支援ロボット【食事】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(19.3%)が「活用の可能性がない」(51.7%)を下回った。

障害種別にみると、身体障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 36 自分で食事を行うことが可能な食事支援ロボット【食事】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
活用の可能性が大いにある	14.3%	5.9%	1.9%	2.2%	5.9%
活用の可能性が多少ある	24.8%	15.4%	3.1%	8.8%	13.4%
どちらともいえない	32.3%	27.1%	4.3%	17.6%	21.8%
活用の可能性はあまりない	16.5%	30.2%	11.1%	29.4%	24.3%
活用の可能性は全くない	10.5%	17.1%	59.9%	37.5%	27.4%
無回答	1.5%	4.4%	19.8%	4.4%	7.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	39.1%	21.2%	4.9%	11.0%	19.3%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	27.1%	47.3%	71.0%	66.9%	51.7%

g：浴槽内での姿勢保持や洗い場から浴槽部への出入り動作をサポートする入浴支援機器【入浴】に関する活用の可能性の有無

浴槽内での姿勢保持や洗い場から浴槽部への出入り動作をサポートする入浴支援機器【入浴】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(43.1%)が「活用の可能性がない」(29.0%)を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。なお、身体障害では「既に導入している」が18.8%となっており、5施設に1施設で導入している。

図表 37 浴槽内での姿勢保持や洗い場から浴槽部への出入り動作をサポートする入浴支援機器【入浴】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	18.8%	5.6%	0.0%	2.2%	6.0%
活用の可能性が大いにある	18.8%	26.6%	2.5%	14.0%	18.7%
活用の可能性が多少ある	30.8%	31.7%	8.0%	17.6%	24.4%
どちらともいえない	14.3%	13.4%	4.9%	14.7%	12.4%
活用の可能性はあまりない	6.0%	8.0%	13.6%	19.1%	10.6%
活用の可能性は全くない	5.3%	7.3%	51.2%	25.7%	18.4%
無回答	6.0%	7.3%	19.8%	6.6%	9.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	49.6%	58.3%	10.5%	31.6%	43.1%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	11.3%	15.4%	64.8%	44.9%	29.0%

h：浴槽につかるだけで汚れを落とす機能のある入浴機器【入浴】に関する活用の可能性の有無

浴槽につかるだけで汚れを落とす機能のある入浴機器【入浴】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(48.1%)が「活用の可能性がない」(29.0%)を上回った。

障害種別にみると、精神障害以外の障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 38 浴槽につかるだけで汚れを落とす機能のある入浴機器【入浴】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
活用の可能性が大いにある	32.3%	30.2%	3.1%	22.8%	24.0%
活用の可能性が多少ある	30.1%	29.8%	9.9%	19.1%	24.0%
どちらともいえない	19.5%	16.3%	7.4%	16.2%	15.0%
活用の可能性はあまりない	9.8%	9.5%	10.5%	15.4%	11.0%
活用の可能性は全くない	6.0%	8.8%	48.8%	21.3%	18.0%
無回答	1.5%	5.4%	20.4%	5.1%	7.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	62.4%	60.0%	13.0%	41.9%	48.1%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	15.8%	18.3%	59.3%	36.8%	29.0%

い：排便や排尿を検知する排泄検知センサー【排泄】に関する活用の可能性の有無

排便や排尿を検知する排泄検知センサー【排泄】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（47.5％）が「活用の可能性がない」（28.8％）を上回った。

障害種別にみると、精神障害以外の全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 39 排便や排尿を検知する排泄検知センサー【排泄】に関する活用の可能性の有無
(単一回答)

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
活用の可能性が大いにある	30.8%	24.4%	3.7%	21.3%	21.0%
活用の可能性が多少ある	35.3%	31.2%	5.6%	29.4%	26.5%
どちらともいえない	15.8%	21.2%	8.6%	11.8%	16.5%
活用の可能性はあまりない	9.8%	12.0%	11.1%	12.5%	11.3%
活用の可能性は全くない	5.3%	7.6%	50.0%	20.6%	17.5%
無回答	2.3%	3.7%	21.0%	4.4%	7.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	66.2%	55.6%	9.3%	50.7%	47.5%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	15.0%	19.5%	61.1%	33.1%	28.8%

じ：居室等に設置できる水洗ポータブルトイレ【排泄】に関する活用の可能性の有無

居室等に設置できる水洗ポータブルトイレ【排泄】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（44.6％）が「活用の可能性がない」（30.4％）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 40 居室等に設置できる水洗ポータブルトイレ【排泄】に関する活用の可能性の有無
(単一回答)

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0.8%	1.2%	0.0%	0.0%	0.8%
活用の可能性が大いにある	24.1%	27.6%	3.1%	11.0%	19.7%
活用の可能性が多少ある	27.8%	33.2%	6.2%	20.6%	25.0%
どちらともいえない	23.3%	18.3%	11.7%	11.8%	16.6%
活用の可能性はあまりない	15.8%	7.6%	10.5%	25.7%	12.1%
活用の可能性は全くない	6.0%	8.0%	47.5%	25.7%	18.3%
無回答	2.3%	4.1%	21.0%	5.1%	7.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	51.9%	60.7%	9.3%	31.6%	44.6%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	21.8%	15.6%	58.0%	51.5%	30.4%

ⅳ：疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末【健康管理】に関する活用の可能性の有無

疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末【健康管理】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（52.0％）が「活用の可能性がない」（22.7％）を上回った。

障害種別にみると、精神障害以外の全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 41 疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末【健康管理】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	2.3%	1.2%	0.0%	0.7%	1.0%
活用の可能性が大いにある	32.3%	25.1%	11.7%	18.4%	22.8%
活用の可能性が多少ある	27.8%	35.1%	16.7%	30.9%	29.2%
どちらともいえない	23.3%	20.0%	14.2%	13.2%	18.3%
活用の可能性はあまりない	6.8%	8.0%	14.2%	18.4%	10.8%
活用の可能性は全くない	4.5%	7.3%	26.5%	14.7%	11.9%
無回答	3.0%	3.2%	16.7%	3.7%	6.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	60.2%	60.2%	28.4%	49.3%	52.0%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	11.3%	15.4%	40.7%	33.1%	22.7%

ⅳ：服薬管理・服薬支援ロボット【健康管理】に関する活用の可能性の有無

服薬管理・服薬支援ロボット【健康管理】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（49.2％）が「活用の可能性がない」（25.1％）を上回った。

障害種別にみると、全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 42 服薬管理・服薬支援ロボット【健康管理】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
活用の可能性が大いにある	21.1%	22.7%	12.3%	17.6%	19.8%
活用の可能性が多少ある	30.1%	30.5%	24.1%	34.6%	29.5%
どちらともいえない	29.3%	22.9%	13.6%	11.8%	20.1%
活用の可能性はあまりない	9.0%	11.5%	11.7%	16.9%	12.1%
活用の可能性は全くない	7.5%	9.3%	24.1%	15.4%	12.9%
無回答	2.3%	3.2%	14.2%	3.7%	5.4%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	51.1%	53.2%	36.4%	52.2%	49.2%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	16.5%	20.7%	35.8%	32.4%	25.1%

m：障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ【日常生活支援】に関する活用の可能性の有無

障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ【日常生活支援】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(53.1%)が「活用の可能性がない」(22.9%)を上回った。

障害種別にみると、全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 43 障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ【日常生活支援】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
活用の可能性が大いにある	23.3%	30.0%	18.5%	23.5%	25.5%
活用の可能性が多少ある	32.3%	27.1%	22.8%	30.1%	27.5%
どちらともいえない	24.8%	19.8%	14.2%	11.8%	17.8%
活用の可能性はあまりない	10.5%	12.7%	5.6%	14.0%	11.3%
活用の可能性は全くない	3.8%	6.6%	25.3%	16.2%	11.6%
無回答	1.5%	3.9%	13.6%	4.4%	5.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	55.6%	57.1%	41.4%	53.7%	53.1%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	14.3%	19.3%	30.9%	30.1%	22.9%

n：顔の筋肉の動き等を捕捉し、感情をデータ化・分析する感情認識 AI【情報入手・意思表出・コミュニケーション支援】に関する活用の可能性の有無

顔の筋肉の動き等を捕捉し、感情をデータ化・分析する感情認識 AI【情報入手・意思表出・コミュニケーション支援】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(33.1%)が「活用の可能性がない」(35.4%)を下回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 44 顔の筋肉の動き等を捕捉し、感情をデータ化・分析する感情認識 AI【情報入手・意思表出・コミュニケーション支援】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.1%
活用の可能性が大いにある	17.3%	11.7%	5.6%	14.7%	11.9%
活用の可能性が多少ある	26.3%	24.1%	8.6%	21.3%	21.2%
どちらともいえない	32.3%	29.0%	19.1%	19.9%	25.8%
活用の可能性はあまりない	15.8%	18.5%	13.0%	15.4%	16.5%
活用の可能性は全くない	6.8%	13.2%	38.9%	23.5%	18.8%
無回答	1.5%	3.4%	14.8%	4.4%	5.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	43.6%	35.9%	14.2%	36.0%	33.1%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	22.6%	31.7%	51.9%	39.0%	35.4%

○：シルエット型のカメラやセンサー【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無

シルエット型のカメラやセンサー【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（47.2%）が「活用の可能性がない」（24.9%）を上回った。

障害種別にみると、精神障害以外の全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 45 シルエット型のカメラやセンサー【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無
（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0.0%	1.7%	0.0%	1.5%	1.0%
活用の可能性が大いにある	19.5%	21.2%	5.6%	18.4%	17.8%
活用の可能性が多少ある	27.8%	34.6%	12.3%	36.8%	29.4%
どちらともいえない	29.3%	21.0%	11.7%	17.6%	19.7%
活用の可能性はあまりない	11.3%	9.8%	8.0%	11.8%	10.1%
活用の可能性は全くない	6.8%	7.3%	43.8%	10.3%	14.8%
無回答	5.3%	4.4%	18.5%	3.7%	7.3%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	47.4%	55.9%	17.9%	55.1%	47.2%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	18.0%	17.1%	51.9%	22.1%	24.9%

p：雑音低減・ノイズキャンセリング機能のある AI イヤホン【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無

雑音低減・ノイズキャンセリング機能のある AI イヤホン【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（36.3%）が「活用の可能性がない」（31.8%）を上回った。

障害種別にみると、知的障害と障害児では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 46 雑音低減・ノイズキャンセリング機能のある AI イヤホン【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.1%
活用の可能性が大いにある	9.8%	15.4%	4.3%	19.1%	12.9%
活用の可能性が多少ある	16.5%	29.3%	8.6%	30.1%	23.4%
どちらともいえない	34.6%	28.3%	13.6%	18.4%	24.7%
活用の可能性はあまりない	19.5%	14.1%	8.6%	14.0%	14.0%
活用の可能性は全くない	14.3%	9.0%	46.3%	14.0%	17.8%
無回答	5.3%	3.9%	18.5%	3.7%	7.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	26.3%	44.6%	13.0%	49.3%	36.3%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	33.8%	23.2%	54.9%	27.9%	31.8%

q：動物型や子ども型のコミュニケーションロボット【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無

動物型や子ども型のコミュニケーションロボット【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（38.0％）が「活用の可能性がない」（29.5％）を上回った。

障害種別にみると、精神障害以外の全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 47 動物型や子ども型のコミュニケーションロボット【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	1. 5%	0. 2%	0. 0%	0. 0%	0. 3%
活用の可能性が大いにある	11. 3%	14. 9%	6. 2%	14. 7%	12. 7%
活用の可能性が多少ある	24. 1%	29. 8%	9. 3%	32. 4%	25. 3%
どちらともいえない	28. 6%	30. 0%	15. 4%	19. 9%	25. 1%
活用の可能性はあまりない	20. 3%	12. 0%	9. 3%	15. 4%	13. 3%
活用の可能性は全くない	9. 8%	8. 8%	42. 0%	14. 0%	16. 2%
無回答	4. 5%	4. 4%	17. 9%	3. 7%	7. 1%
合 計	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	35. 3%	44. 6%	15. 4%	47. 1%	38. 0%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	30. 1%	20. 7%	51. 2%	29. 4%	29. 5%

r：バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー【安心・安全対策】に関する活用の可能性の有無

バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー【安心・安全対策】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（60.9％）が「活用の可能性がない」（16.5％）を上回った。

障害種別にみると、精神障害以外の全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 48 バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー【安心・安全対策】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	6. 0%	2. 2%	0. 0%	1. 5%	2. 2%
活用の可能性が大いにある	38. 3%	34. 4%	9. 9%	30. 9%	29. 6%
活用の可能性が多少ある	27. 1%	36. 8%	22. 8%	29. 4%	31. 3%
どちらともいえない	20. 3%	12. 9%	16. 7%	11. 8%	14. 3%
活用の可能性はあまりない	4. 5%	5. 6%	11. 7%	11. 8%	7. 7%
活用の可能性は全くない	2. 3%	3. 9%	25. 3%	8. 8%	8. 8%
無回答	1. 5%	4. 1%	13. 6%	5. 9%	6. 0%
合 計	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	65. 4%	71. 2%	32. 7%	60. 3%	60. 9%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	6. 8%	9. 5%	37. 0%	20. 6%	16. 5%

s：リハビリサポートロボット・歩行訓練ロボット【機能訓練】に関する活用の可能性の有無

リハビリサポートロボット・歩行訓練ロボット【機能訓練】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(36.8%)が「活用の可能性がない」(36.5%)をわずかに上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 49 リハビリサポートロボット・歩行訓練ロボット【機能訓練】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	1. 5%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 2%
活用の可能性が大いにある	20. 3%	15. 6%	1. 9%	9. 6%	12. 8%
活用の可能性が多少ある	36. 1%	29. 3%	6. 2%	16. 9%	23. 9%
どちらともいえない	22. 6%	25. 4%	8. 6%	14. 0%	19. 8%
活用の可能性はあまりない	9. 8%	16. 3%	11. 7%	21. 3%	15. 3%
活用の可能性は全くない	8. 3%	9. 8%	53. 1%	32. 4%	21. 3%
無回答	1. 5%	3. 7%	18. 5%	5. 9%	6. 7%
合 計	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	56. 4%	44. 9%	8. 0%	26. 5%	36. 8%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	18. 0%	26. 1%	64. 8%	53. 7%	36. 5%

t：言語訓練を支援するソフト【機能訓練】に関する活用の可能性の有無

言語訓練を支援するソフト【機能訓練】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(25.2%)が「活用の可能性がない」(41.4%)を下回った。

障害種別にみると、身体障害や障害児で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 50 言語訓練を支援するソフト【機能訓練】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 7%	0. 1%
活用の可能性が大いにある	14. 3%	6. 6%	1. 2%	11. 0%	7. 5%
活用の可能性が多少ある	29. 3%	13. 2%	4. 3%	34. 6%	17. 7%
どちらともいえない	27. 8%	36. 1%	10. 5%	14. 7%	26. 1%
活用の可能性はあまりない	13. 5%	24. 4%	14. 8%	16. 9%	19. 7%
活用の可能性は全くない	12. 0%	15. 6%	50. 0%	16. 9%	21. 7%
無回答	3. 0%	4. 1%	19. 1%	5. 1%	7. 2%
合 計	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	43. 6%	19. 8%	5. 6%	45. 6%	25. 2%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	25. 6%	40. 0%	64. 8%	33. 8%	41. 4%

u：電動ベッドの一部を電動車いすとして分離できる離床アシスト機器【社会生活支援】に関する活用の可能性の有無

電動ベッドの一部を電動車いすとして分離できる離床アシスト機器【社会生活支援】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（33.1％）が「活用の可能性がない」（41.2％）を下回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 51 電動ベッドの一部を電動車いすとして分離できる離床アシスト機器【社会生活支援】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
活用の可能性が大いにある	15.0%	16.1%	2.5%	8.1%	12.4%
活用の可能性が多少ある	27.8%	27.8%	2.5%	14.7%	20.7%
どちらともいえない	28.6%	22.2%	9.9%	11.0%	18.8%
活用の可能性はあまりない	16.5%	18.5%	9.9%	26.5%	17.8%
活用の可能性は全くない	9.0%	12.0%	56.2%	33.8%	23.4%
無回答	0.8%	3.4%	19.1%	5.9%	6.6%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	42.9%	43.9%	4.9%	22.8%	33.1%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	25.6%	30.5%	66.0%	60.3%	41.2%

v：遠隔操作の対話型ロボット【面談、苦情対応】に関する活用の可能性の有無

遠隔操作の対話型ロボット【面談、苦情対応】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（24.9％）が「活用の可能性がない」（39.0％）を下回った。

障害種別にみると、身体障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 52 遠隔操作の対話型ロボット【面談、苦情対応】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.1%
活用の可能性が大いにある	9.8%	7.1%	6.8%	6.6%	7.6%
活用の可能性が多少ある	19.5%	16.1%	10.5%	25.7%	17.2%
どちらともいえない	42.9%	35.1%	15.4%	25.7%	30.6%
活用の可能性はあまりない	15.8%	23.7%	15.4%	19.9%	20.1%
活用の可能性は全くない	10.5%	14.1%	37.7%	19.1%	18.8%
無回答	1.5%	3.9%	13.6%	2.9%	5.4%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	29.3%	23.2%	17.3%	32.4%	24.9%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	26.3%	37.8%	53.1%	39.0%	39.0%

w：議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用の可能性の有無

議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（62.8％）が「活用の可能性がない」（15.7％）を上回った。

障害種別にみると、全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 53 議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	3.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.7%
活用の可能性が大いにある	30.8%	34.1%	19.8%	41.2%	32.1%
活用の可能性が多少ある	32.3%	33.2%	25.3%	29.4%	30.6%
どちらともいえない	21.8%	15.9%	13.6%	11.8%	15.5%
活用の可能性はあまりない	6.0%	6.8%	5.6%	6.6%	6.5%
活用の可能性は全くない	3.0%	6.3%	24.1%	5.9%	9.2%
無回答	3.0%	3.2%	11.7%	5.1%	5.3%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	63.2%	67.3%	45.1%	70.6%	62.8%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	9.0%	13.2%	29.6%	12.5%	15.7%

x：パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB 会議アプリ【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用の可能性の有無

パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB 会議アプリ【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（56.4％）が「活用の可能性がない」（12.5％）を上回った。

障害種別にみると、全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。なお、身体障害では 16.5％が「既に導入している」と回答していた。

図表 54 パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB 会議アプリ【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	16.5%	7.1%	0.6%	6.6%	7.2%
活用の可能性が大いにある	27.8%	31.5%	22.2%	38.2%	30.2%
活用の可能性が多少ある	33.1%	26.6%	23.5%	22.8%	26.2%
どちらともいえない	11.3%	10.0%	9.9%	7.4%	9.7%
活用の可能性はあまりない	4.5%	5.6%	6.8%	6.6%	5.8%
活用の可能性は全くない	1.5%	4.1%	20.4%	2.2%	6.7%
無回答	5.3%	15.1%	16.7%	16.2%	14.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	60.9%	58.0%	45.7%	61.0%	56.4%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	6.0%	9.8%	27.2%	8.8%	12.5%

y：職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト（グループウェアやビジネスチャットアプリ）【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無

職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト（グループウェアやビジネスチャットアプリ）【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（57.6%）が「活用の可能性がない」（11.3%）を上回った。

障害種別にみると、全ての障害種別で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 55 職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト（グループウェアやビジネスチャットアプリ）【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	10.5%	5.1%	0.0%	5.1%	4.9%
活用の可能性が大いにある	27.1%	29.8%	22.2%	31.6%	28.3%
活用の可能性が多少ある	35.3%	30.7%	22.2%	27.9%	29.2%
どちらともいえない	15.0%	14.1%	16.0%	8.8%	13.6%
活用の可能性はあまりない	3.0%	5.1%	4.9%	3.7%	4.5%
活用の可能性は全くない	1.5%	3.9%	19.1%	5.1%	6.8%
無回答	7.5%	11.2%	15.4%	17.6%	12.6%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	62.4%	60.5%	44.4%	59.6%	57.6%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	4.5%	9.0%	24.1%	8.8%	11.3%

z：施設内でのインカム【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無

施設内でのインカム【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（54.7%）が「活用の可能性がない」（16.8%）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 56 施設内でのインカム【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	10.5%	3.2%	0.0%	1.5%	3.4%
活用の可能性が大いにある	30.1%	29.5%	13.6%	26.5%	26.0%
活用の可能性が多少ある	30.8%	31.5%	19.8%	31.6%	28.7%
どちらともいえない	15.0%	14.4%	19.1%	16.9%	16.0%
活用の可能性はあまりない	6.8%	7.1%	7.4%	8.8%	7.3%
活用の可能性は全くない	3.0%	6.1%	25.9%	5.9%	9.5%
無回答	3.8%	8.3%	14.2%	8.8%	9.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	60.9%	61.0%	33.3%	58.1%	54.7%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	9.8%	13.2%	33.3%	14.7%	16.8%

④ロボット介護機器等の導入の現状について

a：施設におけるロボット介護機器等の導入状況⁶

施設におけるロボット介護機器等の導入状況についてみると、全体で、「既に導入している」が17.6%であった。

障害種別にみると、身体障害では4割以上が「既に導入している」と回答しており、他の障害に比べて多くなっていた。他方、精神障害では9割以上が「導入していない」と回答していた。

図表 57 施設におけるロボット介護機器等の導入状況（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
既に導入している	43.6%	17.6%	1.2%	11.0%	17.6%
導入していない	56.4%	81.2%	94.4%	86.8%	80.6%
無回答	0.0%	1.2%	4.3%	2.2%	1.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

b：施設における今後のロボット介護機器等の導入意向

a：施設におけるロボット介護機器等の導入状況で「導入していない」と回答した施設に対して、施設における今後のロボット介護機器等の導入意向を尋ねたところ、「導入予定なし」が51.2%と最も多く、半数以上の施設は導入の意向がない結果となった。

障害種別にみると、身体障害では「導入するかどうか検討中」が30.7%と最も多かったのに対し、知的障害では4割以上、精神障害では7割以上、障害児では5割以上が「導入予定なし」との回答であった。

図表 58 施設における今後のロボット介護機器等の導入意向（単一回答）

	身体障害 n=75	知的障害 n=333	精神障害 n=153	障害児 n=118	全体 n=697
導入予定あり	6.7%	3.0%	0.0%	0.8%	2.6%
導入するかどうか検討中	30.7%	18.3%	2.6%	6.8%	14.2%
導入予定なし	28.0%	42.0%	78.4%	56.8%	51.2%
導入するかどうか未定	32.0%	35.1%	17.6%	33.9%	30.3%
無回答	2.7%	1.5%	1.3%	1.7%	1.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⁶ 本調査におけるロボット介護機器等については、パソコン等のビデオ・WEB 会議アプリやグループウェアビジネスチャットアプリ等の ICT 関連の機器も含まれている点に留意が必要である。

c：ロボット介護機器等に対する関心の有無

a：施設におけるロボット介護機器等の導入状況で「導入していない」と回答した施設に対して、ロボット介護機器等に対する関心の有無を尋ねたところ、全体では、「関心がある」が**64.0%**、「関心がない」が**32.4%**と、「関心がある」が「関心がない」を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「関心がある」が「関心がない」を上回っていたのに対し、精神障害では「関心がある」（39.9%）が「関心がない」（55.6%）を下回った。

図表 59 ロボット介護機器等に対する関心の有無（単一回答）

	身体障害 n=75	知的障害 n=333	精神障害 n=153	障害児 n=118	全体 n=697
関心がある	77.3%	73.9%	39.9%	60.2%	64.0%
関心がない	17.3%	23.1%	55.6%	37.3%	32.4%
無回答	5.3%	3.0%	4.6%	2.5%	3.6%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

d：ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等の有無

ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等の有無についてみると、全体では「懸念点や課題点がある」が**74.1%**と7割以上が懸念点や課題点等があるとの回答であった。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では8割以上、障害児では7割以上が「懸念点や課題点がある」と回答していた。

なお、ロボット介護機器等の導入の有無別にみると、（ロボット介護機器等を）既に導入している施設の方が「懸念点や課題点がある」が**81.6%**と、導入していない施設よりも回答割合が高く、導入しているがゆえに、懸念点や課題点をより感じているという傾向がみられた。

図表 60 ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等の有無（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
懸念点や課題点がある	82.0%	82.7%	47.5%	75.0%	74.1%
懸念点や課題点は特にな	17.3%	14.9%	40.7%	19.9%	21.4%
無回答	0.8%	2.4%	11.7%	5.1%	4.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図表 61 ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等の有無

（ロボット介護機器等の導入の有無別）

	①既に導入している n=152	②導入していない n=697	①－②
懸念点や課題点がある	81.6%	73.7%	7.8
懸念点や課題点は特にな	17.8%	22.7%	▲ 4.9
無回答	0.7%	3.6%	▲ 2.9
合 計	100.0%	100.0%	

e：（ロボット介護機器等の導入・活用に関する）具体的な懸念点や課題点等

d：ロボット介護機器等の導入・活用に関する具体的な懸念点や課題点等の有無で「懸念点や課題点がある」と回答した施設に対して、具体的な懸念点や課題点等を尋ねたところ、全体では、「ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額」が74.3%と最も多く、以下、「ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額」（66.0%）、「入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい」（65.2%）、「どのようなロボット介護機器等があるのか知らない」（62.4%）、「施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない」（61.3%）と続いており、「導入・管理費用」や「ロボット介護機器等の情報」に関する項目が上位であった。

障害種別にみると、全ての障害で「ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額」や「ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額」といった「導入・管理費用」の項目が多かった。

なお、ロボット介護機器等の導入の有無別にみると、多くの項目でロボット介護機器等を導入していない施設の方が既に導入している施設よりも回答割合が高く、特に、「ロボット介護機器等で何ができるのかよくわからない」や「ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない」、「ケア行為に機器を活用した場合の効果が不明確」については、20ポイント以上の差がみられた。

図表 62 （ロボット介護機器等の導入・活用に関する）具体的な懸念点や課題点等
（複数回答）

中分類	項 目	身体障害 n=109	知的障害 n=339	精神障害 n=77	障害児 n=102	全体 n=641
導入・管理費用	ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額	75.2%	73.2%	70.1%	77.5%	74.3%
導入・管理費用	ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額	64.2%	65.5%	63.6%	73.5%	66.0%
業務プロセスの変更等	入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい	63.3%	65.8%	53.2%	72.5%	65.2%
ロボット介護機器等の情報	どのようなロボット介護機器等があるのか知らない	51.4%	66.1%	62.3%	61.8%	62.4%
操作やメンテナンス	施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない	53.2%	62.2%	66.2%	66.7%	61.3%
ロボット介護機器等の情報	ロボット介護機器等で何ができるのかよくわからない	39.4%	56.0%	66.2%	60.8%	55.2%
その他	入所者にあつたロボット介護機器等の選定・適合を行う専門家が施設内にいない	44.0%	56.6%	49.4%	53.9%	53.2%
その他	ケア行為に機器を活用した場合の効果が不明確	40.4%	56.0%	48.1%	55.9%	52.4%
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない	36.7%	54.0%	46.8%	56.9%	50.2%
導入環境の整備	（無線LANの整備や浴室の間口など）ロボット介護機器等の導入に必要なハード面の整備がなされていない	42.2%	51.9%	48.1%	53.9%	50.2%
導入環境の整備	施設内にロボット介護機器等を格納・収納しておくスペースがない	35.8%	48.7%	51.9%	57.8%	48.4%
その他	加算や人員配置基準の緩和など、ロボット介護機器等を活用する制度的なインセンティブがない	33.9%	41.0%	51.9%	54.9%	43.2%
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の耐久性に対する懸念が払しょくできない（機器が壊れやすい・故障しやすい）	33.9%	46.6%	32.5%	42.2%	42.3%
操作やメンテナンス	操作や取り回しが煩雑である	38.5%	42.8%	37.7%	36.3%	40.7%
業務プロセスの変更等	既存のケア行為や業務プロセスへの導入方法がイメージできない	25.7%	42.2%	32.5%	49.0%	39.0%
ロボット介護機器等へのイメージ	入所者へのケアは人の手で行うべきと考える	12.8%	28.9%	24.7%	31.4%	26.4%
ロボット介護機器等へのイメージ	ロボット介護機器等によるケアを入所者やその家族が嫌がる	27.5%	24.2%	14.3%	22.5%	23.2%
ロボット介護機器等の情報	求める機能・性能を満たしたロボット介護機器が存在しない	19.3%	21.2%	20.8%	32.4%	22.8%
ロボット介護機器等へのイメージ	現場職員のロボット介護機器等への抵抗感・拒否感が大きい	33.9%	15.6%	15.6%	15.7%	19.0%
業務プロセスの変更等	ロボット介護機器等に合わせてこれまでの業務やケアのやり方を変える負担が大きい	17.4%	13.0%	14.3%	16.7%	14.8%
その他	その他	4.6%	3.5%	6.5%	6.9%	4.5%
無回答		0.9%	0.3%	1.3%	0.0%	0.5%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い5項目に網掛けを行っている（ただし、その他、無回答除く）。

図表 63 （ロボット介護機器等の導入・活用に関する）具体的な懸念点や課題点等
（ロボット介護機器等の導入の有無別）

中分類	項目	①既に導入している n=124	②導入していない n=514	①－②
ロボット介護機器等の情報	ロボット介護機器等で何ができるのかよくわからない	29.0%	61.5%	▲ 32.4
ロボット介護機器等の情報	どのようなロボット介護機器等があるのか知らない	51.6%	65.2%	▲ 13.6
ロボット介護機器等の情報	求める機能・性能を満たしたロボット介護機器が存在しない	23.4%	22.8%	0.6
ロボット介護機器等へのイメージ	入所者へのケアは人の手で行うべきと考える	10.5%	30.4%	▲ 19.9
ロボット介護機器等へのイメージ	ロボット介護機器等によるケアを入所者やその家族が嫌がる	21.0%	23.7%	▲ 2.8
ロボット介護機器等へのイメージ	現場職員のロボット介護機器等への抵抗感・拒否感が大きい	25.0%	17.5%	7.5
業務プロセスの変更等	入所者の状態の個性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい	61.3%	66.3%	▲ 5.1
業務プロセスの変更等	既存のケア行為や業務プロセスへの導入方法がイメージできない	25.0%	42.6%	▲ 17.6
業務プロセスの変更等	ロボット介護機器等に合わせてこれまでの業務やケアのやり方を変える負担が大きい	18.5%	13.8%	4.7
操作やメンテナンス	操作や取り回しが煩雑である	42.7%	40.3%	2.5
操作やメンテナンス	施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない	53.2%	63.4%	▲ 10.2
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の耐久性に対する懸念が払しょくできない(機器が壊れやすい・故障しやすい)	35.5%	44.0%	▲ 8.5
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない	31.5%	54.9%	▲ 23.4
導入・管理費用	ロボット介護機器等の導入等に係るインニシャルコストが高額	69.4%	75.5%	▲ 6.1
導入・管理費用	ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額	54.8%	68.9%	▲ 14.0
導入環境の整備	(無線LANの整備や浴室の間口など)ロボット介護機器等の導入に必要なハード面の整備がなされていない	41.1%	52.5%	▲ 11.4
導入環境の整備	施設内にロボット介護機器等を格納・収納しておくスペースがない	38.7%	50.8%	▲ 12.1
その他	ケア行為に機器を活用した場合の効果が不明確	35.5%	56.4%	▲ 20.9
その他	入所者にあつたロボット介護機器等の選定・適合を行う専門家が施設内にいない	40.3%	56.4%	▲ 16.1
その他	加算や人員配置基準の緩和など、ロボット介護機器等を活用する制度的なインセンティブがない	34.7%	45.3%	▲ 10.7
その他	その他	4.0%	4.7%	▲ 0.6
無回答		0.8%	0.4%	

⑤ロボット介護機器等の導入のプロセスについて⁷

a：導入しているロボット介護機器等の対象分野

導入しているロボット介護機器等の対象分野についてみると、全体では、「移乗介助」が50.7%と最も多く、以下、「入浴支援」(32.2%)、「見守り支援」(26.3%)と続いた。

障害種別にみると、身体障害では、「移乗介助」(82.8%)と最も多く、知的障害では「入浴支援」(34.7%)が最も多かった。

図表 64 導入しているロボット介護機器等の対象分野（複数回答）

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
移乗介助	82.8%	29.2%	50.0%	33.3%	50.7%
入浴支援	34.5%	34.7%	0.0%	26.7%	32.2%
見守り支援	29.3%	23.6%	100.0%	20.0%	26.3%
事務業務効率化（記録作成等）	25.9%	23.6%	50.0%	13.3%	23.0%
移動支援	6.9%	8.3%	0.0%	13.3%	8.6%
コミュニケーション支援	6.9%	6.9%	0.0%	6.7%	7.2%
排泄支援	1.7%	6.9%	0.0%	6.7%	5.3%
その他	12.1%	9.7%	0.0%	33.3%	13.2%
無回答	0.0%	2.8%	0.0%	6.7%	2.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で最も回答割合が高い項目に網掛けを行っている（ただし、その他、無回答除く）。

b：ロボット介護機器等の導入を主導した方

ロボット介護機器等の導入を主導した方についてみると、全体では「施設長・管理者」が44.1%と最も多く、以下、「現場のリーダークラス」(19.7%)、「法人の経営者」(13.8%)と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で「施設長・管理者」が最も多かった。

図表 65 ロボット介護機器等の導入を主導した方（単一回答）

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
法人の経営者	6.9%	19.4%	0.0%	20.0%	13.8%
施設長・管理者	44.8%	44.4%	50.0%	40.0%	44.1%
現場のリーダークラス	24.1%	15.3%	0.0%	33.3%	19.7%
現場職員	12.1%	5.6%	0.0%	0.0%	7.9%
外部からの働きかけ	3.4%	5.6%	0.0%	0.0%	4.6%
その他	1.7%	2.8%	0.0%	0.0%	2.0%
無回答	6.9%	6.9%	50.0%	6.7%	7.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⁷ 本項における各設問は「施設におけるロボット介護機器等の導入状況」で「既に導入している」と回答した施設のみを対象としている。

c：ロボット介護機器等を導入した理由

ロボット介護機器等を導入した理由についてみると、全体では、「職員の身体的な負担の軽減のため」が**78.3%**と最も多く、以下、「サービスの質の向上のため」(**46.7%**)、「職員の精神的な負担の軽減のため」(**36.8%**)と続いた。

障害種別にみると、身体障害、知的障害、障害児で「職員の身体的な負担の軽減のため」が最も多かった。

図表 66 ロボット介護機器等を導入した理由（複数回答）

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
職員の身体的な負担の軽減のため	86.2%	76.4%	50.0%	60.0%	78.3%
サービスの質の向上のため	50.0%	43.1%	50.0%	46.7%	46.7%
職員の精神的な負担の軽減のため	39.7%	37.5%	50.0%	26.7%	36.8%
入居者・利用者の直接ケアの業務の効率化のため	31.0%	41.7%	0.0%	26.7%	34.9%
間接業務の効率化のため	22.4%	20.8%	100.0%	26.7%	23.0%
ロボット介護機器等に関心があったため	20.7%	12.5%	0.0%	6.7%	14.5%
入居者・利用者の自立支援のため	19.0%	9.7%	0.0%	6.7%	14.5%
自法人の経営陣から導入の指示があったため	3.4%	9.7%	0.0%	6.7%	6.6%
自法人の他事業所・本部等から勧められたため	3.4%	4.2%	0.0%	6.7%	3.9%
(導入した製品の)メーカーから勧められたため	3.4%	1.4%	50.0%	0.0%	2.6%
自法人の他施設でロボット介護機器等の導入を進めていたため	5.2%	0.0%	0.0%	6.7%	2.6%
その他	3.4%	15.3%	0.0%	6.7%	9.2%
無回答	0.0%	2.8%	0.0%	0.0%	1.3%

(注) 調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、その他、無回答除く）。

d：ロボット介護機器等を導入するにあたり、「試験的な導入」の実施の有無

ロボット介護機器等を導入するにあたり、「試験的な導入」の実施の有無についてみると、全体では「実施した」が**59.2%**、「実施していない」が**32.2%**と、「実施した」が「実施していない」を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「実施した」が「実施していない」を上回った。

図表 67 ロボット介護機器等を導入するにあたり、「試験的な導入」の実施の有無（単一回答）

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
実施した	82.8%	47.2%	0.0%	46.7%	59.2%
実施していない	15.5%	40.3%	100.0%	33.3%	32.2%
わからない	0.0%	6.9%	0.0%	13.3%	4.6%
無回答	1.7%	5.6%	0.0%	6.7%	3.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

e：ロボット介護機器等を導入するにあたり、「試験導入に関わった職員による機器の評価」の実施の有無

ロボット介護機器等を導入するにあたり、「試験導入に関わった職員による機器の評価」の実施の有無についてみると、全体では「実施した」が61.2%、「実施していない」が27.0%と、「実施した」が「実施していない」を上回った。

障害種別にみると、全ての障害で「実施した」が「実施していない」を上回っており、特に、身体障害では8割以上が「実施した」と回答した。

**図表 68 ロボット介護機器等を導入するにあたり、
「試験導入に関わった職員による機器の評価」の実施の有無（単一回答）**

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
実施した	84.5%	50.0%	50.0%	40.0%	61.2%
実施していない	13.8%	34.7%	0.0%	26.7%	27.0%
わからない	0.0%	5.6%	0.0%	20.0%	4.6%
無回答	1.7%	9.7%	50.0%	13.3%	7.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

f：ロボット介護機器等を導入するにあたり、「利用者（入居者）本人から意見の聴取」の実施の有無

ロボット介護機器等を導入するにあたり、「利用者（入居者）本人から意見の聴取」の実施の有無についてみると、全体では「実施した」が40.1%、「実施していない」が43.4%と、「実施した」が「実施していない」を下回った。

障害種別にみると、身体障害では「実施した」が「実施していない」を上回った。

**図表 69 ロボット介護機器等を導入するにあたり、
「利用者（入居者）本人から意見の聴取」の実施の有無（単一回答）**

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
実施した	72.4%	18.1%	0.0%	26.7%	40.1%
実施していない	24.1%	58.3%	50.0%	40.0%	43.4%
わからない	0.0%	15.3%	50.0%	20.0%	9.9%
無回答	3.4%	8.3%	0.0%	13.3%	6.6%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

g：ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器導入に関するプロジェクトチームや委員会の立ち上げ」の実施の有無

ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器導入に関するプロジェクトチームや委員会の立ち上げ」の実施の有無についてみると、全体では「実施した」が 23.7%、「実施していない」が 63.8%と、「実施した」が「実施していない」を下回った。

障害種別にみると、全ての障害で「実施した」が「実施していない」を下回った。

図表 70 ロボット介護機器等を導入するにあたり、
「機器導入に関するプロジェクトチームや委員会の立ち上げ」の実施の有無（単一回答）

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
実施した	34.5%	15.3%	0.0%	20.0%	23.7%
実施していない	56.9%	69.4%	100.0%	60.0%	63.8%
わからない	3.4%	6.9%	0.0%	6.7%	5.3%
無回答	5.2%	8.3%	0.0%	13.3%	7.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

h：ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器導入担当職員の任命」の実施の有無

ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器導入担当職員の任命」の実施の有無についてみると、全体では「実施した」が 33.6%、「実施していない」が 53.3%と、「実施した」が「実施していない」を下回った。

障害種別にみると、身体障害では「実施した」が「実施していない」を上回った。

図表 71 ロボット介護機器等を導入するにあたり、
「機器導入担当職員の任命」の実施の有無（単一回答）

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
実施した	46.6%	25.0%	50.0%	20.0%	33.6%
実施していない	41.4%	63.9%	50.0%	46.7%	53.3%
わからない	3.4%	2.8%	0.0%	20.0%	4.6%
無回答	8.6%	8.3%	0.0%	13.3%	8.6%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

い：ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器導入前の施設内での職員向け趣旨説明の実施」の有無

ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器導入前の施設内での職員向け趣旨説明の実施」の有無についてみると、全体では「実施した」が78.3%、「実施していない」が13.2%と、「実施した」が「実施していない」を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児で「実施した」が「実施していない」を上回っており、特に、身体障害では8割以上が「実施した」との回答であった。

図表 72 ロボット介護機器等を導入するにあたり、
「機器導入前の施設内での職員向け趣旨説明の実施」の有無（単一回答）

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
実施した	86.2%	75.0%	50.0%	66.7%	78.3%
実施していない	8.6%	15.3%	50.0%	13.3%	13.2%
わからない	1.7%	4.2%	0.0%	6.7%	3.3%
無回答	3.4%	5.6%	0.0%	13.3%	5.3%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

じ：ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器導入前の施設内での利用者や家族等への趣旨説明の実施」の有無

ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器導入前の施設内での利用者や家族等への趣旨説明の実施」の有無についてみると、全体では「実施した」が44.1%、「実施していない」が42.8%と、「実施した」が「実施していない」を上回った。

障害種別にみると、身体障害で「実施した」が「実施していない」を上回った。

図表 73 ロボット介護機器等を導入するにあたり、
「機器導入前の施設内での利用者や家族等への趣旨説明の実施」の有無（単一回答）

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
実施した	55.2%	36.1%	50.0%	40.0%	44.1%
実施していない	36.2%	47.2%	50.0%	40.0%	42.8%
わからない	3.4%	8.3%	0.0%	6.7%	5.9%
無回答	5.2%	8.3%	0.0%	13.3%	7.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

k：ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器に合わせた既存のケア動作や業務の見直し」の実施の有無

ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器に合わせた既存のケア動作や業務の見直し」の実施の有無についてみると、全体では「実施した」が 59.9%、「実施していない」が 27.6%と、「実施した」が「実施していない」を上回った。

障害種別にみると、全ての障害で「実施した」が「実施していない」を上回った。

図表 74 ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器に合わせた既存のケア動作や業務の見直し」の実施の有無（単一回答）

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
実施した	70.7%	51.4%	100.0%	60.0%	59.9%
実施していない	24.1%	33.3%	0.0%	13.3%	27.6%
わからない	3.4%	8.3%	0.0%	13.3%	6.6%
無回答	1.7%	6.9%	0.0%	13.3%	5.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

l：ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器活用を前提とした勤務シフトの作成」の実施の有無

ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器活用を前提とした勤務シフトの作成」の実施の有無についてみると、全体では、「実施した」が 6.6%、「実施していない」が 80.3%と、「実施した」が「実施していない」を下回った。

障害種別にみると、全ての障害で「実施した」が「実施していない」を下回った。

図表 75 ロボット介護機器等を導入するにあたり、「機器活用を前提とした勤務シフトの作成」の実施の有無（単一回答）

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
実施した	5.2%	8.3%	0.0%	6.7%	6.6%
実施していない	84.5%	79.2%	100.0%	60.0%	80.3%
わからない	3.4%	4.2%	0.0%	20.0%	5.3%
無回答	6.9%	8.3%	0.0%	13.3%	7.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

m：ロボット介護機器等を導入するにあたり、「導入したロボット介護機器の教育訓練（外部講師の招聘等）」の実施の有無

ロボット介護機器等を導入するにあたり、「導入したロボット介護機器の教育訓練（外部講師の招聘等）」の実施の有無についてみると、全体では、「実施した」が48.7%、「実施していない」が40.8%と、「実施した」が「実施していない」を上回った。

障害種別にみると、身体障害で「実施した」が「実施していない」を上回った。

図表 76 ロボット介護機器等を導入するにあたり、
「導入したロボット介護機器の教育訓練（外部講師の招聘等）」の実施の有無（単一回答）

	身体障害 n=58	知的障害 n=72	精神障害 n=2	障害児 n=15	全体 n=152
実施した	67.2%	36.1%	50.0%	33.3%	48.7%
実施していない	25.9%	52.8%	50.0%	40.0%	40.8%
わからない	3.4%	2.8%	0.0%	13.3%	3.9%
無回答	3.4%	8.3%	0.0%	13.3%	6.6%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⑥ロボット介護機器等の導入促進に向けた課題等について

a：各都道府県や政令指定都市、中核市が実施する「障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業⁸」の申請の有無

各都道府県や政令指定都市、中核市が実施する「障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業」の申請の有無についてみると、全体では「知っていたが、申請しなかった」が39.1%、「事業そのものを知らなかった」が42.5%と、8割以上が申請をしていないとのことであった。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「知っていたが、申請しなかった」が最も多かったのに対し、精神障害では「事業そのものを知らなかった」が最も多く、事業の認知度が他の障害よりも低くなっていた。

なお、ロボット介護機器等の導入の有無別にみると、（ロボット介護機器等を）既に導入している施設の方が導入していない施設よりも「知っていて、申請した」の回答割合が高く、「知っていたが、申請しなかった」や「事業そのものを知らなかった」の回答割合が低かった。

図表 77 各都道府県や政令指定都市、中核市が実施する
「障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業」の申請の有無（単一回答）

	身体障害 n=129	知的障害 n=388	精神障害 n=162	全体 n=699
知っていて、申請した	27.1%	12.6%	0.6%	12.7%
知っていたが、申請しなかった	40.3%	44.8%	24.7%	39.1%
事業そのものを知らなかった	28.7%	39.2%	63.0%	42.5%
無回答	3.9%	3.4%	11.7%	5.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

図表 78 各都道府県や政令指定都市、中核市が実施する
「障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業」の申請の有無
（ロボット介護機器等の導入の有無別）

	①既に導入 している n=152	②導入し ていない n=697	①－②
知っていて、申請した	47.7%	4.7%	43.0
知っていたが、申請しなかった	29.2%	41.7%	▲ 12.4
事業そのものを知らなかった	19.2%	48.5%	▲ 29.2
無回答	3.8%	5.2%	▲ 1.4
合 計	100.0%	100.0%	

⁸ 本事業については、障害児入所支援施設は対象外のため、障害児の集計は実施していない。

b：障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業を申請しなかった理由

a：各都道府県や政令指定都市、中核市が実施する「障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業」の申請の有無で「知っていたが、申請しなかった」と回答した施設に対して、申請しなかった理由を尋ねたところ、全体では「（自施設に）ロボット介護機器等を導入することを考えていないため」が**43.2%**と最も多く、以下、「補助対象となるロボット介護機器等がわからなかったため」（**32.2%**）、「申請書類の作成等に時間を要するため」（**18.7%**）と続いた。

障害種別にみると、身体障害では「補助対象となるロボット介護機器等がわからなかったため」が最も多かったのに対し、知的障害や精神障害では「（自施設に）ロボット介護機器等を導入することを考えていないため」が最も多く、特に、精神障害では**7割**となっていた。

なお、ロボット介護機器等の導入の有無別にみると、既に導入している施設の方が「導入したいロボット介護機器等が補助対象外だったため」や「申請種類の作成等に時間を要するため」等で回答割合が高かった。反面、「補助対象となるロボット介護機器等がわからなかったため」や「（自施設に）ロボット介護機器等を導入することを考えていないため」等は導入していない施設の方が高かった。

図表 79 障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業を申請しなかった理由（複数回答）

	身体障害 n=52	知的障害 n=174	精神障害 n=40	全体 n=273
（自施設に）ロボット介護機器等を導入することを考えていないため	21.2%	44.8%	70.0%	43.2%
補助対象となるロボット介護機器等がわからなかったため	26.9%	36.2%	20.0%	32.2%
申請書類の作成等に時間を要するため	19.2%	19.5%	7.5%	18.7%
補助額が少ないため	15.4%	12.6%	12.5%	13.6%
申請に関する手続きが面倒なため	11.5%	14.4%	5.0%	13.2%
事業を認知した時点で、既に公募締切の間際・応募が間に合わなかったため	15.4%	7.5%	2.5%	8.1%
導入したいロボット介護機器等が補助対象外だったため	9.6%	6.3%	7.5%	7.0%
自施設の職員がロボット介護機器等を導入することに反対した（反対することが見込まれた）ため	1.9%	3.4%	0.0%	2.9%
経営陣や上司がロボット介護機器等を導入することに反対した（反対することが見込まれた）ため	1.9%	2.9%	2.5%	2.6%
導入に関して、自法人の資金のみで十分に対応できるため	3.8%	1.1%	0.0%	1.5%
利用者（入居者）がロボット介護機器等を導入することに反対した（反対することが見込まれた）ため	0.0%	0.6%	2.5%	0.7%
既にロボット介護機器等を導入しており、特にこれ以上導入する予定がないため	1.9%	0.6%	0.0%	0.7%
その他	17.3%	16.7%	7.5%	15.0%
無回答	1.9%	0.6%	5.0%	1.8%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い**3項目**に網掛けを行っている（ただし、その他、無回答除く）。

図表 80 障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業を申請しなかった理由（ロボット介護機器等の導入の有無別）

	①既に導入している n=38	②導入していない n=232	①－②
申請書類の作成等に時間を要するため	26.3%	17.2%	9.1
申請に関する手続きが面倒なため	18.4%	12.1%	6.4
補助対象となるロボット介護機器等がわからなかったため	23.7%	33.6%	▲ 9.9
導入したいロボット介護機器等が補助対象外だったため	15.8%	5.6%	10.2
補助額が少ないため	13.2%	13.4%	▲ 0.2
導入に関して、自法人の資金のみで十分に対応できるため	2.6%	1.3%	1.3
（自施設に）ロボット介護機器等を導入することを考えていないため	13.2%	47.8%	▲ 34.7
事業を認知した時点で、既に公募締切の間際・応募が間に合わなかったため	26.3%	5.2%	21.1
経営陣や上司がロボット介護機器等を導入することに反対した（反対することが見込まれた）ため	0.0%	3.0%	▲ 3.0
自施設の職員がロボット介護機器等を導入することに反対した（反対することが見込まれた）ため	2.6%	3.0%	▲ 0.4
利用者（入居者）がロボット介護機器等を導入することに反対した（反対することが見込まれた）ため	0.0%	0.9%	▲ 0.9
既にロボット介護機器等を導入しており、特にこれ以上導入する予定がないため	2.6%	0.4%	2.2
その他	28.9%	12.9%	16.0
無回答	0.0%	2.2%	▲ 2.2

ｃ：今後、ロボット介護機器等の導入促進に向けて、国や自治体において実施すべきと考える取組み

今後、ロボット介護機器等の導入促進に向けて、国や自治体において実施すべきと考える取組みについてみると、全体では「導入するための資金助成制度の充実」が 67.9%と最も多く、以下、「ロボット介護機器等自体に関する情報の提供」(63.0%)、「他施設における介護機器等の好事例の情報提供」(60.9%)と続いており、導入費用や情報提供に関する項目が上位 3 項目に入っていた。

障害種別にみると、全ての障害で「導入するための資金助成制度の充実」が最も多かったほか、「ロボット介護機器等自体に関する情報の提供」や「他施設における介護機器等の好事例の情報提供」も上位となっていることから、障害種別による傾向に違いはみられなかった。

なお、ロボット介護機器等の導入の有無別にみると、既に導入している施設の方が「導入するための資金助成制度の充実」や「ロボット介護機器等の導入を後押しするような加算の新設」といった項目で回答割合が特に高かった。

図表 81 今後、ロボット介護機器等の導入促進に向けて、
国や自治体において実施すべきと考える取組み（複数回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
導入するための資金助成制度の充実	73.7%	72.0%	54.9%	69.9%	67.9%
ロボット介護機器等自体に関する情報の提供	66.2%	67.6%	46.9%	67.6%	63.0%
他施設における介護機器等の好事例の情報提供	60.2%	67.6%	40.7%	67.6%	60.9%
導入判断における試用等の機会の充実	60.2%	61.5%	36.4%	55.1%	54.8%
ロボット介護機器等の導入を後押しするような加算の新設	55.6%	51.2%	31.5%	57.4%	48.8%
(貴施設に近隣する)身近な場所での展示会等の開催	48.1%	44.1%	31.5%	40.4%	41.4%
ロボット介護機器等の導入を後押しするような人員配置基準の見直し	35.3%	32.7%	24.1%	30.9%	31.0%
導入に関する身近な相談機関の設置	32.3%	29.3%	25.9%	28.7%	28.7%
開発メーカーとの情報交換ができる場の提供	28.6%	22.2%	14.8%	29.4%	22.8%
ロボット介護機器等の導入をリードするような人材の育成	21.8%	22.4%	17.9%	31.6%	22.5%
その他	0.8%	0.2%	3.7%	2.9%	1.4%
無回答	5.3%	4.9%	19.8%	4.4%	8.1%

(注) 調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い 3 項目に網掛けを行っている（ただし、その他、無回答除く）。

図表 82 今後、ロボット介護機器等の導入促進に向けて、
国や自治体において実施すべきと考える取組み（ロボット介護機器等の導入の有無別）

	①既に導入 している n=152	②導入し ていない n=697	①－②
ロボット介護機器等自体に関する情報の提供	67.8%	62.7%	5.1
他施設における介護機器等の好事例の情報提供	65.8%	60.5%	5.2
(貴施設に近隣する)身近な場所での展示会等の開催	46.7%	41.0%	5.7
導入判断における試用等の機会の充実	63.2%	53.5%	9.6
導入に関する身近な相談機関の設置	27.0%	29.1%	▲ 2.2
導入するための資金助成制度の充実	77.0%	66.7%	10.3
ロボット介護機器等の導入をリードするような人材の育成	23.7%	22.5%	1.2
ロボット介護機器等の導入を後押しするような人員配置基準の見直し	35.5%	30.4%	5.1
ロボット介護機器等の導入を後押しするような加算の新設	60.5%	47.1%	13.5
開発メーカーとの情報交換ができる場の提供	24.3%	22.8%	1.5
その他	0.7%	1.6%	▲ 0.9
無回答	5.3%	7.6%	▲ 2.3

⑦施設の人員体制や業務効率化の状況等について

a：日勤時の職員の過不足の状況

日勤時の職員の過不足の状況についてみると、全体では、「不足」が **22.8%**、「やや不足」が **36.3%**と、約 **6 割**が日勤時の職員が「不足している」（「不足」と「やや不足」の合計、以下同様）であった。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では **6 割以上**が「不足している」と回答していた。

図表 83 日勤時の職員の過不足の状況（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
不足	28.6%	23.7%	12.3%	27.9%	22.8%
やや不足	33.1%	42.2%	24.7%	36.0%	36.3%
適正	36.1%	30.7%	54.9%	31.6%	36.5%
やや過剰	1.5%	1.7%	4.3%	2.2%	2.2%
過剰	0.0%	0.2%	1.2%	0.0%	0.3%
無回答	0.8%	1.5%	2.5%	2.2%	1.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
不足している（「不足」と「やや不足」）の合計	61.7%	65.9%	37.0%	64.0%	59.1%
過剰である（「やや過剰」と「過剰」）の合計	1.5%	2.0%	5.6%	2.2%	2.5%

b：夜勤時の職員の過不足の状況

夜勤時の職員の過不足の状況についてみると、全体では、「不足」が **16.6%**、「やや不足」が **30.2%**と、**4 割以上**が夜勤時の職員が「不足している」との回答であった。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では **5 割以上**が「不足している」であった。

図表 84 夜勤時の職員の過不足の状況（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
不足	20.3%	19.8%	3.1%	20.6%	16.6%
やや不足	30.1%	36.8%	11.1%	32.4%	30.2%
適正	45.9%	39.0%	18.5%	41.9%	36.5%
やや過剰	0.8%	0.5%	0.0%	0.0%	0.3%
過剰	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
夜勤体制はなし	2.3%	2.4%	64.8%	2.9%	14.6%
無回答	0.8%	1.5%	2.5%	2.2%	1.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
不足している（「不足」と「やや不足」）の合計	50.4%	56.6%	14.2%	52.9%	46.8%
過剰である（「やや過剰」と「過剰」）の合計	0.8%	0.5%	0.0%	0.0%	0.3%

c：新型コロナウイルス感染症の流行前に比べた、現在の収入の基調

新型コロナウイルス感染症の流行前に比べた、現在の収入の基調についてみると、全体では、「横ばい」が52.1%と最も多かった。他方、「微減傾向」が20.3%、「減少傾向」が15.3%と、3割以上が収入が「減っている（「微減傾向」と「減少傾向」の合計、以下同様）」であった。

障害種別にみると、障害児では5割、身体障害では4割以上が「減っている」と回答していた。

図表 85 新型コロナウイルス感染症の流行前に比べた、現在の収入の基調（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
増加傾向	2.3%	1.0%	0.0%	1.5%	1.0%
微増傾向	5.3%	9.8%	4.9%	4.4%	7.3%
横ばい	46.6%	53.4%	61.7%	40.4%	52.1%
微減傾向	22.6%	20.5%	17.3%	22.8%	20.3%
減少傾向	21.1%	12.9%	7.4%	27.2%	15.3%
無回答	2.3%	2.4%	8.6%	3.7%	3.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
増えている（「増加傾向」と「微増傾向」の合計）	7.5%	10.7%	4.9%	5.9%	8.3%
減っている（「微減傾向」と「減少傾向」の合計）	43.6%	33.4%	24.7%	50.0%	35.6%

d：新型コロナウイルス感染症の流行前に比べた、現在の収支差の状況

新型コロナウイルス感染症の流行前に比べた、現在の収支差の状況についてみると、全体では「横ばい」が50.1%と最も多かった。一方、他方、「若干減益」が22.0%、「減益」が15.7%と、3割以上が収支差が「減っている（「若干減益」と「減益」の合計）」との回答であった。

障害種別にみると、障害児では5割以上、身体障害では4割以上が「減っている」と回答していた。

図表 86 新型コロナウイルス感染症の流行前に比べた、現在の収支差の状況（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
増益	1.5%	0.7%	0.0%	0.7%	0.7%
若干増益	5.3%	7.6%	3.7%	4.4%	6.1%
横ばい	44.4%	52.2%	58.6%	38.2%	50.1%
若干減益	27.1%	22.7%	16.7%	23.5%	22.0%
減益	19.5%	12.9%	9.3%	28.7%	15.7%
無回答	2.3%	3.9%	11.7%	4.4%	5.4%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
増えている（「増益」と「若干増益」の合計）	6.8%	8.3%	3.7%	5.1%	6.8%
減っている（「若干減益」と「減益」の合計）	46.6%	35.6%	25.9%	52.2%	37.7%

e：施設における「記録・報告様式の電子化（タブレット等によるデータ入力・共有）」の取組み状況

施設における「記録・報告様式の電子化（タブレット等によるデータ入力・共有）」の取組み状況についてみると、全体では、「十分である」（「できている」と「ややできている」の合計、以下同様）が **47.9%**、「十分でない」（「あまりできていない」と「できていない」の合計、以下同様）が **49.1%**と「十分である」が「十分でない」を下回った。

障害種別にみると、知的障害や障害児では「十分である」が「十分でない」を上回っていた。

図表 87 施設における「記録・報告様式の電子化（タブレット等によるデータ入力・共有）」の取組み状況（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
できている	21.8%	26.6%	11.1%	27.2%	22.8%
ややできている	26.3%	26.6%	16.7%	29.4%	25.1%
あまりできていない	18.0%	19.0%	16.0%	14.0%	17.3%
できていない	32.3%	26.1%	51.9%	25.7%	31.8%
無回答	1.5%	1.7%	4.3%	3.7%	3.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
十分である（「できている」と「ややできている」の合計）	48.1%	53.2%	27.8%	56.6%	47.9%
十分でない（「できていない」と「あまりできていない」の合計）	50.4%	45.1%	67.9%	39.7%	49.1%

f：施設における「職員間の情報共有の効率化（インカムを用いた迅速な情報共有等）」の取組み状況

施設における「職員間の情報共有の効率化（インカムを用いた迅速な情報共有等）」の取組み状況についてみると、全体では「十分である」が **23.6%**、「十分でない」が **72.7%**と「十分である」が「十分でない」を下回った。

障害種別にみると、全ての障害で「十分である」が「十分でない」を下回っており、特に精神障害では両者の差が大きかった。

図表 88 施設における「職員間の情報共有の効率化（インカムを用いた迅速な情報共有等）」の取組み状況（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
できている	10.5%	7.6%	8.0%	7.4%	8.1%
ややできている	13.5%	17.1%	11.1%	16.9%	15.5%
あまりできていない	24.1%	20.5%	19.8%	24.3%	21.0%
できていない	50.4%	52.7%	54.3%	47.1%	51.7%
無回答	1.5%	2.2%	6.8%	4.4%	3.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
十分である（「できている」と「ややできている」の合計）	24.1%	24.6%	19.1%	24.3%	23.6%
十分でない（「できていない」と「あまりできていない」の合計）	74.4%	73.2%	74.1%	71.3%	72.7%

g：施設における「体系的な職員研修や OJT」の取組み状況

施設における「体系的な職員研修や OJT」の取組み状況についてみると、全体では「十分である」が 56.2%、「十分でない」が 41.0%と「十分である」が「十分でない」を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「十分である」が「十分でない」を上回っていた。

図表 89 施設における「体系的な職員研修や OJT」の取組み状況（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
できている	18.8%	13.4%	6.8%	19.9%	13.8%
ややできている	39.1%	46.3%	27.2%	50.0%	42.4%
あまりできていない	34.6%	33.2%	43.8%	23.5%	33.8%
できていない	6.8%	5.4%	16.7%	3.7%	7.3%
無回答	0.8%	1.7%	5.6%	2.9%	2.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
十分である（「できている」と「ややできている」の合計）	57.9%	59.8%	34.0%	69.9%	56.2%
十分でない（「できていない」と「あまりできていない」の合計）	41.4%	38.5%	60.5%	27.2%	41.0%

h：施設における「業務の標準化や業務マニュアル作成への取組」の取組み状況

施設における「業務の標準化や業務マニュアル作成への取組」の取組み状況についてみると、全体では、「十分である」が 68.0%、「十分でない」が 29.1%と「十分である」が「十分でない」を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「十分である」が「十分でない」を上回っていた。

図表 90 施設における「業務の標準化や業務マニュアル作成への取組」の取組み状況（単一回答）

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
できている	18.0%	17.6%	11.7%	24.3%	17.6%
ややできている	53.4%	53.7%	32.7%	61.0%	50.4%
あまりできていない	23.3%	24.4%	37.0%	10.3%	24.6%
できていない	3.8%	2.9%	13.0%	0.7%	4.5%
無回答	1.5%	1.5%	5.6%	3.7%	2.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
十分である（「できている」と「ややできている」の合計）	71.4%	71.2%	44.4%	85.3%	68.0%
十分でない（「できていない」と「あまりできていない」の合計）	27.1%	27.3%	50.0%	11.0%	29.1%

i：施設における「職員一人ひとりに対する PC の設置等、IT 機器の導入」の取組み状況

施設における「職員一人ひとりに対する PC の設置等、IT 機器の導入」の取組み状況についてみると、

障害種別にみると、全体では、「十分である」が 27.6%、「十分でない」が 69.6%と「十分である」が「十分でない」を下回った。

障害種別にみると、全ての障害で「十分である」が「十分でない」を下回っており、特に、知的障害では両者の差が大きかった。

図表 91 施設における「職員一人ひとりに対する PC の設置等、IT 機器の導入」の取組み状況
(単一回答)

	身体障害 n=133	知的障害 n=410	精神障害 n=162	障害児 n=136	全体 n=865
できている	3.0%	3.4%	12.3%	6.6%	5.7%
ややできている	28.6%	22.7%	17.9%	19.1%	22.0%
あまりできていない	40.6%	42.0%	24.1%	43.4%	38.5%
できていない	27.1%	30.5%	40.7%	26.5%	31.1%
無回答	0.8%	1.5%	4.9%	4.4%	2.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
十分である（「できている」と「ややできている」の合計）	31.6%	26.1%	30.2%	25.7%	27.6%
十分でない（「できていない」と「あまりできていない」の合計）	67.7%	72.4%	64.8%	69.9%	69.6%

2) 職員票の結果

①職員（回答者）自身について

a：年齢

年齢についてみると、全体では、「40 歳代」が 33.2%と最も多く、以下、「30 歳代」（24.6%）、「50 歳代」（20.1%）と続いた。

障害種別⁹にみると、全ての障害において、「40 歳代」が最も多くなっていた。

図表 92 年齢（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	15.4%	17.6%	2.0%	16.9%	14.2%
30歳代	22.8%	27.2%	17.0%	26.3%	24.6%
40歳代	36.6%	31.5%	32.0%	34.7%	33.2%
50歳代	22.8%	19.7%	20.4%	21.2%	20.1%
60歳代	0.8%	2.1%	21.8%	0.0%	5.4%
70歳代以上	0.0%	0.0%	4.1%	0.0%	0.8%
無回答	1.6%	1.9%	2.7%	0.8%	1.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

b：他法人での経験を含む障害福祉サービスの経験年数

他法人での経験を含む障害福祉サービスの経験年数についてみると、全体では、「10 年以上」が 54.0%と最も多く、以下、「5 年以上 10 年未満」（17.3%）と続いた。

障害種別にみると、全ての障害種別で「10 年以上」が最も多くなっていた。

図表 93 他法人での経験を含む障害福祉サービスの経験年数（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
1 年未満	0.8%	0.0%	0.7%	0.8%	0.4%
1 年以上 3 年未満	8.9%	5.6%	4.1%	6.8%	6.3%
3 年以上 5 年未満	8.9%	10.1%	8.2%	10.2%	9.9%
5 年以上 10 年未満	17.9%	14.9%	24.5%	16.9%	17.3%
10 年以上	55.3%	57.1%	47.6%	52.5%	54.0%
無回答	8.1%	12.3%	15.0%	12.7%	12.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

⁹ 職員票の設問では、職員が勤務している施設が提供するサービスの主な対象者（障害種別）の設問は設けていない。そのため、職員票と紐づいている施設票における障害種別（分類方法については脚注 1 を参照）で分類している。なお、職員票が返却されたものの、そこに紐づいている施設票が返却されていないケースでは、全体のみ集計対象としている。

c：現在の施設での勤務経験年数¹⁰

現在の施設での勤務経験年数についてみると、全体では、「10年以上」が37.7%と最も多く、以下、「5年以上10年未満」(24.5%)、「3年以上5年未満」(20.7%)と続いた。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「10年以上」が最も多かったのに対し、精神障害では「5年以上10年未満」が最も多かった。

図表 94 現在の施設での勤務経験年数（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
1年未満	3.3%	1.6%	5.4%	1.7%	2.4%
1年以上3年未満	15.4%	11.5%	15.6%	14.4%	13.3%
3年以上5年未満	19.5%	19.7%	21.8%	25.4%	20.7%
5年以上10年未満	19.5%	21.6%	34.0%	24.6%	24.5%
10年以上	41.5%	43.7%	21.1%	33.1%	37.7%
無回答	0.8%	1.9%	2.0%	0.8%	1.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

d：勤務先の入所者・利用者について、最も人数が多い年齢層

勤務先の入所者・利用者について、最も人数が多い年齢層についてみると、全体では、「40歳以上65歳未満」が最も多かった。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、精神障害で「40歳以上65歳未満」が最も多かった。

図表 95 勤務先の入所者・利用者について、最も人数が多い年齢層（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
18歳未満	0.0%	0.8%	0.0%	64.4%	10.2%
18歳以上40歳未満	1.6%	10.9%	13.6%	18.6%	11.5%
40歳以上65歳未満	81.3%	79.7%	78.9%	14.4%	69.1%
65歳以上	15.4%	5.9%	6.1%	0.8%	7.0%
無回答	1.6%	2.7%	1.4%	1.7%	2.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

¹⁰ 自法人内で他施設の勤務経験は含めずに回答していただいた。

e：現在の勤務先で2020年10月の1か月に勤務した日数

現在の勤務先で2020年10月の1か月に勤務した日数についてみると、全体では、「20～24日」が80.4%と最も多く、1か月あたりの平均勤務日数は20.8日であった。

障害種別にみると、全ての障害で「20～24日」が最も多かった。

図表 96 現在の勤務先で2020年10月の1か月に勤務した日数（数値を記入）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
10日未満	0.8%	0.5%	2.0%	1.7%	1.1%
10～19日	13.0%	9.9%	12.2%	14.4%	11.5%
20～24日	82.9%	83.5%	70.1%	79.7%	80.4%
25日以上	0.8%	0.8%	5.4%	0.0%	1.5%
無回答	2.4%	5.3%	10.2%	4.2%	5.6%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平 均	20.7日	21.0日	21.0日	20.1日	20.8日
中 央 値	21.0日	22.0日	22.0日	21.0日	21.0日

f：現在の勤務先で2020年10月の1か月に勤務した日数のうち夜勤日数

現在の勤務先で2020年10月の1か月に勤務した日数のうち夜勤日数についてみると、全体では、「3～4日」が36.0%と最も多く、以下、「0日」（24.9%）、「5日以上」（24.7%）と続いた。なお、1か月あたりの平均勤務日数は3.1日（夜勤0日のケースを除く平均勤務日数は4.2日であった）。

障害種別にみると、知的障害、障害児では「3～4日」が最も多かったのに対して、精神障害では「0日」が7割以上と最も多く、他の障害に比べて傾向が異なっていた。

図表 97 現在の勤務先で2020年10月の1か月に勤務した日数のうち夜勤日数（数値を記入）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
0日	15.4%	13.9%	77.6%	8.5%	24.9%
1～2日	11.4%	10.4%	2.0%	11.0%	9.1%
3～4日	33.3%	44.8%	8.8%	44.9%	36.0%
5日以上	35.0%	25.1%	6.1%	31.4%	24.7%
無回答	4.9%	5.9%	5.4%	4.2%	5.3%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
平 均	3.5日	3.5日	0.9日	4.1日	3.1日
平 均（夜勤0日除く）	4.2日	4.1日	4.8日	4.5日	4.2日
中 央 値	4.0日	4.0日	0.0日	4.0日	4.0日
中 央 値（夜勤0日除く）	4.0日	4.0日	4.0日	4.0日	4.0日

g：現在の勤務先での残業について

現在の勤務先での残業について、全体では、「それほど多くない」が**40.0%**と最も多く、以下、「ほとんどない」(31.2%)、「やや多い」(20.3%)と続いた。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「それほど多くない」が最も多かったのに対し、精神障害では「ほとんどない」が最も多かった。

図表 98 現在の勤務先での残業について（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
非常に多い	2.4%	4.0%	2.7%	5.9%	4.1%
やや多い	22.8%	19.2%	10.9%	33.1%	20.3%
それほど多くない	37.4%	42.7%	29.3%	44.1%	40.0%
ほとんどない	33.3%	28.8%	54.4%	12.7%	31.2%
無回答	4.1%	5.3%	2.7%	4.2%	4.4%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

②現在の回答者自身の業務について

a：日勤時に従事している業務

日勤時に従事している業務について、小分類でみると、全体では、「声かけ（日常会話等）」が94.4%と最も多く、以下、「記録・文章作成（ケース記録作成等）」（93.7%）、「服薬管理・薬剤の与薬」（88.4%）と続いた。

図表 99 日勤時に従事している業務（小分類）（複数回答）

中分類	小分類	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	全体
		n=123	n=375	n=147	n=118	n=826
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	声かけ（日常会話等）	98.4%	96.3%	83.0%	97.5%	94.4%
	記録・文章作成（ケース記録作成等）	95.9%	96.0%	85.7%	94.9%	93.7%
間接業務（利用者に関係すること）	服薬確認・薬剤の与薬	85.4%	92.8%	78.9%	89.0%	88.4%
健康管理	急変時・事故等への対応	87.0%	91.2%	70.7%	79.7%	85.4%
安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）	87.0%	90.1%	61.9%	88.1%	84.0%
安心・安全対策	洗濯・整理整頓等の介助	82.9%	91.2%	55.8%	86.4%	82.7%
日常生活支援	観察・測定・検査（バイタルチェック等）	77.2%	92.5%	59.2%	76.3%	81.6%
健康管理	意思表出が難しい入所者等とのコミュニケーション	92.7%	92.8%	32.7%	91.5%	81.6%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	食事の配膳・下膳の準備等	92.7%	91.7%	32.0%	92.4%	81.0%
食事	ニーズ把握（相談対応等）	87.0%	83.2%	70.1%	82.2%	80.8%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	入所者・利用者の金銭・物品管理	77.2%	87.5%	70.7%	77.1%	80.5%
日常生活支援	施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	84.6%	83.7%	71.4%	74.6%	80.0%
間接業務（職員や法人に関係すること）	入所者・利用者の買い物支援	74.8%	86.4%	67.3%	71.2%	78.3%
日常生活支援	利用者・入居者からの暴言・暴力対応	81.3%	91.2%	38.1%	77.1%	78.3%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応	74.8%	92.0%	31.3%	83.9%	77.4%
行動障害への対応	入浴準備	88.6%	89.6%	19.7%	94.9%	77.0%
入浴	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）	92.7%	91.5%	9.5%	93.2%	77.0%
排泄	施設内環境整備（ベッドメイキング等）	82.9%	87.7%	36.1%	83.1%	77.0%
間接業務（利用者に関係すること）	利用者・入居者の家族との面談	66.7%	82.1%	71.4%	78.0%	76.9%
面談、苦情対応	入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）	90.2%	92.0%	9.5%	93.2%	76.5%
入浴	口腔ケア介助（歯磨を含む）	90.2%	91.2%	1.4%	89.8%	74.6%
清拭・身体整容等	サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	76.4%	76.0%	65.3%	73.7%	73.4%
間接業務（職員や法人に関係すること）	洗面・手洗い介助（入浴時除く）	86.2%	89.6%	2.0%	89.0%	73.0%
清拭・身体整容等	行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	82.9%	86.4%	23.8%	76.3%	72.9%
社会生活支援	食事介助（摂食介助）	86.2%	88.0%	4.1%	87.3%	72.4%
食事	入居者・利用者の行動障害への予防的対応	65.9%	88.3%	25.2%	78.8%	71.9%
行動障害への対応	トイレへの移動介助	91.9%	86.4%	2.7%	74.6%	70.3%
排泄	更衣介助（排泄・入浴除く）	87.8%	83.5%	2.0%	87.3%	70.2%
清拭・身体整容等	外出時の介助	60.2%	84.3%	36.7%	71.2%	69.6%
社会生活支援	病気の症状への対応（診察介助等）	53.7%	76.8%	58.5%	71.2%	69.2%
健康管理	整容介助（排泄・入浴除く）	87.8%	82.7%	2.7%	78.8%	68.4%
清拭・身体整容等	利用者・入居者やその家族からの苦情対応	53.7%	74.1%	64.6%	64.4%	67.8%
面談、苦情対応	簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援	69.1%	77.1%	30.6%	74.6%	67.3%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	移動介助（排泄・入浴除く）	89.4%	81.9%	2.0%	61.0%	65.3%
移乗・移動	浴室への移乗・体位交換	91.9%	76.3%	3.4%	62.7%	63.0%
入浴	排泄時の移乗・体位交換	89.4%	76.8%	1.4%	54.2%	61.5%
排泄	（ベッドから車いす等への）移乗介助	91.1%	72.5%	2.0%	47.5%	58.8%
移乗・移動	記録・文章作成（総務・庶務作業等）	43.1%	58.4%	76.2%	54.2%	58.4%
間接業務（職員や法人に関係すること）	他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	53.7%	50.4%	67.3%	58.5%	55.6%
間接業務（利用者に関係すること）	寝返りや起き上がりの介助	86.2%	65.3%	3.4%	43.2%	54.5%
体位変換	立位保持の介助	82.1%	68.5%	2.0%	38.1%	54.0%
姿勢保持	座位保持の介助	82.1%	65.3%	2.0%	38.1%	52.3%
姿勢保持	入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	36.6%	58.9%	15.6%	50.8%	46.6%
行動障害への対応	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	39.0%	57.6%	10.9%	39.8%	42.9%
機能訓練	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	56.9%	44.3%	8.2%	33.9%	37.4%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	職員のシフト作成	41.5%	33.1%	49.7%	32.2%	37.4%
間接業務（職員や法人に関係すること）	職業訓練等の準備・実施・後片付け	16.3%	31.7%	13.6%	23.7%	25.1%
社会生活支援	調理作業	6.5%	17.3%	44.2%	16.1%	20.3%
間接業務（利用者に関係すること）	無回答	0.8%	0.5%	3.4%	0.0%	1.1%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い5項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

中分類¹¹でみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が **96.5%**と最も多く、以下、「情報入手・意思表出・コミュニケーション支援」（**95.3%**）、「健康管理」（**93.5%**）と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で **9** 割以上が「間接業務（利用者に関係すること）」と回答していた。また、身体障害では「食事」や「入浴」、「排泄」も上位 **3** 項目に入っていた。

図表 100 日勤時に従事している業務（中分類）（複数回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
間接業務（利用者に関係すること）	96.7%	98.1%	90.5%	98.3%	96.5%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	98.4%	97.3%	84.4%	97.5%	95.3%
健康管理	90.2%	97.3%	87.8%	91.5%	93.5%
安心・安全対策	93.5%	96.0%	78.9%	91.5%	91.8%
日常生活支援	89.4%	95.2%	83.0%	91.5%	91.4%
間接業務（職員や法人に関係すること）	87.0%	89.3%	85.0%	81.4%	86.7%
行動障害への対応	86.2%	96.0%	44.9%	89.8%	84.5%
食事	94.3%	95.2%	33.3%	97.5%	84.1%
社会生活支援	87.0%	93.1%	49.7%	83.9%	82.6%
面談、苦情対応	72.4%	86.9%	77.6%	80.5%	81.7%
入浴	94.3%	94.1%	21.1%	97.5%	80.9%
排泄	94.3%	92.5%	10.9%	94.9%	78.3%
清拭・身体整容等	93.5%	93.9%	2.7%	94.9%	77.4%
移乗・移動	93.5%	85.3%	2.0%	65.3%	68.4%
姿勢保持	84.6%	72.8%	2.0%	43.2%	57.3%
体位変換	86.2%	65.3%	3.4%	43.2%	54.5%
機能訓練	39.0%	57.6%	10.9%	39.8%	42.9%
無回答	0.8%	0.5%	3.4%	0.0%	1.1%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い **3** 項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

¹¹ いずれかの小分類の項目に回答されていた場合、その項目を含む中分類の項目についても回答しているとみなして、中分類での再集計をしている。例えば、「座位保持の介助」あるいは「立位保持の介助」のいずれか 1 つを回答した場合は、「姿勢保持」に集計している。なお、中分類と小分類との関係性については次ページの図表 101 を参照。（以下同様）

図表 101 (参考) 業務に関する中分類と小分類の関係

中分類	小分類
体位変換	寝返りや起き上がりの介助
姿勢保持	座位保持の介助
	立位保持の介助
移乗・移動	(ベッドから車いす等への) 移乗介助
	移動介助 (排泄・入浴除く)
清拭・身体整容等	整容介助 (排泄・入浴除く)
	更衣介助 (排泄・入浴除く)
	口腔ケア介助 (義歯を含む)
	洗面・手洗い介助 (入浴時除く)
食事	食事介助 (摂食介助)
	食事の配膳・下膳の準備等
入浴	入浴準備
	入浴介助 (洗身・洗髪・洗面含む)
	浴室への移乗・体位交換
排泄	排泄介助 (失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む)
	トイレへの移動介助
	排泄時の移乗・体位交換
健康管理	観察・測定・検査 (バイタルチェック等)
	病気の症状への対応 (診察介助等)
	服薬確認・薬剤の与薬
日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理
	洗濯・整理整頓等の介助
	入所者・利用者の買い物支援
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援
	意思表示が難しい入所者等とのコミュニケーション
	簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援
	声かけ (日常会話等)
	ニーズ把握 (相談対応等)
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応
	入居者・利用者の行動障害への予防的対応
	入居者・利用者の行動障害への予防的訓練
	利用者・入居者からの暴言・暴力対応
安心・安全対策	巡視・見回り (容態の観察等)
	急変時・事故等への対応
	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練
社会生活支援	行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け
	職業訓練等の準備・実施・後片付け
	外出時の介助
面談、苦情対応	利用者・入居者の家族との面談
	利用者・入居者やその家族からの苦情対応
間接業務 (利用者に関係すること)	記録・文書作成 (ケース記録作成等)
	施設内環境整備 (ベッドメイキング等)
	サービス等利用計画関連 (プランの作成、会議等)
	調理作業
	他法人や他職種等との調整業務 (打合せ等)
間接業務 (職員や法人に関係すること)	記録・文書作成 (総務・庶務作業等)
	施設内調整業務・内部会議 (朝礼・申し送り等)
	職員のシフト作成

ｂ：日勤時に従事している業務のうち、著しく時間を費やしていると考える業務

日勤時に従事している業務のうち、著しく時間を費やしていると考える業務について、小分類でみると、全体では、「記録・文章作成（ケース記録作成等）」が **37.8%**と最も多く、以下、「入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）」（**35.2%**）、「排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）」（**32.7%**）と続いた。

図表 102 日勤時に従事している業務のうち、著しく時間を費やしていると考える業務（小分類）（複数回答）

中分類	小分類	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	全体
		n=123	n=375	n=147	n=118	n=826
間接業務（利用者に関係すること）	記録・文書作成（ケース記録作成等）	39.0%	43.2%	20.4%	35.6%	37.8%
入浴	入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）	45.5%	44.0%	0.7%	36.4%	35.2%
排泄	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）	48.0%	37.6%	1.4%	33.9%	32.7%
食事	食事介助（摂食介助）	35.0%	34.1%	0.7%	25.4%	27.6%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応	14.6%	32.0%	2.7%	28.0%	23.5%
間接業務（利用者に関係すること）	サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	23.6%	24.8%	15.6%	25.4%	23.5%
排泄	トイレへの移動介助	19.5%	27.7%	1.4%	15.3%	19.6%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	意思表出が難しい入所者等とのコミュニケーション	25.2%	20.0%	5.4%	21.2%	18.8%
間接業務（職員や法人に関係すること）	記録・文書作成（総務・庶務作業等）	13.0%	17.1%	19.0%	16.1%	17.6%
日常生活支援	洗濯・整理整頓等の介助	12.2%	22.9%	7.5%	16.1%	17.2%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的対応	8.9%	21.6%	2.7%	24.6%	17.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	声かけ（日常会話等）	15.4%	19.2%	11.6%	15.3%	16.8%
行動障害への対応	利用者・入居者からの暴言・暴力対応	11.4%	21.6%	4.1%	17.8%	16.2%
間接業務（職員や法人に関係すること）	職員のシフト作成	20.3%	15.2%	12.2%	15.3%	16.0%
日常生活支援	入所者・利用者の買い物支援	15.4%	18.4%	11.6%	9.3%	15.7%
清拭・身体整容等	更衣介助（排泄・入浴除く）	17.9%	14.9%	0.7%	17.8%	14.3%
社会生活支援	行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	11.4%	18.1%	1.4%	14.4%	13.8%
健康管理	服薬確認・薬剤の与薬	11.4%	17.3%	5.4%	13.6%	13.7%
清拭・身体整容等	口腔ケア介助（義歯を含む）	11.4%	18.9%	0.0%	15.3%	13.6%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	ニーズ把握（相談対応等）	17.9%	14.4%	11.6%	10.2%	13.6%
排泄	排泄時の移乗・体位交換	18.7%	16.5%	1.4%	11.9%	13.4%
間接業務（利用者に関係すること）	施設内環境整備（ベッドメイキング等）	13.8%	16.8%	3.4%	15.3%	13.3%
日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理	13.0%	14.4%	11.6%	8.5%	13.1%
間接業務（職員や法人に関係すること）	施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	17.1%	10.9%	12.2%	10.2%	13.0%
食事	食事の配膳・下膳の準備等	13.0%	16.3%	4.8%	11.0%	12.6%
移乗・移動	移動介助（排泄・入浴除く）	13.8%	15.5%	0.7%	14.4%	12.3%
安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）	12.2%	16.0%	3.4%	11.9%	12.2%
移乗・移動	（ベッドから車いす等への）移乗介助	29.3%	10.1%	0.0%	16.1%	12.1%
入浴	浴室への移乗・体位交換	16.3%	14.4%	0.7%	15.3%	12.0%
健康管理	観察・測定・検査（バイタルチェック等）	7.3%	13.6%	4.8%	8.5%	10.8%
安心・安全対策	急変時・事故等への対応	13.0%	11.5%	6.1%	9.3%	10.5%
社会生活支援	外出時の介助	14.6%	10.9%	4.1%	12.7%	10.4%
健康管理	病気の症状への対応（診察介助等）	7.3%	12.0%	9.5%	5.1%	9.8%
入浴	入浴準備	9.8%	11.7%	0.0%	8.5%	9.0%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援	5.7%	9.6%	4.8%	11.9%	8.6%
清拭・身体整容等	洗面・手洗い介助（入浴時除く）	9.8%	9.9%	0.0%	9.3%	8.1%
清拭・身体整容等	整容介助（排泄・入浴除く）	9.8%	10.1%	0.0%	7.6%	7.9%
間接業務（利用者に関係すること）	他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	6.5%	5.9%	8.8%	10.2%	7.7%
面談・苦情対応	利用者・入居者の家族との面談	7.3%	4.5%	11.6%	11.9%	7.1%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	3.3%	9.3%	1.4%	8.5%	7.0%
面談・苦情対応	利用者・入居者やその家族からの苦情対応	8.1%	6.9%	3.4%	11.0%	7.0%
体位変換	寝返りや起き上がりの介助	11.4%	4.3%	0.7%	7.6%	5.4%
機能訓練	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	2.4%	8.3%	2.7%	5.1%	5.4%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	4.9%	5.6%	1.4%	1.7%	4.0%
姿勢保持	立位保持の介助	2.4%	4.0%	0.7%	5.1%	3.3%
間接業務（利用者に関係すること）	調理作業	0.0%	2.9%	8.2%	1.7%	3.3%
社会生活支援	職業訓練等の準備・実施・後片付け	0.0%	4.3%	0.7%	3.4%	2.9%
姿勢保持	座位保持の介助	1.6%	3.2%	0.0%	4.2%	2.7%
無回答		8.9%	17.9%	58.5%	15.3%	22.8%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い **5** 項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

中分類でみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が**47.3%**と最も多く、以下、「入浴」（**38.0%**）、「排泄」（**37.7%**）と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で「間接業務（利用者に関係すること）」が最も多かった。他の業務についてみると、身体障害や知的障害、障害児では「入浴」や「排泄」が上位**3**項目に入っていたのに対し、精神障害では「情報入手・意思表出・コミュニケーション支援」や「間接業務（職員や法人に関係すること）」が上位**3**項目に入っていた。

**図表 103 日勤時に従事している業務のうち、
著しく時間を費やしていると考える業務（中分類）（複数回答）**

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
間接業務（利用者に関係すること）	56.1%	50.4%	27.2%	48.3%	47.3%
入浴	48.8%	47.2%	0.7%	39.0%	38.0%
排泄	52.0%	44.5%	1.4%	37.3%	37.7%
食事	38.2%	38.1%	5.4%	28.8%	31.4%
行動障害への対応	25.2%	38.7%	6.1%	35.6%	30.3%
日常生活支援	29.3%	36.3%	16.3%	22.9%	29.9%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	39.0%	30.7%	17.7%	26.3%	29.8%
間接業務（職員や法人に関係すること）	33.3%	27.7%	24.5%	30.5%	29.7%
清拭・身体整容等	26.8%	27.7%	0.7%	22.0%	23.2%
健康管理	18.7%	27.7%	10.9%	18.6%	22.3%
社会生活支援	22.0%	24.3%	6.1%	21.2%	20.1%
移乗・移動	33.3%	20.3%	0.7%	20.3%	18.8%
安心・安全対策	20.3%	22.7%	8.2%	16.9%	18.8%
面談、苦情対応	12.2%	8.5%	11.6%	14.4%	10.3%
体位変換	11.4%	4.3%	0.7%	7.6%	5.4%
機能訓練	2.4%	8.3%	2.7%	5.1%	5.4%
姿勢保持	2.4%	4.8%	0.7%	5.9%	3.9%
無回答	8.9%	17.9%	58.5%	15.3%	22.8%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い**3**項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

c：日勤時に従事している業務のうち、身体に過度な負担がかかっている業務

日勤時に従事している業務のうち、身体に過度な負担がかかっている業務について、小分類でみると、全体では、「入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）」が41.6%と最も多く、以下、「（ベッドから車いす等への）移乗介助」（31.6%）、「排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）」（30.9%）と続いた。

図表 104 日勤時に従事している業務のうち、
身体に過度な負担がかかっている業務（小分類）（複数回答）

中分類	小分類	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	全体
		n=123	n=375	n=147	n=118	n=826
入浴	入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）	50.4%	51.5%	3.4%	43.2%	41.6%
移乗・移動	（ベッドから車いす等への）移乗介助	62.6%	32.3%	0.0%	29.7%	31.6%
排泄	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）	49.6%	34.9%	1.4%	28.8%	30.9%
入浴	浴室への移乗・体位交換	44.7%	30.4%	1.4%	27.1%	26.8%
排泄	排泄時の移乗・体位交換	39.8%	28.5%	0.7%	22.0%	24.7%
排泄	トイレへの移動介助	22.0%	28.8%	0.7%	19.5%	21.1%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応	10.6%	29.6%	2.0%	28.8%	21.1%
行動障害への対応	利用者・入居者からの暴言・暴力対応	8.1%	30.1%	3.4%	22.9%	20.6%
体位変換	寝返りや起き上がりの介助	34.1%	20.0%	1.4%	22.0%	20.0%
移乗・移動	移動介助（排泄・入浴除く）	13.0%	20.5%	0.7%	17.8%	15.9%
清拭・身体整容等	更衣介助（排泄・入浴除く）	13.0%	11.5%	0.7%	15.3%	11.1%
姿勢保持	立位保持の介助	11.4%	8.5%	0.7%	11.0%	8.6%
間接業務（利用者に関係すること）	施設内環境整備（ベッドメーキング等）	9.8%	8.8%	4.1%	9.3%	8.1%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的対応	0.8%	11.2%	0.7%	8.5%	7.4%
安心・安全対策	急変時・事故等への対応	6.5%	8.8%	4.1%	0.8%	6.8%
社会生活支援	外出時の介助	4.9%	6.9%	4.1%	6.8%	6.4%
姿勢保持	座位保持の介助	8.1%	4.5%	0.0%	9.3%	5.4%
社会生活支援	行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	1.6%	8.5%	2.0%	3.4%	5.2%
間接業務（利用者に関係すること）	記録・文書作成（ケース記録作成等）	4.9%	6.4%	2.0%	3.4%	4.7%
日常生活支援	洗濯・整理整頓等の介助	1.6%	6.9%	2.7%	4.2%	4.6%
食事	食事介助（摂食介助）	6.5%	4.3%	0.0%	5.1%	4.4%
入浴	入浴準備	6.5%	4.0%	0.0%	7.6%	4.2%
健康管理	病気の症状への対応（診察介助等）	0.8%	5.3%	2.0%	4.2%	3.9%
安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）	4.1%	3.7%	1.4%	5.1%	3.5%
清拭・身体整容等	口腔ケア介助（義歯を含む）	1.6%	5.3%	0.0%	4.2%	3.4%
日常生活支援	入所者・利用者の買い物支援	2.4%	4.8%	2.0%	2.5%	3.4%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	0.8%	5.1%	0.7%	5.1%	3.4%
機能訓練	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	1.6%	4.8%	0.7%	2.5%	3.1%
清拭・身体整容等	洗面・手洗い介助（入浴時除く）	1.6%	3.5%	0.0%	3.4%	2.8%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	意思表出が難しい入所者等とのコミュニケーション	4.9%	2.7%	0.7%	1.7%	2.8%
清拭・身体整容等	整容介助（排泄・入浴除く）	2.4%	2.9%	0.0%	3.4%	2.7%
間接業務（職員や法人に関係すること）	記録・文書作成（総務・庶務作業等）	4.1%	2.7%	1.4%	2.5%	2.5%
食事	食事の配膳・下膳の準備等	1.6%	2.9%	0.0%	4.2%	2.4%
健康管理	服薬確認・薬剤の与薬	3.3%	2.4%	1.4%	2.5%	2.2%
間接業務（利用者に関係すること）	サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	0.8%	2.4%	2.7%	0.8%	2.1%
面談、苦情対応	利用者・入居者やその家族からの苦情対応	3.3%	1.6%	0.7%	1.7%	1.7%
間接業務（職員や法人に関係すること）	施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	0.8%	2.1%	2.0%	1.7%	1.7%
日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理	0.8%	1.9%	1.4%	0.8%	1.5%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	ニーズ把握（相談対応等）	0.8%	1.6%	1.4%	2.5%	1.5%
健康管理	観察・測定・検査（バイタルチェック等）	2.4%	1.1%	0.7%	1.7%	1.3%
社会生活支援	職業訓練等の準備・実施・後片付け	0.8%	1.9%	0.0%	1.7%	1.2%
間接業務（職員や法人に関係すること）	職員のシフト作成	1.6%	1.3%	1.4%	0.0%	1.2%
面談、苦情対応	利用者・入居者の家族との面談	2.4%	0.8%	1.4%	0.8%	1.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	声かけ（日常会話等）	0.0%	1.1%	1.4%	1.7%	1.0%
間接業務（利用者に関係すること）	他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	0.8%	0.8%	1.4%	0.8%	1.0%
間接業務（利用者に関係すること）	調理作業	0.0%	0.3%	3.4%	0.0%	0.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援	0.0%	0.8%	0.0%	0.8%	0.6%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
無回答		14.6%	20.0%	84.4%	25.4%	31.4%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い5項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

中分類でみると、全体では、「入浴」が**50.1%**と最も多く、以下、「排泄」(**41.3%**)、「移乗・移動」(**37.5%**)と続いた。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児で「入浴」が**5割以上**であった。また、身体障害では「排泄」や「移乗・移動」も**5割以上**となっていた。

図表 105 日勤時に従事している業務のうち、
身体に過度な負担がかかっている業務（中分類）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
入浴	67.5%	60.5%	3.4%	52.5%	50.1%
排泄	60.2%	49.6%	1.4%	39.0%	41.3%
移乗・移動	65.9%	40.8%	0.7%	35.6%	37.5%
行動障害への対応	13.8%	38.9%	5.4%	36.4%	28.5%
体位変換	34.1%	20.0%	1.4%	22.0%	20.0%
清拭・身体整容等	13.0%	15.7%	0.7%	16.9%	13.6%
間接業務（利用者に関係すること）	15.4%	14.4%	7.5%	11.9%	13.0%
社会生活支援	7.3%	13.3%	6.1%	8.5%	10.4%
姿勢保持	14.6%	10.1%	0.7%	11.9%	9.9%
安心・安全対策	9.8%	10.4%	4.8%	5.1%	8.7%
日常生活支援	4.9%	11.5%	4.1%	5.9%	7.9%
食事	6.5%	5.9%	0.0%	6.8%	5.4%
健康管理	4.9%	6.7%	2.7%	5.9%	5.4%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	5.7%	4.0%	2.0%	2.5%	3.9%
間接業務（職員や法人に関係すること）	4.1%	4.8%	2.0%	3.4%	3.9%
機能訓練	1.6%	4.8%	0.7%	2.5%	3.1%
面談、苦情対応	4.1%	2.1%	1.4%	1.7%	2.2%
無回答	14.6%	20.0%	84.4%	25.4%	31.4%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い**3項目**に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

d：日勤時に従事している業務のうち、精神的に強いストレスを感じながら実施している業務

日勤時に従事している業務のうち、精神的に強いストレスを感じながら実施している業務について、小分類でみると、全体では、「利用者・入居者からの暴言・暴力対応」が**49.0%**と最も多く、以下、「入居者・利用者の行動障害発生時の対応」(**40.4%**)、「利用者・入居者やその家族からの苦情対応」(**31.6%**)、「急変時・事故等への対応」(**30.5%**)と続いた。

図表 106 日勤時に従事している業務のうち、精神的に強いストレスを感じながら実施している業務（小分類）（複数回答）

中分類	小分類	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	全体
		n=123	n=375	n=147	n=118	n=826
行動障害への対応	利用者・入居者からの暴言・暴力対応	52.0%	58.4%	16.3%	49.2%	49.0%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応	34.1%	52.5%	9.5%	46.6%	40.4%
面談、苦情対応	利用者・入居者やその家族からの苦情対応	32.5%	32.0%	21.1%	38.1%	31.6%
安心・安全対策	急変時・事故等への対応	35.8%	34.4%	17.0%	26.3%	30.5%
健康管理	服薬確認・薬剤の与薬	22.8%	29.1%	3.4%	21.2%	22.5%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的対応	16.3%	27.7%	4.1%	22.0%	20.9%
排泄	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）	26.8%	26.4%	2.7%	10.2%	20.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	意思表出が難しい入所者等とのコミュニケーション	22.8%	24.0%	5.4%	16.9%	19.1%
食事	食事介助（摂食介助）	22.8%	19.2%	1.4%	15.3%	16.1%
面談、苦情対応	利用者・入居者の家族との面談	17.1%	15.2%	9.5%	20.3%	15.4%
入浴	入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）	21.1%	18.4%	0.7%	12.7%	15.1%
間接業務（利用者に関係すること）	記録・文書作成（ケース記録作成等）	15.4%	19.2%	6.8%	11.0%	14.9%
間接業務（利用者に関係すること）	サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	13.0%	13.9%	6.1%	11.9%	11.9%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	ニーズ把握（相談対応等）	17.1%	10.1%	6.8%	10.2%	10.7%
健康管理	病気の症状への対応（診察介助等）	7.3%	12.3%	5.4%	11.9%	10.0%
日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理	13.8%	10.9%	6.1%	3.4%	9.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	職員のシフト作成	13.8%	10.1%	3.4%	9.3%	9.6%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	5.7%	12.8%	1.4%	9.3%	9.0%
安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）	5.7%	12.3%	1.4%	7.6%	8.5%
社会生活支援	外出時の介助	4.9%	11.7%	0.7%	4.2%	8.0%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	声かけ（日常会話等）	9.8%	7.5%	8.8%	5.1%	7.7%
排泄	トイレへの移動介助	6.5%	10.7%	0.0%	5.9%	7.5%
間接業務（職員や法人に関係すること）	記録・文書作成（総務・庶務作業等）	6.5%	8.8%	5.4%	7.6%	7.5%
間接業務（職員や法人に関係すること）	施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	11.4%	8.0%	3.4%	5.1%	7.4%
入浴	浴室への移乗・体位交換	8.1%	10.4%	0.7%	5.1%	7.1%
日常生活支援	入所者・利用者の買い物支援	5.7%	10.1%	2.0%	2.5%	6.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援	3.3%	10.7%	1.4%	4.2%	6.7%
移乗・移動	（ベッドから車いす等への）移乗介助	11.4%	5.6%	0.0%	5.9%	5.9%
排泄	排泄時の移乗・体位交換	8.1%	7.5%	0.0%	3.4%	5.7%
健康管理	観察・測定・検査（バイタルチェック等）	6.5%	6.9%	1.4%	7.6%	5.6%
社会生活支援	行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	8.9%	7.2%	0.0%	4.2%	5.6%
間接業務（利用者に関係すること）	他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	6.5%	5.6%	3.4%	5.9%	5.6%
移乗・移動	移動介助（排泄・入浴除く）	2.4%	8.3%	0.0%	3.4%	5.1%
清拭・身体整容等	更衣介助（排泄・入浴除く）	5.7%	5.1%	0.0%	5.1%	4.4%
清拭・身体整容等	口腔ケア介助（義歯を含む）	3.3%	6.1%	0.0%	3.4%	4.2%
体位変換	寝返りや起き上がりの介助	8.9%	4.3%	0.0%	0.8%	4.0%
日常生活支援	洗濯・整理整頓等の介助	3.3%	4.3%	4.1%	0.8%	3.4%
食事	食事の配膳・下膳の準備等	2.4%	4.5%	0.0%	1.7%	2.8%
間接業務（利用者に関係すること）	施設内環境整備（ベッドメーカー等）	3.3%	2.7%	1.4%	1.7%	2.3%
姿勢保持	立位保持の介助	2.4%	2.4%	0.7%	1.7%	2.2%
清拭・身体整容等	洗面・手洗い介助（入浴時除く）	2.4%	2.7%	0.0%	1.7%	1.9%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	1.6%	3.2%	0.0%	0.0%	1.9%
機能訓練	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	2.4%	2.1%	0.7%	1.7%	1.8%
清拭・身体整容等	整容介助（排泄・入浴除く）	1.6%	2.1%	0.0%	0.8%	1.6%
入浴	入浴準備	1.6%	1.6%	0.7%	1.7%	1.6%
姿勢保持	座位保持の介助	1.6%	1.3%	0.0%	0.8%	1.2%
社会生活支援	職業訓練等の準備・実施・後片付け	0.8%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%
間接業務（利用者に関係すること）	調理作業	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.5%
無回答		10.6%	15.5%	55.8%	16.1%	22.4%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い**5項目**に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

中分類でみると、全体では、「行動障害への対応」が**58.1%**と最も多く、以下、「面談、苦情対応」(**34.7%**)、「安心・安全対策」(**33.3%**)と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で「行動障害への対応」や「面談、苦情対応」、「安心・安全対策」が上位**3**項目に入っていた。

図表 107 日勤時に従事している業務のうち、
精神的に強いストレスを感じながら実施している業務（中分類）（複数回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
行動障害への対応	59.3%	70.1%	20.4%	61.9%	58.1%
面談、苦情対応	35.8%	36.0%	22.4%	41.5%	34.7%
安心・安全対策	39.0%	38.9%	17.0%	28.0%	33.3%
健康管理	29.3%	32.8%	7.5%	28.0%	27.1%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	35.0%	29.6%	13.6%	20.3%	26.3%
排泄	30.9%	30.7%	2.7%	16.9%	23.8%
間接業務（利用者に関係すること）	26.8%	25.1%	11.6%	17.8%	21.7%
入浴	22.8%	21.9%	2.0%	16.1%	17.7%
間接業務（職員や法人に関係すること）	22.0%	19.2%	8.8%	15.3%	17.6%
食事	22.8%	20.8%	1.4%	16.1%	16.9%
日常生活支援	18.7%	17.1%	8.2%	5.1%	13.9%
社会生活支援	13.0%	16.0%	0.7%	6.8%	11.6%
移乗・移動	12.2%	11.2%	0.0%	8.5%	9.1%
清拭・身体整容等	8.9%	8.5%	0.0%	7.6%	7.3%
体位変換	8.9%	4.3%	0.0%	0.8%	4.0%
姿勢保持	3.3%	2.4%	0.7%	1.7%	2.3%
機能訓練	2.4%	2.1%	0.7%	1.7%	1.8%
無回答	10.6%	15.5%	55.8%	16.1%	22.4%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い**3**項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

e：日勤時に従事している業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務

日勤時に従事している業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務について、小分類でみると、全体では、「記録・文書作成（ケース記録作成等）」が30.1%と最も多く、以下、「入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）」（22.3%）、「（ベッドから車いす等への）移乗介助」（21.2%）と続いた。

図表 108 日勤時に従事している業務のうち、
効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務（小分類）（複数回答）

中分類	小分類	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	全体
		n=123	n=375	n=147	n=118	n=826
間接業務（利用者に関係すること）	記録・文書作成（ケース記録作成等）	37.4%	35.7%	15.0%	22.9%	30.1%
入浴	入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）	27.6%	27.2%	1.4%	21.2%	22.3%
移乗・移動	（ベッドから車いす等への）移乗介助	43.1%	20.3%	0.7%	20.3%	21.2%
入浴	浴室への移乗・体位交換	25.2%	19.2%	0.7%	18.6%	17.1%
間接業務（職員や法人に関係すること）	記録・文書作成（総務・庶務作業等）	14.6%	17.3%	10.9%	16.9%	15.5%
体位変換	寝返りや起き上がりの介助	29.3%	14.4%	1.4%	12.7%	14.4%
間接業務（利用者に関係すること）	サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	15.4%	16.8%	4.8%	16.1%	14.0%
排泄	排泄時の移乗・体位交換	24.4%	14.1%	0.0%	12.7%	13.9%
健康管理	観察・測定・検査（バイタルチェック等）	12.2%	18.4%	3.4%	12.7%	13.9%
排泄	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）	20.3%	15.5%	0.7%	11.0%	13.6%
排泄	トイレへの移動介助	22.8%	13.3%	0.7%	15.3%	13.6%
安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）	15.4%	14.4%	2.7%	11.0%	12.0%
間接業務（職員や法人に関係すること）	施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	15.4%	11.7%	7.5%	14.4%	12.0%
間接業務（利用者に関係すること）	施設内環境整備（ベッドメーカー等）	9.8%	13.1%	2.0%	15.3%	11.1%
間接業務（職員や法人に関係すること）	職員のシフト作成	16.3%	11.7%	4.8%	12.7%	10.8%
日常生活支援	入所者・利用者の買い物支援	13.8%	13.9%	5.4%	1.7%	10.3%
移乗・移動	移動介助（排泄・入浴除く）	13.0%	10.9%	1.4%	10.2%	9.6%
日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理	7.3%	12.5%	6.1%	5.9%	9.6%
日常生活支援	洗濯・整理整頓等の介助	8.1%	10.1%	4.8%	8.5%	8.6%
健康管理	服薬確認・薬剤の与薬	10.6%	9.1%	1.4%	8.5%	8.2%
食事	食事の配膳・下膳の準備等	6.5%	9.6%	1.4%	7.6%	8.0%
姿勢保持	立位保持の介助	12.2%	8.3%	1.4%	6.8%	7.7%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応	6.5%	10.1%	2.0%	6.8%	7.6%
社会生活支援	行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	8.9%	9.1%	2.0%	5.9%	7.0%
行動障害への対応	利用者・入居者からの暴言・暴力対応	3.3%	10.7%	1.4%	3.4%	6.9%
姿勢保持	座位保持の介助	8.9%	8.0%	0.7%	5.9%	6.7%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的対応	5.7%	9.1%	0.0%	5.1%	6.5%
安心・安全対策	急変時・事故等への対応	9.8%	6.7%	1.4%	2.5%	5.8%
食事	食事介助（摂食介助）	5.7%	6.1%	0.7%	3.4%	5.4%
清拭・身体整容等	口腔ケア介助（義歯を含む）	5.7%	6.9%	0.7%	5.1%	5.2%
入浴	入浴準備	4.1%	5.6%	2.0%	5.9%	5.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	意思表出が難しい入所者等とのコミュニケーション	4.9%	6.1%	1.4%	3.4%	5.0%
間接業務（利用者に関係すること）	他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	4.9%	4.8%	2.0%	9.3%	4.7%
健康管理	病気の症状への対応（診察介助等）	4.1%	5.3%	2.0%	3.4%	4.4%
清拭・身体整容等	更衣介助（排泄・入浴除く）	7.3%	3.7%	0.7%	4.2%	4.2%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	声かけ（日常会話等）	5.7%	3.7%	3.4%	4.2%	4.2%
機能訓練	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	5.7%	6.1%	0.7%	1.7%	4.1%
清拭・身体整容等	洗面・手洗い介助（入浴時除く）	4.1%	4.5%	0.7%	2.5%	3.5%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援	3.3%	3.5%	0.7%	1.7%	3.1%
清拭・身体整容等	整容介助（排泄・入浴除く）	5.7%	2.7%	0.7%	5.1%	3.0%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	0.8%	4.5%	0.7%	1.7%	3.0%
面談、苦情対応	利用者・入居者の家族との面談	1.6%	2.7%	0.7%	4.2%	2.5%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	1.6%	3.7%	2.0%	0.8%	2.4%
社会生活支援	外出時の介助	0.0%	3.5%	0.7%	2.5%	2.2%
面談、苦情対応	利用者・入居者やその家族からの苦情対応	0.8%	1.9%	1.4%	3.4%	2.1%
間接業務（利用者に関係すること）	調理作業	0.8%	2.4%	4.1%	0.8%	2.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	ニーズ把握（相談対応等）	3.3%	1.3%	2.0%	2.5%	1.8%
社会生活支援	職業訓練等の準備・実施・後片付け	0.0%	2.7%	0.0%	1.7%	1.6%
無回答		14.6%	24.0%	72.8%	24.6%	31.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い5項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

中分類でみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が **37.0%**と最も多く、以下、「入浴」（**31.2%**）、「排泄」（**24.8%**）と続いた。

障害種別にみると、身体障害では「移乗・移動」が最も多かったのに対し、知的障害や精神障害、障害児では「間接業務（利用者に関係すること）」が最も多かった。

図表 109 日勤時に従事している業務のうち、
効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務（中分類）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
間接業務（利用者に関係すること）	43.1%	42.1%	17.0%	35.6%	37.0%
入浴	41.5%	37.1%	2.7%	31.4%	31.2%
排泄	39.8%	27.5%	0.7%	23.7%	24.8%
間接業務（職員や法人に関係すること）	31.7%	25.6%	13.6%	25.4%	24.5%
移乗・移動	44.7%	24.8%	1.4%	24.6%	24.3%
健康管理	19.5%	25.6%	5.4%	17.8%	19.7%
日常生活支援	22.0%	24.8%	10.9%	11.9%	19.6%
体位変換	29.3%	14.4%	1.4%	12.7%	14.4%
安心・安全対策	20.3%	16.8%	4.1%	12.7%	14.4%
行動障害への対応	9.8%	16.5%	2.7%	9.3%	12.3%
食事	11.4%	12.8%	2.0%	9.3%	11.0%
清拭・身体整容等	10.6%	11.5%	0.7%	8.5%	9.2%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	10.6%	9.6%	4.8%	6.8%	8.8%
姿勢保持	13.0%	9.6%	1.4%	6.8%	8.5%
社会生活支援	8.9%	10.1%	2.7%	6.8%	8.0%
機能訓練	5.7%	6.1%	0.7%	1.7%	4.1%
面談、苦情対応	2.4%	3.5%	1.4%	4.2%	3.3%
無回答	14.6%	24.0%	72.8%	24.6%	31.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い **3** 項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

f：日勤時の業務の中で、身体への負担が特に大きい業務

日勤時の業務の中で、身体への負担が特に大きい業務についてみると、全体では「入浴」が **28.6%** と最も多く、以下、「移乗・移動」(**15.3%**)、「行動障害への対応」(**14.6%**)と続いた。

障害種別にみると、身体障害は「移乗・移動」、知的障害では「入浴」、精神障害では「間接業務（利用者に関係すること）」、障害児では「行動障害への対応」がそれぞれ最も多かった。

図表 110 日勤時の業務の中で、身体への負担が特に大きい業務（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
入浴	26.8%	38.4%	2.7%	28.8%	28.6%
移乗・移動	37.4%	13.9%	0.0%	15.3%	15.3%
行動障害への対応	2.4%	16.5%	4.8%	32.2%	14.6%
排泄	21.1%	12.5%	0.7%	8.5%	11.1%
間接業務（利用者に関係すること）	0.8%	1.3%	8.8%	0.8%	2.4%
清拭・身体整容等	1.6%	2.7%	0.0%	2.5%	2.2%
体位変換	0.8%	1.9%	0.7%	1.7%	1.5%
日常生活支援	0.0%	1.1%	5.4%	0.0%	1.5%
健康管理	0.0%	1.1%	4.1%	0.0%	1.2%
安心・安全対策	0.8%	0.8%	3.4%	0.0%	1.2%
間接業務（職員や法人に関係すること）	0.0%	0.8%	2.7%	0.8%	1.1%
社会生活支援	0.0%	0.5%	2.7%	0.0%	0.7%
食事	0.8%	0.0%	2.0%	0.0%	0.5%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	0.8%	0.3%	0.7%	0.0%	0.5%
面談、苦情対応	0.8%	0.3%	0.7%	0.8%	0.5%
姿勢保持	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%
機能訓練	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
無回答	5.7%	7.5%	60.5%	8.5%	16.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い **3** 項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

g：日勤時の業務の中で、精神的にストレスを感じることに特に大きい業務

日勤時の業務の中で、精神的にストレスを感じることに特に大きい業務についてみると、全体では、「行動障害への対応」が **36.8%**と最も多く、以下、「面談、苦情対応」(**13.6%**)と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で「行動障害への対応」が最も多く、特に知的障害や障害児では **4割以上**が回答していた。

図表 111 日勤時の業務の中で、精神的にストレスを感じることに特に大きい業務（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	合計 n=826
行動障害への対応	26.0%	46.9%	14.3%	40.7%	36.8%
面談、苦情対応	12.2%	11.2%	13.6%	23.7%	13.6%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	8.9%	4.0%	7.5%	5.9%	5.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	5.7%	4.5%	7.5%	4.2%	5.3%
健康管理	4.1%	5.3%	4.1%	3.4%	4.8%
排泄	7.3%	5.3%	0.7%	5.1%	4.7%
安心・安全対策	10.6%	3.2%	6.1%	2.5%	4.6%
間接業務（利用者に関係すること）	4.9%	4.5%	5.4%	2.5%	4.4%
入浴	6.5%	3.2%	0.7%	1.7%	3.3%
日常生活支援	4.9%	3.2%	6.1%	0.0%	3.3%
食事	0.8%	0.3%	0.0%	5.1%	1.1%
移乗・移動	0.8%	0.8%	0.7%	0.8%	1.0%
清拭・身体整容等	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.6%
社会生活支援	1.6%	0.8%	0.0%	0.0%	0.6%
体位変換	0.8%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%
機能訓練	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
姿勢保持	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	4.9%	4.8%	33.3%	4.2%	10.0%
全 体	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い **3項目**に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

h：日勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務

日勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務についてみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が20.9%と最も多く、以下、「入浴」（11.9%）、「間接業務（職員や法人に関係すること）」（11.7%）と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で「間接業務（利用者に関係すること）」が上位3項目に入っていた。なお、身体障害では「移乗・移動」が「間接業務（利用者に関係すること）」と同様に最も多かった。

図表 112 日勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務
(単一回答)

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
間接業務（利用者に関係すること）	19.5%	22.4%	14.3%	23.7%	20.9%
入浴	12.2%	15.2%	0.0%	13.6%	11.9%
間接業務（職員や法人に関係すること）	8.1%	10.9%	16.3%	12.7%	11.7%
移乗・移動	19.5%	6.9%	0.7%	9.3%	8.6%
日常生活支援	4.9%	5.6%	7.5%	2.5%	5.2%
排泄	8.9%	5.1%	0.7%	6.8%	5.1%
健康管理	1.6%	6.4%	1.4%	4.2%	4.4%
行動障害への対応	3.3%	5.6%	2.0%	2.5%	3.8%
安心・安全対策	2.4%	1.3%	2.0%	3.4%	2.1%
体位変換	3.3%	1.6%	0.7%	2.5%	1.8%
社会生活支援	2.4%	2.1%	0.7%	1.7%	1.8%
食事	1.6%	1.6%	1.4%	0.8%	1.3%
清拭・身体整容等	0.0%	2.1%	0.0%	0.8%	1.2%
面談、苦情対応	1.6%	1.1%	0.7%	0.8%	1.0%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	0.8%	0.3%	0.7%	0.8%	0.6%
姿勢保持	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.4%
機能訓練	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.2%
無回答	9.8%	10.7%	51.0%	13.6%	18.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

i：日勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務

日勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務についてみると、全体では、「健康管理」が35.6%と最も多く、以下、「行動障害への対応」（8.8%）、「面談、苦情対応」（6.4%）と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で「健康管理」が最も多かった。

図表 113 日勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、
（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
健康管理	26.8%	42.4%	27.2%	32.2%	35.6%
行動障害への対応	4.9%	11.7%	1.4%	11.9%	8.8%
面談、苦情対応	12.2%	4.3%	2.0%	12.7%	6.4%
間接業務（利用者に関係すること）	6.5%	4.3%	8.8%	6.8%	5.8%
日常生活支援	12.2%	4.3%	4.1%	1.7%	4.7%
社会生活支援	4.1%	5.9%	2.0%	3.4%	4.5%
清拭・身体整容等	4.9%	4.5%	1.4%	0.8%	3.9%
食事	6.5%	2.4%	2.7%	5.1%	3.5%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	4.1%	3.5%	4.1%	2.5%	3.4%
間接業務（職員や法人に関係すること）	4.9%	2.1%	1.4%	4.2%	2.7%
安心・安全対策	1.6%	1.3%	2.7%	2.5%	1.8%
排泄	0.8%	1.6%	0.0%	1.7%	1.1%
入浴	1.6%	0.8%	0.0%	1.7%	1.0%
体位変換	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	0.4%
姿勢保持	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
移乗・移動	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
機能訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	8.1%	10.9%	42.2%	11.9%	16.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

」：夜勤時に従事している業務

夜勤時に従事している業務について、小分類でみると、全体では、「巡視・見回り（容態の観察等）」が **94.4%**と最も多く、以下、「排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）」（**87.1%**）、「記録・文章作成（ケース記録作成等）」（**85.2%**）と続いた。

図表 114 夜勤時に従事している業務（小分類）（複数回答）

中分類	小分類	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	全体
		n=104	n=323	n=33	n=108	n=620
安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）	89.4%	97.5%	75.8%	93.5%	94.4%
排泄	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）	87.5%	92.3%	21.2%	87.0%	87.1%
間接業務（利用者に関係すること）	記録・文章作成（ケース記録作成等）	77.9%	91.0%	57.6%	80.6%	85.2%
安心・安全対策	急変時・事故等への対応	80.8%	89.5%	69.7%	75.9%	84.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	声かけ（日常会話等）	75.0%	85.4%	57.6%	72.2%	79.2%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応	65.4%	89.5%	36.4%	72.2%	78.9%
排泄	トイレへの移動介助	80.8%	86.1%	12.1%	62.0%	76.9%
健康管理	観察・測定・検査（バイタルチェック等）	77.9%	83.0%	36.4%	66.7%	76.5%
行動障害への対応	利用者・入居者からの暴言・暴力対応	59.6%	82.0%	36.4%	54.6%	70.6%
健康管理	服薬確認・薬剤の与薬	66.3%	76.8%	51.5%	59.3%	69.8%
体位変換	寝返りや起き上がりの介助	88.5%	77.4%	3.0%	40.7%	68.7%
清拭・身体整容等	更衣介助（排泄・入浴除く）	73.1%	77.4%	12.1%	52.8%	68.5%
排泄	排泄時の移乗・体位交換	84.6%	73.7%	6.1%	43.5%	66.0%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的対応	52.9%	77.1%	15.2%	59.3%	66.0%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	意思表示が難しい入所者等とのコミュニケーション	60.6%	72.8%	21.2%	52.8%	65.3%
移乗・移動	移動介助（排泄・入浴除く）	66.3%	72.4%	3.0%	33.3%	60.6%
移乗・移動	（ベッドから車いす等への）移乗介助	79.8%	68.7%	3.0%	30.6%	59.7%
清拭・身体整容等	洗面・手洗い介助（入浴時除く）	58.7%	66.3%	9.1%	45.4%	57.4%
間接業務（利用者に関係すること）	施設内環境整備（ベッドメーカー等）	45.2%	68.1%	21.2%	44.4%	57.4%
健康管理	病気の症状への対応（診察介助等）	51.9%	65.0%	21.2%	50.9%	57.3%
清拭・身体整容等	整容介助（排泄・入浴除く）	53.8%	62.8%	9.1%	35.2%	53.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援	48.1%	61.9%	15.2%	42.6%	53.2%
清拭・身体整容等	口腔ケア介助（義歯を含む）	53.8%	61.0%	6.1%	41.7%	52.7%
食事	食事の配膳・下膳の準備等	49.0%	56.0%	21.2%	42.6%	49.7%
日常生活支援	洗濯・整理整頓等の介助	37.5%	60.1%	18.2%	42.6%	49.5%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	ニーズ把握（相談対応等）	45.2%	55.1%	30.3%	41.7%	49.4%
食事	食事介助（摂食介助）	48.1%	54.8%	3.0%	42.6%	47.9%
姿勢保持	立位保持の介助	58.7%	58.2%	3.0%	19.4%	47.6%
姿勢保持	座位保持の介助	60.6%	49.5%	6.1%	20.4%	43.7%
間接業務（職員や法人に関係すること）	記録・文章作成（総務・庶務作業等）	30.8%	42.1%	39.4%	38.0%	39.5%
間接業務（職員や法人に関係すること）	施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	37.5%	43.3%	27.3%	28.7%	38.2%
間接業務（利用者に関係すること）	サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	30.8%	36.2%	18.2%	31.5%	31.9%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	18.3%	38.7%	6.1%	27.8%	31.6%
日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理	22.1%	33.1%	18.2%	25.0%	27.9%
面談、苦情対応	利用者・入居者やその家族からの苦情対応	25.0%	26.9%	30.3%	23.1%	26.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	27.9%	28.8%	12.1%	17.6%	24.7%
入浴	入浴準備	14.4%	22.6%	15.2%	15.7%	18.5%
入浴	入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）	10.6%	22.6%	9.1%	16.7%	17.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	職員のシフト作成	24.0%	14.6%	12.1%	13.9%	16.3%
入浴	浴室への移乗・体位交換	9.6%	19.5%	3.0%	9.3%	14.0%
社会生活支援	行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	12.5%	11.8%	6.1%	17.6%	12.3%
面談、苦情対応	利用者・入居者の家族との面談	8.7%	11.1%	15.2%	17.6%	11.8%
日常生活支援	入所者・利用者の買い物支援	9.6%	13.0%	9.1%	12.0%	11.3%
機能訓練	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	7.7%	13.0%	3.0%	8.3%	10.2%
間接業務（利用者に関係すること）	他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	12.5%	9.0%	9.1%	12.0%	9.8%
社会生活支援	外出時の介助	6.7%	8.7%	6.1%	9.3%	7.9%
間接業務（利用者に関係すること）	調理作業	5.8%	5.6%	12.1%	6.5%	6.0%
社会生活支援	職業訓練等の準備・実施・後片付け	3.8%	5.9%	6.1%	8.3%	5.8%
無回答		8.7%	1.9%	15.2%	2.8%	3.9%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い **5** 項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

中分類でみると、全体では、「安心・安全対策」が**94.7%**と最も多く、以下、「間接業務（利用者に関係すること）」（**88.2%**）、「排泄」（**87.9%**）と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で「安心・安全対策」が最も多かった。また、身体障害では「体位変換」が**8割以上**と他の障害に比べて回答割合が高くなっていた。他方、精神障害では「健康管理」や「情報入手・意思表示・コミュニケーション支援」が上位**3項目**に入っていたものの、いずれも他の障害に比べると回答割合が低かった。

図表 115 夜勤時に従事している業務（中分類）（複数回答）

	身体障害 n=104	知的障害 n=323	精神障害 n=33	障害児 n=108	全体 n=620
安心・安全対策	90.4%	97.5%	75.8%	94.4%	94.7%
間接業務（利用者に関係すること）	82.7%	93.5%	63.6%	83.3%	88.2%
排泄	87.5%	92.9%	24.2%	88.9%	87.9%
健康管理	82.7%	91.3%	60.6%	76.9%	85.2%
行動障害への対応	73.1%	92.0%	48.5%	76.9%	83.4%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	80.8%	87.3%	60.6%	75.9%	82.4%
清拭・身体整容等	77.9%	81.1%	18.2%	62.0%	73.4%
体位変換	88.5%	77.4%	3.0%	40.7%	68.7%
移乗・移動	79.8%	78.9%	6.1%	37.0%	67.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	52.9%	59.4%	51.5%	51.9%	56.8%
日常生活支援	38.5%	65.3%	24.2%	46.3%	53.5%
食事	53.8%	58.8%	21.2%	48.1%	53.2%
姿勢保持	63.5%	60.7%	6.1%	25.0%	51.1%
面談、苦情対応	26.0%	27.9%	30.3%	25.0%	27.1%
入浴	15.4%	28.5%	18.2%	20.4%	22.9%
社会生活支援	12.5%	14.2%	12.1%	17.6%	13.9%
機能訓練	7.7%	13.0%	3.0%	8.3%	10.2%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い**3項目**に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

k：夜勤時に従事している業務のうち、著しく時間を費やしていると考える業務

夜勤時に従事している業務のうち、著しく時間を費やしていると考える業務について、小分類でみると、全体では、「排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）」が**38.9%**と最も多く、以下、「記録・文書作成（ケース記録作成等）」（29.8%）、「巡視・見回り（容態の観察等）」（23.9%）、「トイレへの移動介助」（20.0%）と続いた。

図表 116 夜勤時に従事している業務のうち、
著しく時間を費やしていると考える業務（小分類）（複数回答）

中分類	小分類	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	全体
		n=104	n=323	n=33	n=108	n=620
排泄	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）	47.1%	41.5%	6.1%	28.7%	38.9%
間接業務（利用者に関係すること）	記録・文書作成（ケース記録作成等）	31.7%	31.9%	9.1%	25.0%	29.8%
安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）	26.9%	27.2%	9.1%	13.0%	23.9%
排泄	トイレへの移動介助	17.3%	25.4%	3.0%	11.1%	20.0%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応	18.3%	23.2%	6.1%	15.7%	19.5%
清拭・身体整容等	更衣介助（排泄・入浴除く）	17.3%	20.7%	6.1%	14.8%	19.0%
排泄	排泄時の移乗・体位交換	20.2%	18.3%	3.0%	11.1%	16.6%
食事	食事介助（摂食介助）	17.3%	17.6%	0.0%	13.9%	16.3%
移乗・移動	（ベッドから車いす等への）移乗介助	24.0%	12.4%	0.0%	6.5%	12.6%
体位変換	寝返りや起き上がりの介助	22.1%	11.1%	3.0%	9.3%	12.4%
健康管理	観察・測定・検査（バイタルチェック等）	11.5%	13.3%	0.0%	10.2%	12.4%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的対応	10.6%	15.5%	0.0%	8.3%	12.4%
行動障害への対応	利用者・入居者からの暴言・暴力対応	8.7%	15.5%	6.1%	7.4%	12.4%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	意思表示が難しい入所者等とのコミュニケーション	14.4%	12.1%	6.1%	11.1%	12.3%
健康管理	服薬確認・薬剤の与薬	15.4%	12.7%	0.0%	10.2%	12.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	声かけ（日常会話等）	9.6%	9.9%	3.0%	15.7%	10.8%
間接業務（職員や法人に関係すること）	記録・文書作成（総務・庶務作業等）	6.7%	12.7%	9.1%	7.4%	10.6%
日常生活支援	洗濯・整理整頓等の介助	3.8%	13.0%	6.1%	8.3%	10.2%
安心・安全対策	急変時・事故等への対応	11.5%	10.5%	6.1%	7.4%	9.8%
清拭・身体整容等	口腔ケア介助（義歯を含む）	5.8%	11.5%	0.0%	9.3%	9.5%
間接業務（利用者に関係すること）	サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	6.7%	10.2%	3.0%	6.5%	8.5%
移乗・移動	移動介助（排泄・入浴除く）	8.7%	9.0%	3.0%	9.3%	8.4%
清拭・身体整容等	洗面・手洗い介助（入浴時除く）	4.8%	9.0%	0.0%	7.4%	7.7%
食事	食事の配膳・下膳の準備等	7.7%	9.0%	0.0%	5.6%	7.6%
清拭・身体整容等	整容介助（排泄・入浴除く）	7.7%	7.1%	0.0%	7.4%	7.4%
間接業務（利用者に関係すること）	施設内環境整備（ベッドメイキング等）	1.9%	9.6%	3.0%	3.7%	6.8%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援	5.8%	6.5%	3.0%	5.6%	5.8%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	ニーズ把握（相談対応等）	4.8%	5.3%	3.0%	6.5%	5.5%
健康管理	病気の症状への対応（診察介助等）	2.9%	5.6%	3.0%	3.7%	5.3%
間接業務（職員や法人に関係すること）	職員のシフト作成	7.7%	4.6%	9.1%	1.9%	4.7%
間接業務（職員や法人に関係すること）	施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	1.9%	6.2%	0.0%	1.9%	4.2%
姿勢保持	立位保持の介助	6.7%	3.7%	3.0%	2.8%	3.7%
入浴	入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）	1.0%	5.6%	0.0%	2.8%	3.7%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	1.9%	4.3%	0.0%	4.6%	3.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	4.8%	3.7%	0.0%	2.8%	3.5%
日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理	1.9%	3.4%	3.0%	1.9%	2.9%
姿勢保持	座位保持の介助	2.9%	2.8%	0.0%	3.7%	2.7%
面談、苦情対応	利用者・入居者やその家族からの苦情対応	1.0%	3.1%	3.0%	3.7%	2.7%
社会生活支援	行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	1.9%	1.9%	0.0%	4.6%	2.1%
入浴	入浴準備	1.0%	2.8%	0.0%	0.9%	1.9%
入浴	浴室への移乗・体位交換	0.0%	2.8%	0.0%	0.9%	1.8%
日常生活支援	入所者・利用者の買い物支援	1.0%	2.2%	0.0%	1.9%	1.6%
面談、苦情対応	利用者・入居者の家族との面談	1.0%	0.6%	0.0%	2.8%	1.0%
社会生活支援	外出時の介助	1.9%	0.6%	0.0%	0.9%	0.8%
間接業務（利用者に関係すること）	他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	1.9%	0.9%	0.0%	0.0%	0.8%
社会生活支援	職業訓練等の準備・実施・後片付け	0.0%	0.6%	0.0%	1.9%	0.6%
間接業務（利用者に関係すること）	調理作業	0.0%	0.3%	0.0%	0.9%	0.5%
機能訓練	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	1.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%
無回答		32.7%	28.8%	78.8%	33.3%	32.4%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い5項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

中分類でみると、全体では、「排泄」が**41.6%**と最も多く、以下、「間接業務（利用者に関係すること）」（**32.9%**）、「安心・安全対策」（**28.2%**）と続いた。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児で「排泄」が最も多かった。

図表 117 夜勤時に従事している業務のうち、
著しく時間を費やしていると考える業務（中分類）（複数回答）

	身体障害 n=104	知的障害 n=323	精神障害 n=33	障害児 n=108	全体 n=620
排泄	49.0%	44.3%	6.1%	30.6%	41.6%
間接業務（利用者に関係すること）	32.7%	35.6%	9.1%	27.8%	32.9%
安心・安全対策	33.7%	31.0%	12.1%	16.7%	28.2%
清拭・身体整容等	23.1%	26.6%	6.1%	16.7%	24.0%
行動障害への対応	21.2%	28.2%	9.1%	17.6%	24.0%
健康管理	20.2%	22.0%	3.0%	13.0%	19.4%
食事	18.3%	20.1%	0.0%	15.7%	18.2%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	21.2%	16.4%	9.1%	19.4%	17.6%
移乗・移動	25.0%	16.4%	3.0%	9.3%	15.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	11.5%	16.4%	9.1%	8.3%	13.7%
体位変換	22.1%	11.1%	3.0%	9.3%	12.4%
日常生活支援	4.8%	14.6%	6.1%	9.3%	11.5%
姿勢保持	6.7%	5.0%	3.0%	4.6%	4.8%
入浴	1.0%	7.1%	0.0%	2.8%	4.5%
面談、苦情対応	1.0%	3.1%	3.0%	4.6%	2.9%
社会生活支援	2.9%	2.2%	0.0%	4.6%	2.4%
機能訓練	1.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%
無回答	32.7%	28.8%	78.8%	33.3%	32.4%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い**3**項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

Ⅰ：夜勤時に従事している業務のうち、身体に過度な負担がかかっている業務

夜勤時に従事している業務のうち、身体に過度な負担がかかっている業務について、小分類でみると、全体では、「排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）」が 44.7%と最も多く、以下、「寝返りや起き上がりの介助」（30.3%）、「（ベッドから車いす等への）移乗介助」（30.0%）と続いた。

図表 118 夜勤時に従事している業務のうち、
身体に過度な負担がかかっている業務（小分類）（複数回答）

中分類	小分類	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	全体
		n=104	n=323	n=33	n=108	n=620
排泄	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）	55.8%	47.1%	9.1%	33.3%	44.7%
体位変換	寝返りや起き上がりの介助	51.0%	29.1%	0.0%	20.4%	30.3%
移乗・移動	（ベッドから車いす等への）移乗介助	47.1%	30.7%	0.0%	18.5%	30.0%
排泄	トイレへの移動介助	24.0%	30.7%	6.1%	14.8%	25.8%
排泄	排泄時の移乗・体位交換	32.7%	28.5%	3.0%	14.8%	25.5%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応	9.6%	24.1%	3.0%	20.4%	18.9%
行動障害への対応	利用者・入居者からの暴言・暴力対応	5.8%	23.5%	9.1%	16.7%	17.4%
移乗・移動	移動介助（排泄・入浴除く）	15.4%	15.2%	3.0%	12.0%	14.8%
清拭・身体整容等	更衣介助（排泄・入浴除く）	14.4%	14.9%	3.0%	9.3%	13.5%
姿勢保持	立位保持の介助	11.5%	9.3%	0.0%	5.6%	8.7%
安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）	7.7%	9.3%	6.1%	10.2%	8.7%
安心・安全対策	急変時・事故等への対応	5.8%	9.9%	9.1%	5.6%	8.2%
姿勢保持	座位保持の介助	8.7%	5.6%	0.0%	8.3%	6.8%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的対応	2.9%	8.4%	3.0%	7.4%	6.8%
間接業務（利用者に関係すること）	記録・文書作成（ケース記録作成等）	2.9%	8.0%	0.0%	4.6%	6.3%
入浴	入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）	2.9%	8.4%	3.0%	3.7%	6.1%
間接業務（利用者に関係すること）	施設内環境整備（ベッドメイキング等）	3.8%	6.2%	0.0%	3.7%	5.0%
入浴	浴室への移乗・体位交換	2.9%	6.5%	3.0%	0.0%	4.4%
日常生活支援	洗濯・整理整頓等の介助	1.0%	4.6%	3.0%	5.6%	4.4%
清拭・身体整容等	洗面・手洗い介助（入浴時除く）	1.9%	4.0%	0.0%	4.6%	3.5%
食事	食事介助（摂食介助）	0.0%	5.0%	0.0%	2.8%	3.5%
清拭・身体整容等	口腔ケア介助（義歯を含む）	1.0%	4.3%	0.0%	2.8%	3.2%
清拭・身体整容等	整容介助（排泄・入浴除く）	1.9%	3.4%	0.0%	1.9%	2.7%
健康管理	観察・測定・検査（バイタルチェック等）	1.9%	3.1%	0.0%	2.8%	2.6%
健康管理	服薬確認・薬剤の与薬	0.0%	2.5%	3.0%	1.9%	2.3%
健康管理	病気の症状への対応（診察介助等）	0.0%	3.1%	0.0%	0.9%	2.1%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	1.0%	2.8%	0.0%	2.8%	2.1%
食事	食事の配膳・下膳の準備等	0.0%	1.9%	0.0%	3.7%	1.9%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	意思表出が難しい入所者等とのコミュニケーション	1.0%	2.2%	0.0%	0.9%	1.6%
間接業務（利用者に関係すること）	サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	1.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	記録・文書作成（総務・庶務作業等）	1.0%	1.9%	0.0%	1.9%	1.5%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	簡易な言葉への言い換え等の説明等の支援	1.9%	1.2%	3.0%	0.0%	1.3%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	ニーズ把握（相談対応等）	1.0%	1.2%	3.0%	0.0%	1.0%
入浴	入浴準備	1.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.8%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	声かけ（日常会話等）	1.0%	0.9%	3.0%	0.0%	0.8%
社会生活支援	外出時の介助	1.0%	0.6%	3.0%	0.9%	0.8%
間接業務（職員や法人に関係すること）	施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	0.0%	1.2%	0.0%	0.9%	0.8%
社会生活支援	行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	0.0%	0.9%	0.0%	0.9%	0.6%
日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理	0.0%	0.0%	3.0%	0.9%	0.3%
機能訓練	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
間接業務（職員や法人に関係すること）	職員のシフト作成	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%
日常生活支援	入所者・利用者の買い物支援	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%
社会生活支援	職業訓練等の準備・実施・後片付け	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.2%
面談、苦情対応	利用者・入居者の家族との面談	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.2%
間接業務（利用者に関係すること）	調理作業	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
面談、苦情対応	利用者・入居者やその家族からの苦情対応	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
間接業務（利用者に関係すること）	他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答		21.2%	24.8%	78.8%	37.0%	29.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い 5 項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

中分類でみると、全体では、「排泄」が51.5%と最も多く、以下、「移乗・移動」(34.2%)、「体位変換」(30.3%)と続いた。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「排泄」が最も多かった。他の業務についてみると、身体障害では「移乗・移動」や「体位変換」が5割以上であった。他方、知的障害や精神障害、障害児については「行動障害への対応」が上位3項目に入っていた。

図表 119 夜勤時に従事している業務のうち、
身体に過度な負担がかかっている業務（中分類）（複数回答）

	身体障害 n=104	知的障害 n=323	精神障害 n=33	障害児 n=108	全体 n=620
排泄	61.5%	56.3%	9.1%	35.2%	51.5%
移乗・移動	50.0%	35.9%	3.0%	21.3%	34.2%
体位変換	51.0%	29.1%	0.0%	20.4%	30.3%
行動障害への対応	11.5%	32.5%	9.1%	26.9%	25.3%
清拭・身体整容等	15.4%	18.3%	3.0%	10.2%	15.8%
安心・安全対策	12.5%	16.1%	12.1%	13.9%	14.5%
間接業務（利用者に関係すること）	7.7%	12.7%	0.0%	8.3%	10.6%
姿勢保持	12.5%	10.2%	0.0%	9.3%	10.0%
入浴	3.8%	9.9%	3.0%	3.7%	7.1%
健康管理	1.9%	6.2%	3.0%	2.8%	4.8%
日常生活支援	1.0%	5.0%	3.0%	5.6%	4.5%
食事	0.0%	5.3%	0.0%	4.6%	4.4%
間接業務（職員や法人に関係すること）	1.0%	3.4%	0.0%	2.8%	2.6%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	1.9%	2.8%	3.0%	0.9%	2.3%
社会生活支援	1.0%	1.2%	3.0%	0.9%	1.1%
機能訓練	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
面談、苦情対応	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.2%
無回答	21.2%	24.8%	78.8%	37.0%	29.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

m：夜勤時に従事している業務のうち、精神的に強いストレスを感じながら実施している業務

夜勤時に従事している業務のうち、精神的に強いストレスを感じながら実施している業務について、小分類でみると、全体では、「入居者・利用者の行動障害発生時の対応」が42.6%と最も多く、以下、「利用者・入居者からの暴言・暴力対応」(40.6%)、「急変時・事故等への対応」(36.8%)と続いた。

図表 120 夜勤時に従事している業務のうち、
精神的に強いストレスを感じながら実施している業務（小分類）（複数回答）

中分類	小分類	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	全体
		n=104	n=323	n=33	n=108	n=620
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応	31.7%	49.2%	12.1%	41.7%	42.6%
行動障害への対応	利用者・入居者からの暴言・暴力対応	31.7%	48.0%	18.2%	27.8%	40.6%
安心・安全対策	急変時・事故等への対応	41.3%	38.7%	27.3%	27.8%	36.8%
排泄	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）	27.9%	26.3%	6.1%	10.2%	22.3%
健康管理	服薬確認・薬剤の与薬	19.2%	24.1%	9.1%	14.8%	21.0%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的対応	12.5%	23.5%	3.0%	15.7%	19.7%
安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）	19.2%	17.0%	6.1%	17.6%	16.5%
間接業務（利用者に関係すること）	記録・文書作成（ケース記録作成等）	12.5%	15.5%	9.1%	13.9%	14.4%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	意思表出が難しい入所者等とのコミュニケーション	11.5%	14.6%	3.0%	14.8%	14.0%
健康管理	病気の症状への対応（診察介助等）	12.5%	15.2%	3.0%	7.4%	12.4%
健康管理	観察・測定・検査（バイタルチェック等）	13.5%	9.9%	0.0%	9.3%	9.7%
面談、苦情対応	利用者・入居者やその家族からの苦情対応	12.5%	8.7%	9.1%	8.3%	9.4%
排泄	トイレへの移動介助	7.7%	11.5%	6.1%	1.9%	8.7%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	2.9%	8.4%	0.0%	7.4%	7.4%
食事	食事介助（摂食介助）	3.8%	8.0%	0.0%	8.3%	6.8%
体位変換	寝返りや起き上がりの介助	12.5%	5.6%	0.0%	3.7%	6.6%
排泄	排泄時の移乗・体位交換	7.7%	7.7%	6.1%	0.0%	6.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	声かけ（日常会話等）	6.7%	5.0%	3.0%	5.6%	5.8%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	ニーズ把握（相談対応等）	3.8%	6.5%	3.0%	8.3%	5.8%
間接業務（利用者に関係すること）	サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	3.8%	7.1%	3.0%	2.8%	5.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	記録・文書作成（総務・庶務作業等）	4.8%	6.2%	3.0%	2.8%	5.6%
清拭・身体整容等	更衣介助（排泄・入浴除く）	5.8%	6.5%	3.0%	1.9%	5.2%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援	3.8%	4.3%	3.0%	6.5%	5.2%
間接業務（職員や法人に関係すること）	職員のシフト作成	6.7%	5.0%	3.0%	3.7%	5.2%
移乗・移動	（ベッドから車いす等への）移乗介助	7.7%	5.0%	0.0%	0.0%	4.4%
移乗・移動	移動介助（排泄・入浴除く）	2.9%	5.3%	3.0%	1.9%	3.9%
間接業務（職員や法人に関係すること）	施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	3.8%	2.8%	0.0%	0.9%	2.9%
日常生活支援	洗濯・整理整頓等の介助	2.9%	3.1%	6.1%	0.9%	2.6%
姿勢保持	立位保持の介助	2.9%	3.1%	3.0%	0.0%	2.4%
間接業務（利用者に関係すること）	施設内環境整備（ベッドメーカー等）	1.0%	3.4%	3.0%	0.9%	2.4%
清拭・身体整容等	口腔ケア介助（義歯を含む）	1.0%	3.4%	0.0%	1.9%	2.3%
面談、苦情対応	利用者・入居者の家族との面談	1.9%	2.2%	3.0%	2.8%	2.3%
日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理	3.8%	2.2%	3.0%	0.0%	2.1%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	1.0%	2.5%	3.0%	0.9%	1.9%
食事	食事の配膳・下膳の準備等	1.0%	2.5%	0.0%	0.9%	1.6%
姿勢保持	座位保持の介助	1.9%	1.9%	0.0%	0.0%	1.5%
清拭・身体整容等	整容介助（排泄・入浴除く）	1.0%	2.2%	0.0%	0.0%	1.3%
入浴	入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）	1.9%	1.5%	0.0%	0.0%	1.3%
間接業務（利用者に関係すること）	他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	1.9%	0.9%	0.0%	1.9%	1.3%
清拭・身体整容等	洗面・手洗い介助（入浴時除く）	1.0%	1.5%	0.0%	0.0%	1.0%
日常生活支援	入所者・利用者の買い物支援	1.9%	1.2%	0.0%	0.0%	1.0%
機能訓練	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	1.9%	0.6%	0.0%	0.9%	1.0%
入浴	浴室への移乗・体位交換	1.9%	0.9%	0.0%	0.0%	0.8%
社会生活支援	行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	2.9%	0.3%	0.0%	0.0%	0.8%
入浴	入浴準備	1.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.5%
社会生活支援	外出時の介助	1.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.5%
間接業務（利用者に関係すること）	調理作業	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
社会生活支援	職業訓練等の準備・実施・後片付け	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
無回答		25.0%	22.3%	60.6%	33.3%	26.6%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い5項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

中分類でみると、全体では、「行動障害への対応」が**55.8%**と最も多く、以下、「安心・安全対策」(**42.9%**)、「健康管理」(**27.3%**)と続いた。

障害種別にみると、身体障害では「行動障害への対応」と「安心・安全対策」、知的障害や障害児では「行動障害への対応」が最も多かったのに対して、精神障害では「安心・安全対策」が最も多くなっていた。

図表 121 夜勤時に従事している業務のうち、
精神的に強いストレスを感じながら実施している業務（中分類）（複数回答）

	身体障害 n=104	知的障害 n=323	精神障害 n=33	障害児 n=108	全体 n=620
行動障害への対応	49.0%	63.5%	18.2%	46.3%	55.8%
安心・安全対策	49.0%	44.3%	30.3%	35.2%	42.9%
健康管理	26.9%	31.3%	9.1%	19.4%	27.3%
排泄	29.8%	29.1%	6.1%	11.1%	24.2%
間接業務（利用者に関係すること）	16.3%	18.6%	9.1%	13.9%	17.1%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	14.4%	17.0%	6.1%	16.7%	16.5%
間接業務（職員や法人に関係すること）	10.6%	10.5%	3.0%	6.5%	10.0%
面談、苦情対応	13.5%	9.3%	9.1%	8.3%	9.8%
食事	3.8%	9.6%	0.0%	9.3%	7.7%
体位変換	12.5%	5.6%	0.0%	3.7%	6.6%
清拭・身体整容等	5.8%	8.7%	3.0%	3.7%	6.6%
移乗・移動	8.7%	7.4%	3.0%	1.9%	6.3%
日常生活支援	4.8%	5.3%	6.1%	0.9%	4.2%
姿勢保持	2.9%	3.4%	3.0%	0.0%	2.6%
入浴	2.9%	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%
社会生活支援	2.9%	0.9%	0.0%	0.0%	1.1%
機能訓練	1.9%	0.6%	0.0%	0.9%	1.0%
無回答	25.0%	22.3%	60.6%	33.3%	26.6%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い**3**項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

n：夜勤時に従事している業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務

夜勤時に従事している業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務について、小分類でみると、全体では、「記録・文書作成（ケース記録作成等）」が25.8%と最も多く、以下、「巡視・見回り（容態の観察等）」（18.2%）、「排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）」（17.7%）と続いた。

図表 122 夜勤時に従事している業務のうち、
効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務（小分類）（複数回答）

中分類	小分類	身体障害	知的障害	精神障害	障害児	全体
		n=104	n=323	n=33	n=108	n=620
間接業務（利用者に関係すること）	記録・文書作成（ケース記録作成等）	22.1%	28.5%	6.1%	26.9%	25.8%
安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）	18.3%	20.7%	6.1%	14.8%	18.2%
排泄	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）	24.0%	17.0%	3.0%	13.9%	17.7%
体位変換	寝返りや起き上がりの介助	30.8%	15.2%	0.0%	9.3%	16.6%
移乗・移動	（ベッドから車いす等への）移乗介助	27.9%	14.9%	0.0%	11.1%	15.5%
排泄	排泄時の移乗・体位交換	18.3%	11.8%	0.0%	9.3%	12.3%
排泄	トイレへの移動介助	12.5%	12.1%	6.1%	10.2%	11.9%
健康管理	観察・測定・検査（バイタルチェック等）	11.5%	11.8%	0.0%	9.3%	10.8%
間接業務（職員や法人に関係すること）	記録・文書作成（総務・庶務作業等）	6.7%	10.8%	3.0%	11.1%	10.3%
間接業務（利用者に関係すること）	施設内環境整備（ベッドメイキング等）	5.8%	8.7%	0.0%	8.3%	7.7%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応	1.9%	9.6%	0.0%	10.2%	7.4%
健康管理	服薬確認・薬剤の与薬	7.7%	6.8%	6.1%	7.4%	7.3%
移乗・移動	移動介助（排泄・入浴除く）	9.6%	7.4%	3.0%	7.4%	7.1%
日常生活支援	洗濯・整理整頓等の介助	5.8%	7.4%	0.0%	6.5%	6.8%
安心・安全対策	急変時・事故等への対応	4.8%	7.4%	0.0%	7.4%	6.5%
間接業務（利用者に関係すること）	サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	3.8%	7.4%	0.0%	7.4%	6.5%
間接業務（職員や法人に関係すること）	施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	7.7%	6.5%	0.0%	5.6%	6.3%
姿勢保持	立位保持の介助	6.7%	6.2%	3.0%	3.7%	5.6%
清拭・身体整容等	更衣介助（排泄・入浴除く）	4.8%	6.8%	3.0%	1.9%	5.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	職員のシフト作成	6.7%	4.3%	6.1%	4.6%	5.2%
行動障害への対応	利用者・入居者からの暴言・暴力対応	1.9%	6.5%	3.0%	4.6%	5.0%
姿勢保持	座位保持の介助	4.8%	5.3%	3.0%	2.8%	4.7%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的対応	0.0%	6.8%	0.0%	5.6%	4.7%
入浴	入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）	1.0%	5.6%	0.0%	4.6%	4.0%
食事	食事の配膳・下膳の準備等	2.9%	3.7%	3.0%	4.6%	3.9%
健康管理	病気の症状への対応（診察介助等）	1.0%	4.3%	3.0%	4.6%	3.7%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	意思表出が難しい入所者等とのコミュニケーション	3.8%	1.9%	0.0%	1.9%	2.9%
食事	食事介助（摂食介助）	1.0%	2.2%	0.0%	2.8%	2.7%
清拭・身体整容等	整容介助（排泄・入浴除く）	3.8%	2.8%	0.0%	0.9%	2.4%
清拭・身体整容等	洗面・手洗い介助（入浴時除く）	3.8%	2.5%	0.0%	0.9%	2.4%
入浴	浴室への移乗・体位交換	0.0%	3.4%	0.0%	1.9%	2.3%
清拭・身体整容等	口腔ケア介助（義歯を含む）	2.9%	2.5%	0.0%	0.9%	1.9%
日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理	1.9%	2.2%	3.0%	0.9%	1.8%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援	1.0%	1.5%	3.0%	1.9%	1.8%
行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	0.0%	2.2%	0.0%	1.9%	1.6%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	声かけ（日常会話等）	0.0%	1.5%	3.0%	1.9%	1.5%
面談、苦情対応	利用者・入居者やその家族からの苦情対応	1.0%	0.3%	6.1%	4.6%	1.5%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	1.0%	1.9%	0.0%	0.9%	1.3%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	ニーズ把握（相談対応等）	1.0%	1.2%	0.0%	1.9%	1.1%
入浴	入浴準備	0.0%	1.2%	0.0%	1.9%	1.0%
間接業務（利用者に関係すること）	他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	1.0%	0.9%	0.0%	1.9%	1.0%
間接業務（利用者に関係すること）	調理作業	1.0%	0.6%	3.0%	0.9%	0.8%
社会生活支援	行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	0.0%	0.6%	0.0%	1.9%	0.6%
面談、苦情対応	利用者・入居者の家族との面談	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.6%
日常生活支援	入所者・利用者の買い物支援	0.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.5%
社会生活支援	外出時の介助	0.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.5%
機能訓練	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	0.0%	0.3%	0.0%	0.9%	0.3%
社会生活支援	職業訓練等の準備・実施・後片付け	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.2%
無回答		32.7%	36.8%	84.8%	37.0%	38.2%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い5項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

中分類でみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が **28.9%**と最も多く、以下、「排泄」（**23.5%**）、「安心・安全対策」（**21.0%**）と続いた。

障害種別にみると、身体障害では「排泄」に加え、「移乗・移動」や「体位変換」が上位 **3** 項目に入っていた。

図表 123 夜勤時に従事している業務のうち、
効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務（中分類）（複数回答）

	身体障害 n=104	知的障害 n=323	精神障害 n=33	障害児 n=108	全体 n=620
間接業務（利用者に関係すること）	24. 0%	32. 2%	6. 1%	29. 6%	28. 9%
排泄	31. 7%	23. 2%	6. 1%	18. 5%	23. 5%
安心・安全対策	20. 2%	24. 5%	6. 1%	16. 7%	21. 0%
移乗・移動	29. 8%	17. 0%	3. 0%	13. 9%	17. 6%
体位変換	30. 8%	15. 2%	0. 0%	9. 3%	16. 6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	14. 4%	15. 5%	6. 1%	13. 9%	15. 5%
健康管理	14. 4%	16. 7%	9. 1%	12. 0%	15. 2%
行動障害への対応	3. 8%	13. 0%	3. 0%	13. 0%	10. 3%
日常生活支援	5. 8%	9. 9%	3. 0%	6. 5%	8. 2%
清拭・身体整容等	9. 6%	8. 0%	3. 0%	1. 9%	7. 4%
姿勢保持	6. 7%	6. 8%	6. 1%	3. 7%	6. 1%
食事	2. 9%	4. 6%	3. 0%	5. 6%	5. 0%
入浴	1. 0%	7. 1%	0. 0%	4. 6%	5. 0%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	5. 8%	4. 3%	3. 0%	2. 8%	4. 8%
面談、苦情対応	1. 0%	0. 3%	6. 1%	5. 6%	1. 6%
社会生活支援	0. 0%	1. 2%	0. 0%	1. 9%	1. 0%
機能訓練	0. 0%	0. 3%	0. 0%	0. 9%	0. 3%
無回答	32. 7%	36. 8%	84. 8%	37. 0%	38. 2%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い **3** 項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

○：夜勤時の業務の中で、身体への負担が特に大きい業務

夜勤時の業務の中で、身体への負担が特に大きい業務についてみると、全体では「排泄」が 35.5%と最も多く、以下、「移乗・移動」(15.0%)、「行動障害への対応」(13.1%)と続いた。

障害種別にみると、全ての障害において、「排泄」が最も多かった。

図表 124 夜勤時の業務の中で、身体への負担が特に大きい業務（単一回答）

	身体障害 n=104	知的障害 n=323	精神障害 n=33	障害児 n=108	全体 n=620
排泄	36.5%	35.3%	12.1%	31.5%	35.5%
移乗・移動	30.8%	14.6%	0.0%	8.3%	15.0%
行動障害への対応	1.0%	14.2%	6.1%	25.0%	13.1%
入浴	4.8%	6.5%	3.0%	4.6%	5.2%
清拭・身体整容等	3.8%	5.0%	0.0%	2.8%	4.4%
体位変換	5.8%	4.0%	0.0%	2.8%	3.7%
安心・安全対策	0.0%	3.4%	12.1%	2.8%	3.1%
日常生活支援	1.0%	2.8%	0.0%	2.8%	2.3%
健康管理	0.0%	0.9%	3.0%	0.9%	1.0%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	1.0%	0.3%	0.0%	0.9%	0.6%
間接業務（利用者に関係すること）	1.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.6%
食事	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
社会生活支援	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
面談、苦情対応	1.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.3%
間接業務（職員や法人に関係すること）	0.0%	0.0%	3.0%	0.9%	0.3%
姿勢保持	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
機能訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	13.5%	11.1%	57.6%	15.7%	14.4%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い 3 項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

p：夜勤時の業務の中で、精神的にストレスを感じる事が特に大きい業務

夜勤時の業務の中で、精神的にストレスを感じる事が特に大きい業務についてみると、全体では、「行動障害への対応」が 35.0%と最も多く、以下、「安心・安全対策」(12.7%)、「排泄」(11.8%)と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で「行動障害への対応」が最も多く、特に知的障害では4割以上が回答していた。

図表 125 夜勤時の業務の中で、精神的にストレスを感じる事が特に大きい業務（単一回答）

	身体障害 n=104	知的障害 n=323	精神障害 n=33	障害児 n=108	全体 n=620
行動障害への対応	24.0%	41.5%	15.2%	33.3%	35.0%
安心・安全対策	17.3%	10.2%	12.1%	16.7%	12.7%
排泄	15.4%	12.7%	3.0%	8.3%	11.8%
健康管理	6.7%	7.1%	3.0%	6.5%	6.8%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	4.8%	4.0%	0.0%	0.9%	4.2%
間接業務（職員や法人に関係すること）	2.9%	3.7%	6.1%	2.8%	3.9%
日常生活支援	4.8%	3.7%	6.1%	1.9%	3.4%
間接業務（利用者に関係すること）	3.8%	3.1%	3.0%	4.6%	3.2%
面談、苦情対応	1.9%	1.5%	6.1%	6.5%	2.9%
移乗・移動	1.9%	0.3%	0.0%	0.9%	0.8%
清拭・身体整容等	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.8%
体位変換	1.0%	0.3%	0.0%	0.9%	0.5%
食事	0.0%	0.3%	0.0%	1.9%	0.5%
社会生活支援	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%
姿勢保持	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%
入浴	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%
機能訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	15.4%	9.3%	45.5%	14.8%	12.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

q：夜勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務

夜勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務についてみると、全体では、「間接業務（利用者に関係すること）」が18.5%と最も多く、以下、「排泄」（10.6%）、「移乗・移動」（8.9%）と続いた。

障害種別にみると、身体障害では「排泄」と「移乗・移動」、知的障害や精神障害、障害児では「間接業務（利用者に関係すること）」が最も多かった。

図表 126 夜勤時の業務の中で、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務
(単一回答)

	身体障害 n=104	知的障害 n=323	精神障害 n=33	障害児 n=108	全体 n=620
間接業務（利用者に関係すること）	12.5%	19.2%	9.1%	25.9%	18.5%
排泄	14.4%	9.6%	3.0%	9.3%	10.6%
移乗・移動	14.4%	8.0%	3.0%	8.3%	8.9%
安心・安全対策	8.7%	9.0%	3.0%	8.3%	8.2%
間接業務（職員や法人に関係すること）	6.7%	6.8%	3.0%	4.6%	6.5%
健康管理	5.8%	4.6%	3.0%	3.7%	4.8%
体位変換	10.6%	3.1%	0.0%	3.7%	4.5%
行動障害への対応	1.0%	5.9%	0.0%	3.7%	4.0%
日常生活支援	1.9%	3.7%	0.0%	3.7%	3.2%
清拭・身体整容等	1.0%	1.9%	0.0%	0.9%	1.6%
食事	0.0%	1.9%	3.0%	2.8%	1.6%
入浴	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	1.6%
姿勢保持	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.6%
情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	1.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.6%
社会生活支援	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.6%
面談、苦情対応	1.0%	0.0%	3.0%	0.9%	0.6%
機能訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	21.2%	20.4%	69.7%	24.1%	23.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注) 調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

r：夜勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務

夜勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務についてみると、全体では、「健康管理」が31.9%と最も多く、以下、「行動障害への対応」（9.8%）、「安心・安全対策」（5.8%）と続いた。

障害種別にみると、全ての障害で「健康管理」が最も多かった。

図表 127 夜勤時の業務の中で、新型コロナウイルス感染症の流行後、
（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務（単一回答）

	身体障害 n=104	知的障害 n=323	精神障害 n=33	障害児 n=108	全体 n=620
健康管理	29.8%	34.4%	15.2%	28.7%	31.9%
行動障害への対応	8.7%	10.2%	0.0%	12.0%	9.8%
安心・安全対策	4.8%	6.2%	0.0%	7.4%	5.8%
間接業務（利用者に関係すること）	1.9%	5.9%	3.0%	3.7%	4.2%
清拭・身体整容等	4.8%	4.3%	3.0%	1.9%	4.0%
排泄	4.8%	2.8%	0.0%	3.7%	3.4%
日常生活支援	4.8%	1.9%	3.0%	0.9%	2.3%
面談、苦情対応	4.8%	0.9%	3.0%	3.7%	2.1%
食事	1.9%	1.9%	0.0%	2.8%	1.9%
社会生活支援	1.9%	2.8%	0.0%	0.0%	1.8%
情報入手・意思表出・コミュニケーション支援	1.0%	1.5%	0.0%	1.9%	1.6%
間接業務（職員や法人に関係すること）	1.0%	1.2%	3.0%	1.9%	1.5%
体位変換	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
移乗・移動	1.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.3%
入浴	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%	0.3%
姿勢保持	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.2%
機能訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	26.9%	25.4%	69.7%	29.6%	28.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（注）調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い3項目に網掛けを行っている（ただし、無回答除く）。

③ロボット介護機器等について

a：自動で体位変換を行うことが可能な支援機器【体位変換】に関する活用の可能性の有無

自動で体位変換を行うことが可能な支援機器【体位変換】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある¹²⁾」(33.2%)が「活用の可能性がない¹³⁾」(40.9%)を下回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 128 自動で体位変換を行うことが可能な支援機器【体位変換】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	12.2%	2.1%	0.0%	0.8%	3.4%
活用の可能性が大いにある	27.6%	14.7%	2.7%	8.5%	13.2%
活用の可能性が多少ある	22.8%	28.0%	0.7%	11.0%	20.0%
どちらともいえない	10.6%	16.3%	2.0%	11.0%	12.0%
活用の可能性はあまりない	8.9%	19.5%	14.3%	26.3%	17.9%
活用の可能性は全くない	9.8%	11.5%	55.8%	38.1%	23.0%
無回答	8.1%	8.0%	24.5%	4.2%	10.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	50.4%	42.7%	3.4%	19.5%	33.2%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	18.7%	30.9%	70.1%	64.4%	40.9%

(注) 小数点第2位を四捨五入しているため、例えば、「活用の可能性が大いにある」と「活用の可能性が多少ある」の数値を足し合わせても「活用の可能性がある」の数値と一致しない場合がある。（以下同様）

b：姿勢保持を容易にする介助（非装着型）ロボット【姿勢保持】に関する活用の可能性の有無

姿勢保持を容易にする介助（非装着型）ロボット【姿勢保持】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(36.4%)が「活用の可能性がない」(39.0%)を下回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 129 姿勢保持を容易にする介助（非装着型）ロボット【姿勢保持】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	3.3%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%
活用の可能性が大いにある	20.3%	19.2%	2.7%	11.9%	15.4%
活用の可能性が多少ある	28.5%	27.5%	4.1%	11.9%	21.1%
どちらともいえない	22.0%	20.0%	2.0%	11.0%	15.5%
活用の可能性はあまりない	13.8%	18.1%	12.2%	31.4%	18.5%
活用の可能性は全くない	7.3%	10.1%	53.7%	30.5%	20.5%
無回答	4.9%	4.3%	25.2%	3.4%	8.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	48.8%	46.7%	6.8%	23.7%	36.4%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	21.1%	28.3%	66.0%	61.9%	39.0%

¹²⁾ 「活用の可能性がある」は「活用の可能性が大いにある」と「活用可能性が多少ある」の合計。（以下同様）

¹³⁾ 「活用の可能性がない」は「活用の可能性はあまりない」と「活用可能性は全くない」の合計。（以下同様）

c：重量物の持ち上げ等を容易にする移乗介助（装着型）ロボット【移乗・移動】に関する活用の可能性の有無

重量物の持ち上げ等を容易にする移乗介助（装着型）ロボット【移乗・移動】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（46.1％）が「活用の可能性がない」（29.7％）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 130 重量物の持ち上げ等を容易にする移乗介助（装着型）ロボット【移乗・移動】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	10.6%	2.7%	0.0%	0.8%	3.5%
活用の可能性が大いにある	33.3%	31.2%	3.4%	17.8%	24.9%
活用の可能性が多少ある	25.2%	26.4%	4.1%	22.9%	21.2%
どちらともいえない	12.2%	15.5%	2.7%	11.9%	11.9%
活用の可能性はあまりない	8.1%	11.2%	12.2%	18.6%	12.1%
活用の可能性は全くない	2.4%	8.3%	52.4%	24.6%	17.6%
無回答	8.1%	4.8%	25.2%	3.4%	8.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	58.5%	57.6%	7.5%	40.7%	46.1%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	10.6%	19.5%	64.6%	43.2%	29.7%

d：マウスピース型口腔ケア補助ロボット【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無

マウスピース型口腔ケア補助ロボット【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（35.1％）と「活用の可能性がない」（34.9％）がほぼ同程度であった。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 131 マウスピース型口腔ケア補助ロボット【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
活用の可能性が大いにある	16.3%	19.2%	2.0%	12.7%	14.9%
活用の可能性が多少ある	22.8%	23.2%	5.4%	24.6%	20.2%
どちらともいえない	26.8%	29.3%	3.4%	21.2%	22.6%
活用の可能性はあまりない	22.0%	13.6%	12.2%	13.6%	14.9%
活用の可能性は全くない	8.9%	11.2%	52.4%	24.6%	20.0%
無回答	3.3%	3.5%	24.5%	3.4%	7.4%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	39.0%	42.4%	7.5%	37.3%	35.1%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	30.9%	24.8%	64.6%	38.1%	34.9%

e：衣服の着脱をサポートする支援機器【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無

衣服の着脱をサポートする支援機器【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(30.8%)が「活用の可能性がない」(38.7%)を下回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 132 衣服の着脱をサポートする支援機器【清拭・身体整容等】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
活用の可能性が大いにある	12.2%	14.1%	2.0%	5.9%	10.8%
活用の可能性が多少ある	25.2%	22.9%	4.8%	22.0%	20.0%
どちらともいえない	31.7%	28.8%	3.4%	17.8%	22.5%
活用の可能性はあまりない	17.1%	19.2%	12.9%	22.0%	18.0%
活用の可能性は全くない	8.1%	11.2%	51.7%	28.0%	20.7%
無回答	5.7%	3.7%	25.2%	4.2%	8.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	37.4%	37.1%	6.8%	28.0%	30.8%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	25.2%	30.4%	64.6%	50.0%	38.7%

f：自分で食事を行うことが可能な食事支援ロボット【食事】に関する活用の可能性の有無

自分で食事を行うことが可能な食事支援ロボット【食事】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(27.1%)が「活用の可能性がない」(45.4%)を下回った。

障害種別にみると、身体障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 133 自分で食事を行うことが可能な食事支援ロボット【食事】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
活用の可能性が大いにある	21.1%	12.5%	2.0%	0.8%	10.5%
活用の可能性が多少ある	23.6%	18.4%	4.8%	16.1%	16.6%
どちらともいえない	22.0%	26.9%	2.0%	16.1%	19.6%
活用の可能性はあまりない	17.1%	26.7%	12.9%	33.1%	23.0%
活用の可能性は全くない	10.6%	11.7%	53.1%	31.4%	22.4%
無回答	4.9%	3.7%	25.2%	2.5%	7.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	44.7%	30.9%	6.8%	16.9%	27.1%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	27.6%	38.4%	66.0%	64.4%	45.4%

g：浴槽内での姿勢保持や洗い場から浴槽部への出入り動作をサポートする入浴支援機器【入浴】に関する活用の可能性の有無

浴槽内での姿勢保持や洗い場から浴槽部への出入り動作をサポートする入浴支援機器【入浴】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(46.0%)が「活用の可能性がない」(27.1%)を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 134 浴槽内での姿勢保持や洗い場から浴槽部への出入り動作をサポートする入浴支援機器【入浴】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	8.9%	1.3%	0.0%	0.8%	2.5%
活用の可能性が大いにある	26.0%	28.3%	2.7%	16.1%	21.5%
活用の可能性が多少ある	26.0%	32.8%	5.4%	19.5%	24.5%
どちらともいえない	14.6%	14.9%	4.8%	19.5%	13.4%
活用の可能性はあまりない	8.1%	7.5%	11.6%	18.6%	10.3%
活用の可能性は全くない	6.5%	6.7%	51.0%	20.3%	16.8%
無回答	9.8%	8.5%	24.5%	5.1%	10.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	52.0%	61.1%	8.2%	35.6%	46.0%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	14.6%	14.1%	62.6%	39.0%	27.1%

h：浴槽につかるだけで汚れを落とす機能のある入浴機器【入浴】に関する活用の可能性の有無

浴槽につかるだけで汚れを落とす機能のある入浴機器【入浴】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(51.2%)が「活用の可能性がない」(24.8%)を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 135 浴槽につかるだけで汚れを落とす機能のある入浴機器【入浴】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.1%
活用の可能性が大いにある	32.5%	34.4%	4.1%	20.3%	26.9%
活用の可能性が多少ある	29.3%	28.3%	12.2%	24.6%	24.3%
どちらともいえない	22.0%	20.3%	4.1%	14.4%	16.3%
活用の可能性はあまりない	8.9%	6.7%	7.5%	14.4%	8.6%
活用の可能性は全くない	4.9%	6.4%	46.9%	23.7%	16.2%
無回答	2.4%	3.7%	25.2%	2.5%	7.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	61.8%	62.7%	16.3%	44.9%	51.2%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	13.8%	13.1%	54.4%	38.1%	24.8%

い：排便や排尿を検知する排泄検知センサー【排泄】に関する活用の可能性の有無

排便や排尿を検知する排泄検知センサー【排泄】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(50.5%)が「活用の可能性がない」(27.2%)を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 136 排便や排尿を検知する排泄検知センサー【排泄】に関する活用の可能性の有無
(単一回答)

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
活用の可能性が大いにある	36.6%	32.5%	4.8%	26.3%	28.1%
活用の可能性が多少ある	24.4%	27.2%	5.4%	26.3%	22.4%
どちらともいえない	17.9%	18.7%	6.1%	14.4%	15.3%
活用の可能性はあまりない	12.2%	11.5%	9.5%	13.6%	11.3%
活用の可能性は全くない	5.7%	7.5%	49.0%	16.9%	16.0%
無回答	2.4%	2.7%	25.2%	2.5%	6.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	61.0%	59.7%	10.2%	52.5%	50.5%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	17.9%	18.9%	58.5%	30.5%	27.2%

じ：居室等に設置できる水洗ポータブルトイレ【排泄】に関する活用の可能性の有無

居室等に設置できる水洗ポータブルトイレ【排泄】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(43.3%)が「活用の可能性がない」(29.1%)を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 137 居室等に設置できる水洗ポータブルトイレ【排泄】に関する活用の可能性の有無
(単一回答)

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.8%	1.6%	0.0%	0.0%	1.0%
活用の可能性が大いにある	22.0%	29.6%	3.4%	9.3%	20.7%
活用の可能性が多少ある	30.1%	27.5%	8.8%	16.1%	22.6%
どちらともいえない	22.0%	20.3%	5.4%	17.8%	17.4%
活用の可能性はあまりない	19.5%	8.3%	10.2%	25.4%	13.1%
活用の可能性は全くない	2.4%	5.9%	46.9%	27.1%	16.0%
無回答	3.3%	6.9%	25.2%	4.2%	9.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	52.0%	57.1%	12.2%	25.4%	43.3%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	22.0%	14.1%	57.1%	52.5%	29.1%

ⅳ：疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末【健康管理】に関する活用の可能性の有無

疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末【健康管理】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（58.7％）が「活用の可能性がない」（19.4％）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 138 疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末【健康管理】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	2.4%	0.8%	0.0%	0.8%	1.0%
活用の可能性が大いにある	30.9%	34.9%	10.9%	24.6%	28.3%
活用の可能性が多少ある	32.5%	32.5%	20.4%	33.1%	30.4%
どちらともいえない	17.1%	14.4%	11.6%	14.4%	14.4%
活用の可能性はあまりない	8.1%	7.7%	7.5%	12.7%	8.4%
活用の可能性は全くない	5.7%	5.6%	31.3%	11.0%	11.0%
無回答	3.3%	4.0%	18.4%	3.4%	6.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	63.4%	67.5%	31.3%	57.6%	58.7%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	13.8%	13.3%	38.8%	23.7%	19.4%

ⅳ：服薬管理・服薬支援ロボット【健康管理】に関する活用の可能性の有無

服薬管理・服薬支援ロボット【健康管理】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（50.8％）が「活用の可能性がない」（23.0％）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。また、精神障害では「活用の可能性がある」と「活用の可能性がない」が同じ割合であった。

図表 139 服薬管理・服薬支援ロボット【健康管理】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
活用の可能性が大いにある	26.8%	26.9%	15.6%	24.6%	24.7%
活用の可能性が多少ある	28.5%	28.0%	21.1%	26.3%	26.2%
どちらともいえない	26.0%	22.1%	8.2%	19.5%	20.3%
活用の可能性はあまりない	7.3%	11.7%	12.2%	13.6%	11.0%
活用の可能性は全くない	8.1%	8.3%	24.5%	13.6%	12.0%
無回答	3.3%	2.9%	18.4%	2.5%	5.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	55.3%	54.9%	36.7%	50.8%	50.8%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	15.4%	20.0%	36.7%	27.1%	23.0%

m：障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ【日常生活支援】に関する活用の可能性の有無

障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ【日常生活支援】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(55.3%)が「活用の可能性がない」(19.2%)を上回った。

障害種別にみると、全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 140 障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ【日常生活支援】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%
活用の可能性が大いにある	28.5%	33.1%	19.0%	20.3%	28.0%
活用の可能性が多少ある	27.6%	29.6%	19.0%	32.2%	27.4%
どちらともいえない	24.4%	20.8%	14.3%	16.9%	19.7%
活用の可能性はあまりない	9.8%	8.5%	9.5%	12.7%	9.3%
活用の可能性は全くない	4.9%	4.5%	24.5%	13.6%	9.9%
無回答	3.3%	3.5%	13.6%	4.2%	5.4%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	56.1%	62.7%	38.1%	52.5%	55.3%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	14.6%	13.1%	34.0%	26.3%	19.2%

n：顔の筋肉の動き等を捕捉し、感情をデータ化・分析する感情認識 AI【情報入手・意思表出・コミュニケーション支援】に関する活用の可能性の有無

顔の筋肉の動き等を捕捉し、感情をデータ化・分析する感情認識 AI【情報入手・意思表出・コミュニケーション支援】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(38.6%)が「活用の可能性がない」(27.4%)を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 141 顔の筋肉の動き等を捕捉し、感情をデータ化・分析する感情認識 AI【情報入手・意思表出・コミュニケーション支援】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
活用の可能性が大いにある	17.9%	17.6%	5.4%	16.9%	15.4%
活用の可能性が多少ある	29.3%	23.2%	9.5%	32.2%	23.2%
どちらともいえない	30.1%	32.8%	19.7%	18.6%	28.2%
活用の可能性はあまりない	12.2%	12.3%	9.5%	11.9%	11.5%
活用の可能性は全くない	8.1%	11.2%	36.7%	16.9%	15.9%
無回答	2.4%	2.9%	19.0%	3.4%	5.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	47.2%	40.8%	15.0%	49.2%	38.6%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	20.3%	23.5%	46.3%	28.8%	27.4%

○：シルエット型のカメラやセンサー【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無

シルエット型のカメラやセンサー【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（47.7%）が「活用の可能性がない」（22.6%）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 142 シルエット型のカメラやセンサー【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	2.4%	1.6%	0.0%	0.8%	1.7%
活用の可能性が大いにある	18.7%	26.4%	6.1%	20.3%	20.8%
活用の可能性が多少ある	30.1%	31.5%	11.6%	29.7%	26.9%
どちらともいえない	29.3%	20.8%	15.6%	22.9%	21.2%
活用の可能性はあまりない	10.6%	8.3%	7.5%	11.0%	9.1%
活用の可能性は全くない	4.1%	7.7%	40.8%	11.0%	13.6%
無回答	4.9%	3.7%	18.4%	4.2%	6.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	48.8%	57.9%	17.7%	50.0%	47.7%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	14.6%	16.0%	48.3%	22.0%	22.6%

□：雑音低減・ノイズキャンセリング機能のある AI イヤホン【行動障害への対応】に関する z 活用の可能性の有無

雑音低減・ノイズキャンセリング機能のある AI イヤホン【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（40.7%）が「活用の可能性がない」（27.5%）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 143 雑音低減・ノイズキャンセリング機能のある AI イヤホン【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
活用の可能性が大いにある	9.8%	16.5%	4.8%	16.9%	13.8%
活用の可能性が多少ある	21.1%	32.3%	14.3%	28.8%	26.9%
どちらともいえない	35.8%	28.0%	13.6%	25.4%	25.5%
活用の可能性はあまりない	18.7%	11.7%	5.4%	14.4%	11.9%
活用の可能性は全くない	11.4%	8.0%	43.5%	11.9%	15.6%
無回答	3.3%	3.5%	18.4%	2.5%	6.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	30.9%	48.8%	19.0%	45.8%	40.7%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	30.1%	19.7%	49.0%	26.3%	27.5%

q：動物型や子ども型のコミュニケーションロボット【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無

動物型や子ども型のコミュニケーションロボット【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（41.0％）が「活用の可能性がない」（26.5％）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 144 動物型や子ども型のコミュニケーションロボット【行動障害への対応】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
活用の可能性が大いにある	13.8%	16.0%	4.8%	18.6%	14.8%
活用の可能性が多少ある	26.0%	32.5%	10.2%	24.6%	26.3%
どちらともいえない	31.7%	27.5%	17.7%	25.4%	25.3%
活用の可能性はあまりない	17.1%	11.7%	6.1%	12.7%	11.6%
活用の可能性は全くない	8.1%	7.7%	40.8%	14.4%	14.9%
無回答	3.3%	4.5%	20.4%	4.2%	7.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	39.8%	48.5%	15.0%	43.2%	41.0%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	25.2%	19.5%	46.9%	27.1%	26.5%

r：バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー【安心・安全対策】に関する活用の可能性の有無

バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー【安心・安全対策】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（62.7％）が「活用の可能性がない」（15.7％）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 145 バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー【安心・安全対策】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	4.9%	0.8%	0.0%	0.8%	1.3%
活用の可能性が大いにある	36.6%	40.3%	10.2%	28.8%	32.1%
活用の可能性が多少ある	35.0%	32.5%	19.0%	33.1%	30.6%
どちらともいえない	13.0%	11.7%	18.4%	12.7%	13.3%
活用の可能性はあまりない	4.9%	5.1%	7.5%	11.0%	6.5%
活用の可能性は全くない	1.6%	3.7%	31.3%	8.5%	9.2%
無回答	4.1%	5.9%	13.6%	5.1%	6.9%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	71.5%	72.8%	29.3%	61.9%	62.7%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	6.5%	8.8%	38.8%	19.5%	15.7%

s：リハビリサポートロボット・歩行訓練ロボット【機能訓練】に関する活用の可能性の有無

リハビリサポートロボット・歩行訓練ロボット【機能訓練】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(41.5%)が「活用の可能性がない」(29.5%)を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 146 リハビリサポートロボット・歩行訓練ロボット【機能訓練】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
活用の可能性が大いにある	30.9%	21.3%	2.0%	9.3%	17.4%
活用の可能性が多少ある	27.6%	32.8%	6.1%	16.9%	24.1%
どちらともいえない	26.0%	24.8%	10.2%	22.9%	22.2%
活用の可能性はあまりない	7.3%	10.1%	10.2%	14.4%	10.7%
活用の可能性は全くない	4.1%	8.0%	49.7%	33.9%	18.9%
無回答	2.4%	2.9%	21.8%	2.5%	6.4%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	58.5%	54.1%	8.2%	26.3%	41.5%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	11.4%	18.1%	59.9%	48.3%	29.5%

t：言語訓練を支援するソフト【機能訓練】に関する活用の可能性の有無

言語訓練を支援するソフト【機能訓練】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」(31.8%)が「活用の可能性がない」(36.0%)を下回った。

障害種別にみると、身体障害や障害児で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 147 言語訓練を支援するソフト【機能訓練】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
活用の可能性が大いにある	22.8%	8.5%	2.0%	11.9%	10.0%
活用の可能性が多少ある	26.8%	20.5%	8.8%	33.9%	21.8%
どちらともいえない	22.0%	33.3%	9.5%	22.9%	25.5%
活用の可能性はあまりない	15.4%	22.7%	9.5%	12.7%	17.4%
活用の可能性は全くない	10.6%	11.2%	49.0%	16.1%	18.5%
無回答	2.4%	3.7%	21.1%	2.5%	6.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	49.6%	29.1%	10.9%	45.8%	31.8%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	26.0%	33.9%	58.5%	28.8%	36.0%

u：電動ベッドの一部を電動車いすとして分離できる離床アシスト機器【社会生活支援】に関する活用の可能性の有無

電動ベッドの一部を電動車いすとして分離できる離床アシスト機器【社会生活支援】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（39.0％）が「活用の可能性がない」（36.0％）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 148 電動ベッドの一部を電動車いすとして分離できる離床アシスト機器【社会生活支援】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
活用の可能性が大いにある	26.0%	21.9%	2.7%	8.5%	17.1%
活用の可能性が多少ある	31.7%	26.7%	4.8%	15.3%	21.9%
どちらともいえない	20.3%	23.2%	8.2%	13.6%	18.2%
活用の可能性はあまりない	13.0%	13.9%	8.2%	22.9%	14.0%
活用の可能性は全くない	5.7%	10.7%	55.8%	35.6%	21.9%
無回答	2.4%	3.7%	20.4%	4.2%	6.8%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	57.7%	48.5%	7.5%	23.7%	39.0%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	18.7%	24.5%	63.9%	58.5%	36.0%

v：遠隔操作の対話型ロボット【面談、苦情対応】に関する活用の可能性の有無

遠隔操作の対話型ロボット【面談、苦情対応】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（26.9％）が「活用の可能性がない」（34.0％）を下回った。

障害種別にみると、身体障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 149 遠隔操作の対話型ロボット【面談、苦情対応】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.0%	0.3%	0.7%	0.0%	0.2%
活用の可能性が大いにある	11.4%	9.3%	4.8%	6.8%	8.6%
活用の可能性が多少ある	23.6%	18.1%	11.6%	20.3%	18.3%
どちらともいえない	38.2%	38.9%	17.0%	30.5%	33.2%
活用の可能性はあまりない	15.4%	17.9%	11.6%	20.3%	16.3%
活用の可能性は全くない	8.9%	11.7%	38.8%	19.5%	17.7%
無回答	2.4%	3.7%	15.6%	2.5%	5.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	35.0%	27.5%	16.3%	27.1%	26.9%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	24.4%	29.6%	50.3%	39.8%	34.0%

w：議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用の可能性の有無

議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（60.4％）が「活用の可能性がない」（15.6％）を上回った。

障害種別にみると、全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回っており、特に、障害児では7割以上が「活用の可能性がある」と回答していた。

図表 150 議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.5%
活用の可能性が大いにある	31.7%	36.8%	17.7%	35.6%	32.6%
活用の可能性が多少ある	28.5%	28.8%	19.0%	36.4%	27.8%
どちらともいえない	26.0%	17.3%	13.6%	13.6%	17.4%
活用の可能性はあまりない	3.3%	5.6%	5.4%	4.2%	5.1%
活用の可能性は全くない	6.5%	6.9%	27.9%	6.8%	10.5%
無回答	3.3%	3.7%	16.3%	3.4%	6.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	60.2%	65.6%	36.7%	72.0%	60.4%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	9.8%	12.5%	33.3%	11.0%	15.6%

x：パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB 会議アプリ【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用の可能性の有無

パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB 会議アプリ【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（54.8％）が「活用の可能性がない」（12.8％）を上回った。

障害種別にみると、全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回っており、身体障害や知的障害、障害児では5割以上が「活用の可能性がある」と回答していた。

図表 151 パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB 会議アプリ【間接業務（利用者に関係すること）】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	9.8%	3.7%	0.7%	1.7%	4.5%
活用の可能性が大いにある	25.2%	31.2%	15.0%	30.5%	27.5%
活用の可能性が多少ある	27.6%	27.5%	23.1%	32.2%	27.4%
どちらともいえない	20.3%	15.5%	10.9%	16.1%	15.1%
活用の可能性はあまりない	4.9%	4.8%	6.1%	5.1%	4.8%
活用の可能性は全くない	4.1%	4.0%	24.5%	4.2%	8.0%
無回答	8.1%	13.3%	19.7%	10.2%	12.7%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	52.8%	58.7%	38.1%	62.7%	54.8%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	8.9%	8.8%	30.6%	9.3%	12.8%

y：職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト（グループウェアやビジネスチャットアプリ）【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無

職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト（グループウェアやビジネスチャットアプリ）【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（56.2%）が「活用の可能性がない」（12.1%）を上回った。

障害種別にみると、全ての障害で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回っており、身体障害や知的障害、障害児では5割以上が「活用の可能性がある」と回答していた。

図表 152 職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト（グループウェアやビジネスチャットアプリ）【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	6.5%	2.4%	0.0%	0.8%	2.7%
活用の可能性が大いにある	30.9%	30.7%	21.1%	27.1%	28.6%
活用の可能性が多少ある	22.0%	30.4%	22.4%	31.4%	27.6%
どちらともいえない	26.0%	17.6%	8.8%	22.0%	17.9%
活用の可能性はあまりない	2.4%	4.5%	5.4%	2.5%	4.1%
活用の可能性は全くない	5.7%	3.2%	23.8%	5.9%	8.0%
無回答	6.5%	11.2%	18.4%	10.2%	11.1%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	52.8%	61.1%	43.5%	58.5%	56.2%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	8.1%	7.7%	29.3%	8.5%	12.1%

z：施設内でのインカム 【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無

施設内でのインカム 【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無についてみると、全体では、「活用の可能性がある」（52.4%）が「活用の可能性がない」（16.5%）を上回った。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。

図表 153 施設内でのインカム 【間接業務（職員や法人に関係すること）】に関する活用の可能性の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
既に導入している	8.9%	2.9%	0.0%	1.7%	3.0%
活用の可能性が大いにある	33.3%	23.5%	15.0%	31.4%	25.1%
活用の可能性が多少ある	24.4%	31.7%	16.3%	28.0%	27.4%
どちらともいえない	19.5%	20.0%	15.0%	15.3%	17.9%
活用の可能性はあまりない	6.5%	7.5%	8.2%	7.6%	7.4%
活用の可能性は全くない	2.4%	4.3%	28.6%	6.8%	9.1%
無回答	4.9%	10.1%	17.0%	9.3%	10.2%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
活用の可能性がある（「大いにある」と「多少ある」の合計）	57.7%	55.2%	31.3%	59.3%	52.4%
活用の可能性がない（「あまりない」と「全くない」の合計）	8.9%	11.7%	36.7%	14.4%	16.5%

aa： ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等の有無

ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等の有無についてみると、全体では、「懸念点や課題点がある」が 69.2%、「懸念点や課題点は特にない」が 23.8%であった。

障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では 7 割以上が「懸念点や課題点がある」と回答していた。

図表 154 ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等の有無（単一回答）

	身体障害 n=123	知的障害 n=375	精神障害 n=147	障害児 n=118	全体 n=826
懸念点や課題点がある	79. 7%	74. 4%	40. 1%	72. 9%	69. 2%
懸念点や課題点は特にない	16. 3%	20. 0%	44. 9%	21. 2%	23. 8%
無回答	4. 1%	5. 6%	15. 0%	5. 9%	6. 9%
合 計	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%

ab：（ロボット介護機器等の導入・活用に関する）具体的な懸念点や課題点等

aa：ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等の有無で「懸念点や課題点がある」と回答した方に対して、具体的な懸念点や課題点等を尋ねたところ、全体では、「入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい」が67.8%と最も多く、以下、「ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額」(64.5%)、「どのようなロボット介護機器等があるのか知らない」(62.9%)、「施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない」(62.9%)、「ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額」(59.3%)と続いた。

障害種別にみると、身体障害では「ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額」が最も多かったのに対して、知的障害や障害児では「入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい」、精神障害では「施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない」がそれぞれ最も多かった。

図表 155 （ロボット介護機器等の導入・活用に関する）具体的な懸念点や課題点等
(複数回答)

中分類	項目	身体障害 n=98	知的障害 n=279	精神障害 n=59	障害児 n=86	全体 n=572
業務プロセスの変更等	入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい	64.3%	68.5%	62.7%	73.3%	67.8%
導入・管理費用	ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額	67.3%	62.7%	64.4%	65.1%	64.5%
ロボット介護機器等の情報	どのようなロボット介護機器等があるのか知らない	61.2%	67.4%	50.8%	58.1%	62.9%
操作やメンテナンス	施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない	57.1%	63.8%	67.8%	62.8%	62.9%
導入・管理費用	ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額	60.2%	59.1%	57.6%	58.1%	59.3%
その他	入所者にあつたロボット介護機器等の選定・適合を行う専門家が施設内にいない	54.1%	54.5%	42.4%	46.5%	52.1%
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない	41.8%	53.8%	57.6%	47.7%	51.2%
導入環境の整備	施設内にロボット介護機器等を格納・収納しておくスペースがない	44.9%	48.0%	50.8%	52.3%	48.8%
ロボット介護機器等の情報	ロボット介護機器等で何ができるのかよくわからない	45.9%	50.9%	45.8%	52.3%	48.6%
導入環境の整備	(無線LANの整備や浴室の間口など)ロボット介護機器等の導入に必要なハード面の整備がなされていない	42.9%	48.0%	49.2%	45.3%	47.2%
その他	ケア行為に機器を活用した場合の効果が不明確	41.8%	51.3%	40.7%	44.2%	47.0%
耐久性や安全性	ロボット介護機器等の耐久性に対する懸念が払しょくできない(機器が壊れやすい・故障しやすい)	27.6%	41.2%	37.3%	47.7%	40.0%
業務プロセスの変更等	既存のケア行為や業務プロセスへの導入方法がイメージできない	38.8%	36.6%	33.9%	47.7%	37.8%
操作やメンテナンス	操作や取り回しが煩雑である	35.7%	34.1%	33.9%	24.4%	33.9%
ロボット介護機器等へのイメージ	入所者へのケアは人の手で行うべきと考える	21.4%	28.0%	33.9%	31.4%	28.3%
その他	加算や人員配置基準の緩和など、ロボット介護機器等を活用する制度的なインセンティブがない	18.4%	26.9%	49.2%	30.2%	28.1%
ロボット介護機器等へのイメージ	ロボット介護機器等によるケアを入所者やその家族が嫌がる	25.5%	22.2%	13.6%	18.6%	21.2%
ロボット介護機器等へのイメージ	現場職員のロボット介護機器等への抵抗感・拒否感が大きい	30.6%	17.9%	11.9%	17.4%	19.9%
業務プロセスの変更等	ロボット介護機器等に合わせてこれまでの業務やケアのやり方を変える負担が大きい	23.5%	16.5%	11.9%	11.6%	17.1%
ロボット介護機器等の情報	求める機能・性能を満たしたロボット介護機器が存在しない	18.4%	14.3%	16.9%	12.8%	15.6%
その他	その他	5.1%	3.2%	5.1%	3.5%	3.8%
無回答		0.0%	0.7%	1.7%	0.0%	0.5%

(注) 調査票の選択肢の順番ではなく、全体の回答割合の高い順に回答結果を掲載している。加えて、各障害種別で回答割合が高い5項目に網掛けを行っている(ただし、無回答除く)。

（３）アンケート調査結果のまとめ

アンケート調査から得られた結果のポイントをまとめると、以下のとおりとなった。

<施設票>

① 施設の状況について（図表 7、図表 9）

- 施設の入所者・利用者数をみると、「40～50 人未満」が 19.7%と最も多く、1 施設あたりの平均入所者・利用者数は 44.9 人であった。障害種別にみると、精神障害は他の障害に比べて、人数が少なかった（図表 7）。
- 施設の全入所者・利用者に占める強度行動障害のある方の割合についてみると、「3 割未満」が 34.0%、「3 割以上 5 割未満」が 11.8%、「5 割以上 8 割未満」が 11.3%となっており、多くの施設において強度行動障害のある入所者・利用者が一定程度所在することがうかがえた。障害種別にみると、知的障害では「いない」が 9.8%と、多くの知的障害の施設では入所者・利用者の中に強度行動障害の方が所在していることがうかがえた（図表 9）。

② 施設の職員の業務について

- 職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務（図表 13、図表 23）
 - ✓ 職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務は何か尋ねたところ、日勤時は「間接業務（利用者に関係すること）」が 56.4%と最も多く、以下、「入浴」（53.1%）、「食事」（49.1%）、「排泄」（45.1%）、「行動障害への対応」（37.3%）と続いていた。障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では、「間接業務（利用者に関係すること）」や「入浴」、「食事」等が上位 3 項目を占めた一方で、精神障害では「間接業務（利用者に関係すること）」や「間接業務（職員や法人に関係すること）」、「日常生活支援」が上位 3 項目に入っていた（図表 13）。
 - ✓ 夜勤時は「排泄」が 51.7%と最も多く、以下、「間接業務（利用者に関係すること）」（39.3%）、「安心・安全対策」（38.8%）、「行動障害への対応」（34.6%）となっていた。障害種別では、身体障害や知的障害で「排泄」が 5 割以上であった。また、身体障害では「移乗・移動」、知的障害では「行動障害への対応」がそれぞれ他の障害に比べて高かった（図表 23）。
- 職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務（図表 14、図表 24）
 - ✓ 職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務は何か尋ねたところ、日勤時は「入浴」が 71.0%と最も多く、以下、「排泄」（60.7%）、「移乗・移動」（47.7%）、「行動障害への対応」（37.7%）、「体位変換」（22.5%）と続いていた。障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「入浴」や「排泄」が上位 3 項目に入っていた（図表 14）。
 - ✓ 夜勤時は「排泄」が 70.7%と最も多く、以下、「移乗・移動」（42.7%）、「行動障害への対応」（40.1%）となっていた。障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「排泄」が 5 割以上であり、最も多かった。また、身体障害では「移乗・移動」や「体位変換」も 5 割以上であり、他の障害に比べて高かった（図表 24）。

- 職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務(図表 15、図表 25)
- ✓ 職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務は何か尋ねたところ、日勤時は「行動障害への対応」が 66.8%と最も多く、以下、「面談、苦情対応」(52.6%)、「間接業務(利用者に関係すること)」(41.3%)、「安心・安全対策」(40.6%)、「健康管理」(33.1%)と続いていた。障害種別にみると、身体障害では 6 割以上、知的障害では 8 割以上、障害児では 7 割以上が「行動障害への対応」と回答していた。他方、精神障害は「面談、苦情対応」が 45.1%と最も多かった(図表 15)。
- ✓ 夜勤時は「行動障害への対応」が 65.2%と最も多く、以下、「安心・安全対策」(60.3%)、「排泄」(41.5%)、「健康管理」(35.9%)、「間接業務(利用者に関係すること)」(31.7%)となっていた。障害種別にみると、全ての障害において、「行動障害への対応」や「安心・安全対策」が上位 3 項目に入っていた(図表 25)。

- 効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務(図表 16、図表 26)
- ✓ 効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務は何か尋ねたところ、日勤時は「間接業務(利用者に関係すること)」が 61.6%と最も多く、以下、「間接業務(職員や法人に関係すること)」(48.7%)、「入浴」(42.0%)、「移乗・移動」(33.3%)、「排泄」(26.4%)と続いていた。障害種別にみると、知的障害や精神障害、障害児では「間接業務(利用者に関係すること)」が最も多かった(図表 16)。
- ✓ 夜勤時は「間接業務(利用者に関係すること)」が 52.8%と最も多く、以下、「安心・安全対策」(34.1%)、「排泄」(30.7%)、「間接業務(職員や法人に関係すること)」(30.2%)となっていた。障害種別にみると、身体障害では「間接業務(利用者に関係すること)」と「移乗・移動」、知的障害、精神障害では「間接業務(利用者に関係すること)」、障害児では「安心・安全対策」と「排泄」がそれぞれ最も多かった(図表 26)。

- 新型コロナウイルス感染症の流行後、特に負担が増加した業務(図表 20、図表 30)
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の流行後、特に負担が増加した業務は何か尋ねたところ、日勤時は「健康管理」が 46.7%と最も多く、以下、「行動障害への対応」(6.1%)、「面談、苦情対応」(5.8%)と続いていた(図表 20)。
- ✓ 夜勤時は「健康管理」(43.7%)が最も多く、以下、「安心・安全対策」(10.2%)、「行動障害への対応」(6.9%)となっていた(図表 30)。

- ③ ロボット介護機器等の導入の可能性について(図表 31～図表 56)
- 障害者支援現場において活用可能性のある支援機器として、どのようなものがあるか尋ねたところ、以下のものについて「活用の可能性がある」(「活用の可能性が大いにある」と「活用可能性が多少ある」の合計)との回答が 5 割を超えていた(図表 31～図表 56)。
- ・ 議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト(62.8%)(図表 53)
- ・ バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー(60.9%)(図表 48)
- ・ 職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト(57.6%)(図表 55)

- ・ パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB 会議アプリ（56.4%）（図表 54）
 - ・ 施設内でのインカム（54.7%）（図表 56）
 - ・ 障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ（53.1%）（図表 43）
 - ・ 疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末（52.0%）（図表 41）
- 障害種別にみると、身体障害や知的障害では、「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回ったロボット介護機器等が多くみられた。反面、精神障害は多くの介護ロボット機器で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を下回っていたが、「障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ【日常生活支援】」や間接業務関連のロボット介護機器は「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回った。また、「服薬管理・服薬支援ロボット【健康管理】」も「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」をわずかに上回っていた。
- ④ ロボット介護機器等の導入の現状について（図表 57～図表 60、図表 62、図表 63）
- 施設におけるロボット介護機器等の導入状況についてみると、「既に導入している」と回答した施設は全体の 17.6%であった。障害種別にみると「既に導入している」と回答した割合は、身体障害では 43.6%、知的障害は 17.6%、障害児は 11.0%、精神障害は 1.2%であった（図表 57）。
 - 現在、ロボット介護機器を導入していない施設に対して、今後の導入意向を尋ねたところ、全体の 51.2%が「導入予定なし」と回答していた。障害種別にみると、「導入意向なし」の割合は、身体障害では 28.0%と低く、精神障害では 78.4%と高くなっていた（図表 58）。
 - ロボット介護機器等に対する関心の有無については、全体では 64.0%が「関心がある」と回答していた。障害種別にみると、精神障害では「関心がある」（39.9%）が「関心がない」（55.6%）を下回った（図表 59）。
 - ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等の有無については、74.1%が「懸念点や課題点がある」と回答していた。障害種別にみると、身体障害や知的障害では 8 割以上、障害児では 7 割以上が「懸念点や課題点がある」と回答していた（図表 60）。
 - 「懸念点や課題点がある」と回答した方に詳細を尋ねたところ、「ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額」が 74.3%と最も多く、以下、「ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額」（66.0%）、「入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい」（65.2%）、「どのようなロボット介護機器等があるのか知らない」（62.4%）、「施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない」（61.3%）と続いていた（図表 62）。ロボット介護機器等の導入の有無別にみると、「ロボット介護機器等で何ができるのかよくわからない」や「ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない」、「ケア行為に機器を活用した場合の効果が不明確」については、ロボット介護機器等を導入していない施設の方が回答割合が高く、20 ポイント以上の差みられた（図表 63）。

⑤ ロボット介護機器等の導入のプロセスについて（図表 64～図表 76）

- ロボット介護機器等を既に導入している施設に対して、どのような機器を導入しているか尋ねたところ、「移乗介助」が 50.7%と最も多く、以下、「入浴支援」（32.2%）、「見守り支援」（26.3%）と続いていた。障害種別にみると、身体障害では、「移乗介助」（82.8%）と最も多く、知的障害では「入浴支援」（34.7%）が最も多かった（図表 64）。
- ロボット介護機器等の導入を主導した方についてみると、全体では「施設長・管理者」が 44.1%と最も多く、以下、「現場のリーダークラス」（19.7%）、「法人の経営者」（13.8%）と続いていた（図表 65）。
- ロボット介護機器等を導入した理由は、「職員の身体的な負担の軽減のため」が 78.3%と最も多く、以下、「サービスの質の向上のため」（46.7%）、「職員の精神的な負担の軽減のため」（36.8%）と続いていた（図表 66）。
- ロボット介護機器等を導入するにあたって実施した取組みとしては、「機器導入前の施設内での職員向け趣旨説明の実施」（78.3%）、「試験導入に関わった職員による機器の評価」（61.2%）、「機器に合わせた既存のケア動作や業務の見直し」（59.9%）、「試験的な導入」（59.2%）などが多くなっている一方、「機器導入担当職員の任命」（33.6%）、「機器導入に関するプロジェクトチームや委員会の立ち上げ」（23.7%）は相対的に少なくなっていた（図表 67～図表 76）。

⑥ ロボット介護機器等の導入促進に向けた課題等について（図表 77、図表 81）

- 各都道府県や政令指定都市、中核市が実施する「障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業」の申請の有無についてみると、全体では「知っていたが、申請しなかった」が 39.1%、「事業そのものを知らなかった」が 42.5%となっており、計 8 割以上が申請をしていなかった。障害種別にみると、精神障害では、「事業そのものを知らなかった」との回答が 63.0%と、他の障害に比べて、事業の認知度が低くなっていた（図表 77）。
- 今後、ロボット介護機器等の導入促進に向けて、国や自治体において実施すべきと考える取組みについてみると、全体では「導入するための資金助成制度の充実」が 67.9%と最も多く、以下、「ロボット介護機器等自体に関する情報の提供」（63.0%）、「他施設における介護機器等の好事例の情報提供」（60.9%）と続いていた（図表 81）。

⑦ 施設の人員体制や業務効率化の状況等について（図表 83～図表 91）

- 施設の職員の過不足状況について尋ねたところ、日勤時では約 6 割、夜勤時では 5 割弱の施設で、職員が「不足」または「やや不足」と回答していた（図表 83、図表 84）。
- 施設における業務効率化等の取組み状況について尋ねたところ、「業務の標準化や業務マニュアル作成への取組」「体系的な職員研修や OJT」については、5 割以上の施設が十分に実施できていると考えている一方、「職員間の情報共有の効率化（インカムを用いた迅速な情報共有等）」、「職員一人ひとりに対する PC の設置等、IT 機器の導入」については、「できている」、「ややできている」と考える施設は 3 割以下と少なくなっていた（図表 87～91）。

<職員票>

① 職員（回答者）自身について（図表 92、図表 96、図表 97）

- 回答した職員の年齢層は「40 歳代」が 33.2%と最も多かった（図表 92）。
- 職員の 1 か月あたりの平均勤務日数は 20.8 日であり（図表 96）、うち平均夜勤日数は 3.1 日（夜勤が発生していないケースを除くと 4.2 日）であった（図表 97）。夜勤日数について、障害種別にみると、精神障害では「0 日」が 7 割以上と最も多かった。

② 現在の回答者自身の業務について

- 著しく時間を費やしている業務（図表 102、図表 103、図表 116、図表 117）
 - ✓ 著しく時間を費やしている業務は何か尋ねたところ、日勤時は「間接業務（利用者に関係すること）」が 47.3%と最も多く、以下、「入浴」（38.0%）、「排泄」（37.7%）と続いていた。障害種別にみると、全ての障害で「間接業務（利用者に関係すること）」が最も多かった。他の業務についてみると、精神障害では「情報入手・意思表示・コミュニケーション支援」や「間接業務（職員や法人に関係すること）」が上位 3 項目に入っていた（図表 103）。
 - ✓ 夜勤時は、「排泄」が 41.6%と最も多く、以下、「間接業務（利用者に関係すること）」（32.9%）、「安心・安全対策」（28.2%）となっていた（図表 117）
 - ✓ 「間接業務（利用者に関係すること）」の内訳を業務小分類でみると、日勤時・夜勤時とも、「記録・文章作成（ケース記録作成等）」との回答が多くなっていた（図表 102、図表 116）。
- 身体に過度な負担がかかっている業務（図表 105、図表 119）
 - ✓ 身体に過度な負担がかかっている業務は何か尋ねたところ、日勤時は「入浴」が 50.1%と最も多く、以下、「排泄」（41.3%）、「移乗・移動」（37.5%）と続いていた。障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児で「入浴」が 5 割以上であった（図表 105）。
 - ✓ 夜勤時は「排泄」が 51.5%と最も多く、以下、「移乗・移動」（34.2%）、「体位変換」（30.3%）となっていた。障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では「排泄」が最も多かった。他の業務についてみると、身体障害では「移乗・移動」や「体位変換」が 5 割以上であった（図表 119）。
- 精神的に強いストレスを感じながら実施している業務（図表 107、図表 121）
 - ✓ 精神的に強いストレスを感じながら実施している業務は何か尋ねたところ、日勤時は「行動障害への対応」が 58.1%と最も多く、以下、「面談、苦情対応」（34.7%）、「安心・安全対策」（33.3%）と続いていた。障害種別にみると、全ての障害で「行動障害への対応」や「面談、苦情対応」、「安心・安全対策」が上位 3 項目に入っていた（図表 107）。
 - ✓ 夜勤時は「行動障害への対応」が 55.8%と最も多く、以下、「安心・安全対策」（42.9%）、「健康管理」（27.3%）となっていた。身体障害では「行動障害への対応」と「安心・安全対策」、知的障害や障害児では「行動障害への対応」が最も多かったのに対して、精神障害では「安心・安全対策」が最も多くなっていた（図表 121）。

- 効率化や負担軽減を図る余地が大きい業務（図表 108、図表 109、図表 122、図表 123）
- ✓ 従事している業務のうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きい業務は何か尋ねたところ、日勤時は「間接業務（利用者に関係すること）」が 37.0%と最も多く、以下、「入浴」（31.2%）、「排泄」（24.8%）と続いていた（図表 109）。
- ✓ 夜勤時は、「間接業務（利用者に関係すること）」が 28.9%と最も多く、以下、「排泄」（23.5%）、「安心・安全対策」（21.0%）となっていた（図表 123）。
- ✓ 「間接業務（利用者に関係すること）」の内訳を業務小分類でみると、日勤時・夜勤時とも「記録・文章作成（ケース記録作成等）」との回答が多くなっていた（図表 108、図表 122）。
- ✓ 障害種別にみると、日勤時・夜勤時とも、身体障害では「移乗・移動」や「体位変換」等の回答が他の障害種別に比べて相対的に多かった（図表 109、図表 123）。

- 新型コロナウイルス感染症の流行後、特に負担が増加した業務（図表 113、図表 127）
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の流行後、特に負担が増加した業務は何か尋ねたところ、日勤時は「健康管理」が 35.6%と最も多く、以下、「行動障害への対応」（8.8%）、「面談、苦情対応」（6.4%）と続いていた（図表 113）。
- ✓ 夜勤時は「健康管理」が 31.9%と最も多く、以下、「行動障害への対応」（9.8%）、「安心・安全対策」（5.8%）となっていた（図表 127）。

- ③ ロボット介護機器等について
- 活用可能性のある支援機器について（図表 128～図表 153）
- ✓ 障害者支援現場において活用可能性のある支援機器として、どのようなものがあるか尋ねたところ、以下のものについて「活用の可能性がある」との回答が 5 割を超えていた。
 - ・「バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー」（62.7%）（図表 145）
 - ・「議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト」（60.4%）（図表 150）
 - ・「疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末」（58.7%）（図表 138）
 - ・「職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト（グループウェアやビジネスチャットアプリ）」（56.2%）（図表 152）
 - ・「障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ」（55.3%）（図表 140）
 - ・「パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB 会議アプリ」（54.8%）（図表 151）
 - ・「施設内でのインカム」（52.4%）（図表 153）
 - ・「浴槽につかるだけで汚れを落とす機能のある入浴機器」（51.2%）（図表 135）
 - ・「服薬管理・服薬支援ロボット」（50.8%）（図表 139）
 - ・「排便や排尿を検知する排泄検知センサー」（50.5%）（図表 136）
- ✓ 障害種別にみると、身体障害や知的障害では、「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を上回ったロボット介護機器等が多くみられた。反面、精神障害は多くの介護ロボッ

ト機器で「活用の可能性がある」が「活用の可能性がない」を下回っていた（図表 128～図表 153）。

- **ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点（図表 154、図表 155）**
- ✓ 回答した職員の 69.2%がロボット介護機器等の導入・活用にあたり「懸念点や課題点がある」と回答していた。障害種別にみると、身体障害や知的障害、障害児では 7 割以上が「懸念点や課題点がある」と回答していた（図表 154）。
- ✓ 「懸念点や課題点がある」と回答した方に詳細を尋ねたところ、「入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい」が 67.8%と最も多く、以下、「ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額」（64.5%）、「どのようなロボット介護機器等があるのか知らない」（62.9%）、「施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない」（62.9%）、「ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額」（59.3%）と続いていた。障害種別にみると、身体障害では「ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額」、知的障害や障害児では「入所者の状態の個別性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい」、精神障害では「施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない」がそれぞれ最も多かった（図表 155）。

＜施設票と職員票との比較＞

- **著しく時間を費やしている業務（図表 13、図表 23、図表 103、図表 117）**
- ✓ 著しく時間を費やしている業務についてみると、日勤時は、「入浴」や「食事」、「健康管理」で施設票での回答割合が職員票の回答割合を 10 ポイント以上上回っていた（図表 13、図表 103）。また、他の業務についても多くが施設票の回答が職員票を上回っており、管理者の方が現場職員よりも著しく時間を費やしていると考えていることがうかがえた。
- ✓ 夜勤時については、多くの業務で、施設票の回答が職員票を上回っており、とりわけ、「行動障害への対応」や「排泄」は 10 ポイント以上上回っていた（図表 23、図表 117）。

- **身体に過度な負担がかかっている業務（図表 14、図表 24、図表 105、図表 119）**
- ✓ 著しく時間を費やしている業務についてみると、日勤時は、「社会生活支援」以外の全ての業務で施設票の回答が職員票を上回っており、とりわけ、入浴」や「排泄」、「移乗・移動」では 10 ポイント以上上回っていた（図表 14、図表 105）。
- ✓ 夜勤時については、多くの業務で、施設票の回答が職員票を上回っており、特に「排泄」、「安心・安全対策」や「行動障害への対応」は 10 ポイント以上上回っていた（図表 24、図表 119）。

- **精神的に強いストレスを感じながら実施している業務（図表 15、図表 25、図表 107、図表 121）**
- ✓ 精神的に強いストレスを感じながら実施している業務についてみると、日勤時は、「社会生活支援」以外の全ての業務で施設票の回答が職員票を上回っており、とりわけ、「面談、苦

- 情対応」や「間接業務（利用者に関係すること）」、「入浴」は 10 ポイント以上上回った（図表 15、図表 107）。
- ✓ 夜勤時については、多くの業務で、施設票の回答が職員票を上回っており、特に「安心・安全対策」や「排泄」、「間接業務（利用者に関係すること）」は 10 ポイント以上上回っていた（図表 25、図表 121）。
 - 効率化や負担軽減を図る余地が大きい業務（図表 16、図表 26、図表 109、図表 123）
 - ✓ 効率化や負担軽減を図る余地が大きい業務についてみると、日勤時は、「清拭・身体整容等」や「食事」、「社会生活支援」以外の全ての業務で施設票の回答が職員票を上回っており、とりわけ、「間接業務（利用者に関係すること）」や「間接業務（職員や法人に関係すること）」は 20 ポイント以上、「入浴」は 10 ポイント以上上回った（図表 16、図表 109）。
 - ✓ 夜勤時についても、多くの業務で、施設票の回答が職員票を上回っており、特に「間接業務（利用者に関係すること）」や「間接業務（職員や法人に関係すること）」、「安心・安全対策」については 10 ポイント以上上回っていた（図表 26、図表 123）。
 - ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点（図表 60、図表 62、図表 154、図表 155）
 - ✓ ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点の有無について、「懸念点や課題点がある」との回答は施設票で 74.1%、職員票で 69.2%と施設票が職員票を上回っていた（図表 60、図表 154）。
 - ✓ 「懸念点や課題点がある」と回答した方に詳細を尋ねたところ、「ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額」や「ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額」といった導入・管理費用に関連する項目については、施設票の回答が職員票を上回っていた（図表 62、図表 155）。

3. ヒアリング調査結果

(1) ヒアリング調査の実施概要

- ヒアリング調査は、アンケート調査（「施設票」）において、ロボット介護機器の導入実績があると回答した施設を対象として、オンラインインタビュー（半構造化面接）で実施した。
- ヒアリング調査は2021年1月～2021年2月に、計7施設の事業所管理者および現場職員に対して、各2時間程度実施した¹⁴。
- ヒアリング調査における質問項目とヒアリング対象先は、それぞれ下表のとおりである。

図表 156 ヒアリング調査における質問項目

大項目	小項目
ロボット介護機器導入の背景・目的	① （ご回答頂いたアンケート結果も踏まえつつ）1日の業務の流れ（日勤／夜勤別） ② （ご回答頂いたアンケート結果も踏まえつつ）①の中で、特に負担の大きいと感じていた業務等についての詳細なオペレーションや、負担が大きいと感じるポイント ③ ②の業務の負担軽減に向けて、使用しているロボット介護機器の概要および使い方 ④ ロボット介護機器を活用しようと考えたきっかけ等（数ある業務の中で、なぜその業務を選定し、ロボット介護機器を活用しようとしたのか等）
ロボット介護機器の導入プロセス、 その中で解決した課題等	① ロボット介護機器導入に向けて実施した取組み（誰が発案したか、委員会等の組織を作って検討を進めたか、機器選定はどのように行ったか、メーカーとどのように連携したか、試用期間は設定したか、補助金や外部コンサルタントは活用したか等） ② ロボット介護機器導入時に生じた課題 ③ ロボット介護機器導入時に生じた課題の解決方法（特に職員の反対やコスト、ロボット介護機器に対する偏見等への対応方法） ④ ロボット介護機器の使用が通常業務のルーティンに溶け込むまでのプロセス、それまでの試行錯誤等
ロボット介護機器導入の効果・ 成果・機器に対する評価等	① 職員側から見た効果・成果・評価等（デメリット含む） ② 利用者側から見た効果・成果・評価等（デメリット含む）
ロボット介護機器の導入に向けて 重要と考える点	① （同様の機器を導入しようとしている他施設へのアドバイスを想定して）、ロボット介護機器の導入にあたり留意した方が良いと考えるポイント ② 以前行った導入の取組みを踏まえ、今後新たにロボット介護機器を導入する際に実施したいと考える取組み
その他	① 今後、ロボット介護機器等の導入促進に向けて、国や自治体において実施すべきと考える、あるいは期待する取組み ② 今後、ロボット介護機器等に求めるニーズについて（どのような機能が備わっていたら導入を検討するか、等）

（出所）浜銀総合研究所作成

¹⁴ なお、ヒアリング対象の7施設以外に、障害者支援施設ではないものの、コミュニケーション支援のロボット介護機器を活用している事例で、今後の活用に向けた有益な情報が得られること等から、参考として、北水会記念病院（支援対象としている主な障害種別：障害児（発達））に対してヒアリングを実施した。

図表 157 ヒアリング調査の実施先一覧

no	ヒアリング先	支援対象としている 主な障害種別	ロボット介護機器の分野
1	社会福祉法人ありのまま舎	身体障害	移乗支援
2	社会福祉法人県西福祉会	身体障害	入浴支援
3	社会福祉法人横浜共生会	知的障害	入浴支援
4	社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会	身体障害（聴覚）	入浴支援、サインージシステム ¹⁵
5	社会福祉法人秋田県民生協会	知的障害	見守り支援
6	社会福祉法人クローバー会	知的障害	移乗支援
7	社会福祉法人京都総合福祉協会	知的障害	排泄支援

（出所）浜銀総合研究所作成

¹⁵ デジタル映像機器を使い情報を発信するシステムのこと。

(2) ヒアリング調査結果

	社会福祉法人ありのまま舎 (対象障害：身体障害・知的障害、サービス：施設入所支援)
導入しているロボット介護機器	腰補助用ウェアラブルロボット（移乗支援）
1. ロボット介護機器導入の背景・目的	✓ 入浴介護やトイレへの移乗の負担が大きい。体格の大きい人や変形のある人もいて、職員1人では対応できないこともある。また、起床・就寝時の移乗や、着替え時の身体の持ち上げも負担が大きい。 ✓ 精神的には、利用者からの日常的な注文やリクエストが多い。また、医療的ケアが必要な方の体調変化への気遣いが求められる。また、行動障害のある人による自傷行為があり、これを防ぐためのストレスがある。 ✓ 行動障害の利用者が走り回ったりすると、女性職員では支えきれないため、軽くて着脱の簡単な機器を活用することで、少しでも負担軽減になればとの問題意識があった。
2. ロボット介護機器の導入プロセス、その中で解決した課題等	✓ 「ケアの質向上委員会」という施設内組織の下部組織に、「ボディメカニクス部会」があり、この部会が中心となって導入準備を進めた。この部会はもともと人力による介助の負担軽減を検討してきた部会であり、これらメンバーでロボット介護機器導入の検討も行うこととなり、施設内で実証を行った。 ✓ 施設内で投げかけてみたところ、腰補助用ウェアラブルロボットが候補となった。ボディメカニクス部会メンバーが、現場職員に機器導入に関する説明も行い、部会を中心に導入を進めた。 ✓ 新型コロナに関連して、介護負担軽減のためのICTの補助金を使えることがわかり、導入した。今回は全額補助金で購入することで、複数台が導入できた。本格的に導入してから3か月ほどである。 ✓ 機器は導入3か月目で、まさにルーティンに溶け込ませようと試行錯誤をしているところである。リフトと合わせて使用することで効果がみられるとも思っている。勤務時間中ずっと着けているのも負担なので、着脱のタイミング等について、様々なパターンを試してみたりしている。
3. ロボット介護機器導入の効果・成果・機器に対する評価等	✓ 導入によって、2人でやらなければいけない作業が1人でできるようになったケースもあった。これにより、職員2人の都合を合わせる必要が必ずしもなくなった。 ✓ 機器活用によって、職員の疲労度を軽減することができていると感じている。気持ちの上で楽になったと感じる職員もみられる。身体的に楽になることで精神的にも楽になっている。 ✓ 今までは2～3人の職員でトイレ介助をしていたため、腰痛の職員にとって、腰補助用ウェアラブルロボットを使うことで表情に余裕ができ、利用者とのコミュニケーションが充実するようになってきた。
4. ロボット介護機器の導入に向けて重要と考える点	✓ ロボットに対する先入観（冷たい、使い勝手が悪そう）はあるものの、それにとらわれずに、例えば展示場で試着してみたり、デモを気軽にしてみたり、実際に触れてみるのが良いのではないかと。今後も、展示場などに積極的に職員を派遣したいと考えており、幅広く情報を得てほしい。
5. 今後求める政策や開発ニーズ	✓ 導入にあたっては、施設のトップ層が機器の導入に関心を持つことと、導入しようという雰囲気やきっかけをうまく活かして、とりあえず試してみることが大切ではないか。そのためのインセンティブ（加算等）があるとなお良いのではないかと。

	社会福祉法人県西福祉会 足柄療護園 (対象障害：身体障害、サービス：施設入所支援)
導入しているロボット介護機器	天井走行式リフト、特殊浴槽、介護リフト（入浴支援） (その他、腰補助用ウェアラブルロボットを試行中。 遠隔操作ロボットの実証実験も実施)
1.ロボット介護機器導入の背景・目的	✓ 身体的な負担としては、移乗介助・オムツ交換の時の腰への負担が大きい。直近で離職した職員も、腰への負担を理由として挙げていた。 ✓ 精神的な負担としては、夜勤時の高齢の利用者の体調の急変が挙げられる。いつ起こるかわからず、年2回くらい救急搬送も発生する。
2. ロボット介護機器の導入プロセス、その中で解決した課題等	✓ 2001年開所の当時から、天井走行式リフト・特殊浴槽・介護リフトは全て取り揃えていた。これは珍しいことだと思う。近隣の施設のやり方を参考にした。 ✓ 毎年国際福祉機器展に職員の自己啓発で参加させている。また、機器は定期的に更新が必要になるため、特殊浴槽であれば1年以上前から施設長・サ責等がメーカーに行って、情報収集・相談をしている。 ✓ 「さくさく委員会（業務改善委員会）」（2008年～）において、現場職員で機器導入について検討できる体制をつくっている。トップダウンではなく、自分たちで改善し、できるものはしていく。 ✓ 職員の全てがそこまでロボット介護機器導入に前向きというわけではない。「ロボット」という言葉へのイメージも職員間で共有されているわけではない。職員にも、新たなやり方をすることで手間が増えると考える人もいるが、「まずは試してみようよ」というスタンスで導入を図っている。 ✓ 補助金が使えたと、導入に際して経営的に説明をしやすい。
3. ロボット介護機器導入の効果・成果・機器に対する評価等	✓ 開所当時から職員の負担軽減を考えるとという方針で機器を活用しているので、腰痛による離職を防ぐことができたケースは多かったのではないと思う。職員の離職を防げば、利用者も長い付き合いとなり、信頼関係が生まれる。 ✓ 利用者としても、支援を行う職員が2人集まるまで待たなくても、機器があれば、利用者自身がしたいことができる利点がある。 ✓ 経営的には、機器を導入することで職員数を減らすことが求められる。しかし現場としては、機器を入れたからと言って職員数を減らせるわけではなく、むしろ機器を導入したことにより、利用者と話す時間が増えることを期待している。費用対効果の問題はジレンマがある。
4. ロボット介護機器の導入に向けて重要と考える点	✓ 導入にあたってはトップダウンではなく、現場職員の意向を確認しながら進める必要がある。入れても使わなければ意味がない。 ✓ 施設の掃除や洗濯等、直接介護以外の負担にも幅を広げてロボット介護機器を捉えて頂けたら良いのではないかな。
5. 今後求める政策や開発ニーズ	✓ 導入にあたっては様々な補助金もあるが、例えば労働局の補助金を使う場合は、講習やアンケートの実施などの負担もある。制度的にわかりやすくなると望ましい。

社会福祉法人横浜共生会 障害者支援施設花みずき (対象障害：知的障害、サービス：施設入所支援・生活介護)	
導入しているロボット介護機器	リフト（入浴支援）
1. ロボット介護機器導入の背景・目的	✓ リフト導入のきっかけは、高齢化等で利用者がバスタブを乗り越えられなくなり、車いすになっていったことにあった。そういった方がどうやって湯船につかれるか考えて、導入に至った。 ✓ 花みずきでは、支援の基本的な考え方として「自分の家にいるのと同じ生活をして頂く」ということを重視している。ずっと寝たままではなく、昼と夜を峻別し、朝起きて、日中活動に出掛け、帰ってきてちょっとお茶を飲んで、地元の食材を使った食事をとり、ゆっくりして、夜寝る、という「普通の生活」を提供したい。その上では、湯船に入って一息つくことも生活の基本であると考えている。 ✓ こうした問題意識を持っていたところ、10 年以上付き合いのあった機器メーカーの担当者に相談して、リフトの導入に至った。
2. ロボット介護機器の導入プロセス、その中で解決した課題等	✓ 機器の導入は施設長が決定・主導した。特に委員会等は組織せず、現場の職員に確認を取りながら導入した。 ✓ 「普通の生活を提供する（湯船につかる）」、という目的を達成するために機器を導入したため、職員も導入意図を理解しやすかったのではないかと考えている。 ✓ 使用にあたっては、安全面を考慮しつつ、どう職員で使用方法を引き継いでいけるかが課題となった。手順を踏んでいくことが重要であると考え、現場でマニュアル作成等を進めた。 ✓ また、自己流でやると事故が起こりやすいので、作業療法士にも相談しつつ、慎重に導入を進めた。職員も使い慣れるまでは持ち上げるということに対する怖さがあった。しかし、使っていくうちに、怖さは薄れていった。
3. ロボット介護機器導入の効果・成果・機器に対する評価等	✓ まず、職員の身体的な負担の軽減につながっている。 ✓ また、利用者については、初めのうちは、吊り上げられるうちに怖くて声を上げる利用者もいたが、慣れてくると湯船につかれる気持ち良さを感じてくれていると思う。
4. ロボット介護機器の導入に向けて重要と考える点	✓ 導入によるメリットをよく検討しつつ、PT（理学療法士）・OT（作業療法士）など専門職の知見を活かしつつ導入した方が良いのではないかな。 ✓ 身体障害者や高齢者向けの施設では腰痛対策としてロボット導入をすることが当たり前かもしれないが、知的障害者の施設においても、利用者の状況を踏まえ、その都度困っていることに応じて、機器の導入を検討していきたい。
5. 今後求める政策や開発ニーズ	✓ 着脱に手間のかからない、職員が簡単に使える機器が必要ではないかな。 ✓ コミュニケーションロボットは使用していないが、職員による face to face の支援の延長でうまく使えば、話し相手としても良いのではないかな。知的障害のある人は、調子の良いときも悪いときも、人（職員）と話すことを求めてくる利用者が多い。

	社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会 いこいの村栗の木寮 (対象障害：聴覚障害・知的障害・精神障害、サービス：施設入所支援)
導入しているロボット介護機器	リフト（入浴支援）、サイネージシステム（コミュニケーション支援）、 非常用フラッシュランプ（コミュニケーション支援）
1. ロボット介護機器導入の背景・目的	✓ 重度の聴覚障害に加え、知的障害・精神障害・視覚障害、身体的な障害（加齢によるものを含む）のある人を中心に受け入れている。 ✓ そのため、入浴支援等の身体的負担のほか、コミュニケーションの負担も大きい。盲ろう者への手話コミュニケーションは身体的負担もかかり、10～15 分ごとに職員が交代する必要がある。また、聴覚障害の利用者に用事がある時や集合時間などをお知らせするときに、その人がいるところまで行って直接顔をあわせないと伝えられなかった。サイネージシステムで文字や絵、写真などサイネージシステムで「館内放送」のようにお知らせができないかと導入を検討した。
2. ロボット介護機器の導入プロセス、その中で解決した課題等	<リフト> ✓ リフトは 2016 年の施設新築準備段階で、職員の中からプロジェクトチームを立ち上げ、どんな施設のデザインにし、どんな機器を置くのか、検討をした。それまではエレベーターはなかったが、エレベーターを設置し、車いすの人でも入浴しやすいリフトを設置することとした。 ✓ 既に併設の特別養護老人ホームでリフトを導入しており、法人の中で積み重ねがあった。導入にあたっては、特別養護老人ホームと同じ機器を導入し、同じ設計士に依頼をした。 <サイネージシステム> ✓ 1998 年に京都府から委託調査を受けてシステム検討を行った。その上で国の大規模改修制度を使い、京都府と交渉し、特に聴覚障害者とのコミュニケーション手段としてサイネージシステム、入室時のチャイムや非常ベルの代わりをするフラッシュランプ（全居室）を提案し 1999 年に設置。2016 年の新築移転時にこのシステムを再整備した。 ✓ 当時、想定していたような機器を開発している会社はなかったため、機器メーカーに「こんなことがやりたい」という相談をし、システム構築を進めた。
3. ロボット介護機器導入の効果・成果・機器に対する評価等	✓ リフトについて、機器に慣れる必要性やメンテナンス、使用方法の研修等、手間はあるが、安全性や身体的負担の観点からはメリットがあった。利用者もリフト浴を嫌がる様子はなく、裸になって誰かに持ち上げられる不安感や、「職員にやってもらおうという」心理的負担が軽減されている。 ✓ サイネージシステムについては、日常的な情報伝達の負担が軽減される効果がある。聴覚障害者向けテレビ番組やインターネットの情報とリンクさせるなど、このシステムを活用していくために職員の活用しようとする意識を高め、また情報技術の専門家のアドバイスをを得るなどして、常にわかりやすく日常的に情報を伝えていく努力が必要である。
4. ロボット介護機器の導入に向けて重要と考える点	✓ 実際に機器の現物をみて、活用方法を検討していくことが重要ではないか ✓ ロボットについて、「支援」のみならず、「情報」という観点でも検討することが重要である。 ✓ 視覚的な情報は聴覚障害者だけではなく一般の人たちにとっても重要。聴覚障害者にとっては手話や字幕、わかりやすいイラストなども含めての情報が有用である、あらゆる施設や公共施設、交通機関、医療施設などでも普及されることが必要である。

5.今後求める政策や開発ニーズ	✓ 「ロボット介護機器」は身体的介護の部分に焦点があたりがちであるが、一番苦労しているのは理解支援・コミュニケーションである。高齢者施設でも難聴者は多く、聴こえにくい人に対する災害時等の情報伝達は重要な課題である。 ✓ 例えば、知的障害のある人向けに複雑な文章をわかりやすく提示する仕組みなどについても、もっと研究者が研究・開発を進めていくことができると良いのではないか。
-----------------	---

	社会福祉法人秋田県民生協会 指定障害者支援施設合川新生園 (対象障害：知的障害、サービス：施設入所支援)
導入しているロボット介護機器	次世代予測型見守りシステム（見守り支援）
1. ロボット介護機器導入の背景・目的	✓ 高齢者専門棟（2011年に設立）の入居者の転倒が多くなったことや、介護する入居者の増加等を背景に、主に夜間対応として離床センサーを導入した。（なお、夜勤職員体制は男女1名ずつ） ✓ 最初は1～2台だったが、センサーが必要な入居者が増加したため、徐々に台数を増やした。それにより、同時にブザーが鳴る状況も発生し、どれを優先したら良いかわからないことがあった。 ✓ また、台数を増やしたことにより、センサーが次々に鳴るため、夜勤職員もほとんど仮眠なしで各居室に向かう状況となり、身体的負担が大きいという声が聞かれるようになった。 ✓ 加えて、便失禁後の対応で入居者を清拭中にブザーがなっても、すぐには対応できず、結果として、駆け付けた際には既に転んだ後という事例が多々あったため、その解消方法として見守りシステムの導入に至った。
2. ロボット介護機器の導入プロセス、その中で解決した課題等	✓ 理学療法士と各高齢者棟の支援責任者が介護機器展等に参加している（理由としては、自施設における高齢化に対応しなくてはならないという意図から）。 ✓ 離床センサーでも対応できない課題が生じた時に、彼らと協議し、機器を2点ぐらいに絞って、業者に連絡し説明会を開いてもらった。 ✓ その後、デモンストレーションにて機能を確認した上で、機器を2週間レンタルして、夜勤職員等に操作方法や簡易性等について試行して頂いたうえで、彼らの意見を踏まえて、見守りシステムを4台導入した。なお、もう1つの方は複雑な機能が多すぎて、データ処理が複雑すぎる等から導入を見送った。 ✓ 導入する際には、施設の現状や高齢化による対応等を法人内で説明して、予算を確保した。 ✓ デモンストレーションや試行した職員が見守りシステムについて使い方をまずマスターしたうえで、その職員が講師となり、他の職員に対して使い方の研修を実施した。
3. ロボット介護機器導入の効果・成果・機器に対する評価等	✓ 半信半疑の方もいたかもしれないが、ほとんどの職員は、離床センサーだけでは対応できないと感じていたため、それに対応する機器がほしいと感じていた。 ✓ 警告音が危険度によって異なるため、同時になった場合でも、警告音によって優先度を判断することができるようになり、効率よく入居者のところに回れるメリットが生じた。また、データとしても残るので、記録簿につける手間も省けるようになった。 ✓ 見守りシステムに慣れすぎてしまい、画面と警告音によっては「まだ行かなくても大丈夫」と、実際に確認を怠る方も少し出てきている（例えば、トイレに行きたくて起きたのか、精神的な不安定があって、起きたのかについては、機器だけでは判断できない）。
4. ロボット介護機器の導入に向けて重要と考える点	✓ 自施設の方で、何が必要なのかという点を的確に見極めた上で導入することが重要である。そのためには、やはり、ロボット介護機器をレンタルすることが可能であり、それを実際に試すことができる機会があることが重要である。 ✓ 職員の中には機械に詳しくない方も当然いるため、できるだけ簡素化、かつ単純化された機器の方が活用するポイントと思う。

5.今後求める政策や開発ニーズ	✓ 知的障害者はリハビリを実施する目的やその効果を理解できないため、身体を強くすることが苦手であること等から、健常者よりも老化が早い。 ✓ ただ、介護機器等を説明しても、理解が困難であるので、より刺激を与えず、安全性が保障され、今の生活とマッチするようなロボット介護機器等を開発してほしい。 ✓ 少額でも良いので、ロボット介護機器を導入したいときにすぐに補助金が支給されるようなシステムがあると良い。現状は、規模や条件、金額等の制約がかなり多い。 ✓ さほど高くないロボット介護機器等に対する補助について、何回も申請が通らないと、申請する気もなくなる。また、申請の審査も非常に時間がかかるので、今すぐ導入したいと考える現場にとっては、もう少しその部分を改善してほしい。
-----------------	---

	社会福祉法人クローバー会 クローバー学園 (対象障害：知的障害、サービス：施設入所支援)
導入しているロボット介護機器	介護支援用装着型ロボット（移乗支援）
1. ロボット介護機器導入の背景・目的	✓ 高齢化に伴い、歩行が難しい等により身体的介助を必要とする入居者が徐々に増加してきた。そうした状況下、職員への負担も少しずつ重くなり、「腰が痛い」という意見が聞かれるようになり、何らかの手を打たないと職員の離職につながるなどの危機意識が出てきた。 ✓ また、上記に伴い、浴室の出入りが大変という問題も出てきた時に、知的障害の方は機械を怖がる人が多いことや、浴室が狭かったことから、リフトの設置は難しい状況であった。 ✓ 上記の職員の負担の軽減を解決するために、インターネット上で調べて、介護支援用装着型ロボットと別の移乗機器のメーカーに連絡し、プレゼンして頂いた結果、導入することに決めた（値段は介護支援用装着型ロボットの方が高かったが、現場職員の評価がかなり良かったのも決め手の1つである）。
2. ロボット介護機器の導入プロセス、その中で解決した課題等	✓ 介護支援用装着型ロボットの導入に際して、メーカーによるデモンストレーションに経営側にも参加してもらった。実際に現場職員が介護支援用装着型ロボットを使用することで、介護負担が軽減する様子を見てもらうことで導入決定に至った。ただ、本来は2台導入（男性用・女性用）したかったが、費用の面で高額だったため、試験的に1台の導入に留まった。 ✓ 介護支援用装着型ロボットについては、研修・説明を受けないと装着できないルールとなっているため、メーカーから説明を受けた職員が、他の職員に対して、装着の説明を実施した。
3. ロボット介護機器導入の効果・成果・機器に対する評価等	✓ 過去、腰痛になった職員にとっては、腰痛防止につながるので良い。また、様々な介助について、1つでも安定して介助ができると、職員側にも精神的な余裕が生まれ、他の介助等にも余裕が生まれると考えられる（本件の場合は、移乗介助が安定的になることにより、余裕ができるという意味である）。 ✓ 入居者側もその安全性が高まり、安心感につながる。 ✓ ただし、職員に対して、強制的に着用を促したら着けると思うが、着けることによって腰痛予防になるという理解まではまだ得られていない。 ✓ 導入している介護支援用装着型ロボットはサイズが1種類しかないため、身体の大きい職員は活用することができない。
4. ロボット介護機器の導入に向けて重要と考える点	✓ レクリエーションや癒し系に関するロボット介護機器はニーズがあると思う。職員にレクリエーションをお願いすると、入居者に対して、恥ずかしがったり、遠慮する場合があるが、ロボットの場合は電気さえ供給すれば、ずっと稼働してくれる。 ✓ 様々なロボット介護機器等に関心があるが、やはり導入コストが一番のネックである。
5. 今後求める政策や開発ニーズ	✓ ロボット介護機器の場合、労働上の労働安全衛生や、働かせ過ぎるといった労務問題が解決できるほか、労働力の確保にも有効である一方、労働を失うことにもつながる。 ✓ 食事介助等についても、結局マンパワーで実施しているものもあるので、そういったところが一部でも軽減されると、他の業務に職員が専念できる。

	社会福祉法人京都総合福祉協会 京都市障害者支援施設大原野の杜 (対象障害：知的障害、サービス：施設入所支援)
導入しているロボット介護機器	ポータブルトイレ（排泄支援）
1. ロボット介護機器導入の背景・目的	✓ 介護機器の展示会等を通じて、介護機器が便利になってきているほか、入居者の高齢化が進んでいることから、いずれはロボット介護機器等を取り入れることも視野に入れたいといけなと漠然と考えていた。 ✓ たまたま施設と関係がある介護機器を取り扱っている業者の担当者から紹介された。当時は業務負担の軽減と、ノロウイルスが流行した時に便利という意見があったが、1台が高かったののでいずれ導入を検討するということになった。 ✓ その後、今回のロボットに関する補助金で購入できることがわかったので8台導入した。
2. ロボット介護機器の導入プロセス、その中で解決した課題等	✓ 補助金を活用できることがわかったことから、施設長自身が導入を決定した。なお、業者より紹介されてから導入までは1年経っていないぐらいの期間であった。 ✓ 特に、施設内で事前の準備（導入に関する委員会の立ち上げ、活用方法の勉強会等）は実施しなかった。 ✓ 導入直後の職員の反応は正直良くも悪くもなかった。ただ、看護師はノロウイルス等の感染症が施設内で生じた時はリスク回避で助かると好意的であった。 ✓ 1つ1つ起動させたときの操作時間はそれなりにかかってしまい、活用に慣れていない職員からは「時間が長い」との意見もあった。解決するためには、やはり使い慣れてもらうことが大事であると思う。
3. ロボット介護機器導入の効果・成果・機器に対する評価等	✓ 従来のポータブルトイレはバケツ型容器であり、入居者が排泄を行い、その容器をトイレに職員が運んで、排泄物を流して、洗浄・消毒をして、部屋に持って帰るという一連の手間が軽減された。また、排泄物が入った容器を運ぶときに、（例えば、入所者とぶつかって）こぼしてしまうというリスクもなくなった¹⁶。 ✓ 汚物が密封されているため衛生的であり、汚物の廃棄を後回しにすることもでき、他の優先すべき業務に従事することができるようになった。 ✓ 背の低い方が利用する際には、（足が届かないため）一番低い高さにしなくてはいけないが、その際に汚物がうまく落ちず、結果として、汚物を密封するビニール袋が破れてしまうときがある。 ✓ 上記の方を除けば、入居者で不満を言う方はいない。
4. ロボット介護機器の導入に向けて重要と考える点	✓ ロボット介護機器等で展示会を実施しているのは知っているが、他人事と感じている（自施設には関係ないと思う）管理者も多いと思う。例えば、管理者や事務関係者が多く集まるような他のイベント（学生向けの就職説明会等）の時に、展示スペースを設けてデモンストレーションを実施すると、関心を持つ方も増えるのではないかなと思う。 ✓ 活用事例の知ることが導入に向けて重要ではないかなと思う。活用事例がたくさんあると、「ロボット介護機器等でこんなこともできる」と思い、今後の障害者支援に対して、職員もロボット介護機器等の活用方法を勉強しなくてはいいなという認識になると思う。
5. 今後求める政策や開発ニーズ	✓ 見守りに関するロボット介護機器等は、設置すると便利かもしれないが、導入時に大規模な設備の設置が必要なため、もう少し手軽なものがあると良い。

¹⁶ なお、自身で排泄が可能な入居者や、職員がトイレ誘導することにより、排泄が可能な入居者については、障害者自立という観点から、従来も現在もポータブルトイレは利用していない。

【参考情報】

	北水会記念病院 (児童精神科外来)
導入しているロボット介護機器	コミュニケーションロボット (コミュニケーション支援)
1. ロボット介護機器導入の背景・目的	✓ 開発した企業から1日だけ試しに置かせてほしいと依頼があり、試用した。 ✓ 試用したところ、児童や保護者からも見た目がかわいいと評判が良かったため、継続的に活用している。
2. ロボット介護機器の導入プロセス、その中で解決した課題等	✓ 扱いが繊細で難しい。壊してはいけなし、充電不調、首の調子がおかしかったりすると、いちいち修理に出さないといけない。児童が扱う場合、乱暴に扱って壊れてしまうリスクもある。 ✓ 一度の修理で2~3週間かかることもある。修理(「入院」と呼んでいる)に出す際、梱包するのにもひと手間である。 ✓ こうした課題を踏まえ、きちんと充電されているかの確認や、ロボットが動く際に何かにつまずいていないか確認する作業などを、職員間で分担して使用している。お借りしているものなので、気を付けて使用している。
3. ロボット介護機器導入の効果・成果・機器に対する評価等	✓ 職員にとっては、お昼の休憩時間等に癒されている。大人の方が癒される効果がある。 ✓ 児童に対しては、言語聴覚士によるリハビリの際、児童の気持ちが安定して穏やかに介入できる、早口の児童がゆっくり話をできるようになるといった効果がみられる。ただし、ロボットがいることによって集中力が切れてしまったり、ロボットともっと遊びたくなってしまったりという状況もみられる。リハビリの際は、うまく切り替えをすることが必要となる。 ✓ 待合室で、児童がロボットをとりあうのではなく、ゆずりあいをしているところがみられる。弟や妹のように、本を読んであげるといところが、自然にみられる。あるいは、黙って待合室で座っていた児童が、みんなで遊んでいる様子が見受けられ、社会性を涵養する効果がみられている。ただし、ロボットが大好きな児童と、飽きてしまう児童と二極化している。 ✓ 保護者も待合室では緊張して黙って座っていることが多いが、ロボットと触れ合うと、保護者もかわいいと感じて名前も呼んでくれる。保護者もロボットをきっかけに、喜んで診察にいらっしゃるようになる。 ✓ 他のコミュニケーションロボットに比べて、会話等をしすぎないのが良いのかもしれない。赤ちゃん感覚で接することができるのではないか。
4. ロボット介護機器の導入に向けて重要と考える点	✓ 導入する場合、1台よりも2台導入した方が、ロボット同士が会話をするところもみることができて、良いのではないか。 ✓ 広くて段差がないところの方が、ロボットが活発に動いている。ただし、大きな病院の待合室に置いておくのは、充電器のところに戻りにくい、患者がつまずいてしまう、職員の目が届かない等の要因により、難しいのではないか。小さな待合室で集まる患者も少人数だからこそ、うまく活用できているのではないかなと思う。デイサービスの一角など、ある程度狭いところで活用した方が良いのではないかな。
5. 今後求める政策や開発ニーズ	✓ もっと短い充電時間で長く使える機器があれば良いと思う。

(3) ヒアリング調査結果のまとめ

ヒアリングを行った7事例からみえるポイントをまとめると、以下のとおりとなった。

① ロボット介護機器導入の背景・目的について

- ロボット介護機器導入の背景・目的については、複数の施設において、入浴や移乗、コミュニケーションにあたっての職員の身体的負担が重く、その負担を軽減することが目的であるという話が聞かれた。
- また、事業所としての支援の理念（「普通の生活を提供する（湯船につかる）」）を達成することを目的として、ロボット介護機器の導入を行ったという話も聞かれた。

② ロボット介護機器の導入プロセス、その中で解決した課題等

- ロボット介護機器の導入プロセスにおいては、施設内の委員会組織によって導入を推進したり、職員間で試行しながら使用マニュアルを策定したりした事例もみられたが、特に委員会や勉強会を実施せず、施設長等のリーダーシップのみによって導入を進めた事例も複数みられた。
- また、複数の施設において、「最初はロボット介護機器について懐疑的だったが、活用していくうちに徐々に慣れていき、積極的に活用するようになった」というエピソードが聞かれた。

③ ロボット介護機器導入の効果・成果・機器に対する評価等

- おおむねヒアリングを行った全ての施設において、職員の身体的負担が軽減され、また利用者也機器の使用によって安心して支援を受けることができているとの話が聞かれた。加えて、障害者支援施設の事例ではないが、障害児精神医療の現場においてコミュニケーションロボットを活用したところ、発達障害のある児童の気持ちの安定や社会性の涵養等の効果がみられたという事例も聞かれた。
- 他方で、サインージシステムや見守りシステムなど、施設内システムについては、十分にシステムの機能を職員や利用者が使いこなさきれてないという課題も聞かれた。

④ ロボット介護機器の導入に向けて重要と考える点

- 複数の施設において、展示会見学や業者との定期的なコンタクトによって、ロボット介護機器の実物に触れておくことや、機会をみながら試行的に導入してみることの重要性が指摘された。
- その上で、多職種の職員で合意を取りながら、自施設の課題を踏まえて導入していくことの重要性も指摘された。

⑤ 今後求める政策や開発ニーズ

- 今後求める政策や開発ニーズとしては、装着や充電等の手間がより簡便で、使いやすい機器開発を望む意見が複数聞かれた。

- また、導入にあたって、活用しやすい補助金制度等や、ロボット介護機器の利用を促す加算の整備を要望する意見も聞かれた。
- さらに、聴覚障害者支援を専門とする施設からは、現行のロボット介護機器が身体的な「支援」に偏っており、災害時を含めた情報伝達やコミュニケーションを支援する機器の開発についても重点的に推進する必要性が指摘された。

4. まとめ

（１）調査結果からわかったポイント

<障害者支援施設における業務実態と業務負担感について>

- アンケート結果について、障害者支援施設では、入浴や排泄、移動・移乗等の支援業務に多くの時間を費やしており、身体的な負担も大きいことが浮かび上がった。また、身体的な負担は大きくないものの、ケース記録等の記録・文書作成といった間接業務にも多くの時間が費やされていることがうかがえた。
- 障害種別にみると、身体障害や知的障害では入浴や排泄に関する業務が、また、精神障害では日常生活支援が、著しく時間を費やし、かつ、身体的な負担が大きい業務となっていることがわかった。
- 加えて、アンケート調査に回答頂いた障害者支援施設の多くには、行動障害のある入所者・利用者が一定数みられ、職員への暴行・暴言等といった行動障害への対応が、職員にとって精神的な負担感の大きい業務であることも明らかになった。しかしながら、効率化や負担軽減を図る余地が大きい業務を尋ねた設問では、行動障害への対応を挙げる回答割合の順位が相対的に低く、当業務については効率化等の余地がさほど大きくないと認識されているものと推察される。
- 健康管理については、新型コロナウイルス感染症の流行後、（身体的・精神的問わず総合的に見て）特に負担が増加したということが明らかになった。また、行動障害への対応との回答もコロナ禍で負担が増した業務として上位に来ており、この点についてはコロナ禍の中での生活面の制約や社会参加活動の制限などが影響している可能性も考えられる。
- 日勤時の業務負担と夜勤の業務負担を比較すると、負担となっている業務がやや異なっており、特に夜勤では、安心・安全対策や排泄といった業務が職員にとって負担が大きくなっている点が特徴的であった。

<障害者支援施設におけるロボット介護機器等の導入可能性について>

- アンケート調査の回答を全体としてみると、議事録自動作成ツールや音声入力支援ソフト、スケジュール・情報共有ソフト、ビデオ・Web 会議アプリなど、主として間接業務に役立つ機器については、障害種別を問わず、活用可能性があるとの回答割合が大きくなっていた。
- 加えて、服薬管理・服薬支援、疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末等の健康管理や、見守りセンサー等の安心・安全対策に関連する介護ロボット機器についても、複数の障害種別において「活用の可能性がある」との回答が多くみられた。
- また、入浴や排泄、移動・移乗などにかかる身体的負担が大きい身体障害や知的障害の施設では、幅広い種類のロボット介護機器等で「活用の可能性がある」との回答が多くなっており、ヒアリング調査においても、入浴や移動・移乗にあたっての職員の身体的負担を解消することを目的として、ロボット介護機器が導入されている実績が複数聞かれた。
- 以上を踏まえると、現在、高齢者分野で活用されている一部の介護ロボット機器については、障害者支援分野についても、活用の可能性が十分にあると考えられ、開発側にとっても市場

拡大の余地が残されていると推察される。

- 他方、精神障害の施設では、移乗支援や入浴支援、排泄支援などを目的とするロボット介護機器等について活用可能性があるとする回答の割合が小さく、機器全般をみても活用可能性があるとの回答割合が大きい機器の種類は限られていた。
- 精神障害へのロボット介護機器の導入については、入浴や排泄、移動・移乗に関わる業務が必ずしも多くない等、他の障害種別と業務の内容や負担の傾向が異なっており、既存の機器の活用可能性が限定的であると思われるが、コミュニケーションロボットのデイサービス等への活用は一定程度みられるのではないかと推察される。
- また、新型コロナウイルス等の感染症の拡大防止のために、今後は **Web** を用いた会議アプリや、利用者に直接接しないロボット介護機器等についても、活用の余地が十分にあると考えられる。

<障害者支援施設におけるロボット介護機器等の導入阻害要因について>

- このように、業務負担が大きいかつ導入可能性のある業務が存在するにもかかわらず、現状でロボット介護機器等を導入している施設は、アンケート回答施設の **2** 割弱にとどまった。
- 障害種別では、身体障害の施設ではロボット介護機器等を導入している施設が比較的多かったのに対し、精神障害の施設ではほとんど導入していないことが明らかとなった。
- また、導入していない施設の **5** 割が今後も「導入予定なし」と回答しているなど、障害者支援施設におけるロボット介護機器等の活用状況は低調であると言わざるを得ない。その一方で、**6** 割の施設がロボット介護機器等の「関心があり」と回答しており、関心はあるものの、導入するまでには至らないと考える施設が多いと推察される。
- ロボット介護機器等の導入の懸念点や課題等については、コストが高い等の導入・管理費用や、入所者の個別性が高いため汎用性を前提とした機器は活用が難しいといった意見が多くみられた。
- なお、ロボット介護機器等の導入に懸念点や課題点を尋ねた設問について、導入の有無別にみると、多くの懸念点・課題について機器を導入している施設における回答割合が小さくなっているが、業務やケアの方法の変更にかかる負担や、操作や取り回しの煩雑さに関する課題については、両方で大きな違いがなく、ロボット介護機器等を導入した場合であってもこうした課題は残るものと考えられる。

（２）今後の開発・普及に向けた提言

１）開発面からの提言

<障害種別のニーズや課題を踏まえたロボット介護機器等の開発の推進>

- 本調査研究事業では、障害種別によって、業務内容や感じる業務負担によって異なる傾向がみられた。身体・知的・精神・障害児ではそれぞれ業務内容等や負担を感じているポイントが異なるため、障害種別のニーズや課題に対応した形で、新たなロボット介護機器を開発していく必要があると思料される。
- その際、開発者においては、現場職員の協力を得て、聞き取りのみならず、行動観察やグループインタビューなどを踏まえて、現場と開発者が常に一緒に連携した上で、施設や生活の現場の問題や機器使用上のリスクなどを深掘りしていく姿勢が不可欠である。

<精神障害の施設における業務負担等に対応したロボット介護機器等の開発の推進>

- 本調査研究事業では、精神障害の施設については、ロボット介護機器等の活用がなく、また、ロボット介護機器等の導入可能性が低いとの回答が散見された。
- 精神障害の場合、昨年度に実施したヒアリング調査等からも身体的な自立度が高い利用者が多いと考えられ、そのため、身体障害者施設などと比較して業務における身体介護の割合が小さく、移乗・移動支援や入浴支援、排泄支援などの機器に対するニーズが切迫していないものと考えられる。
- 他方、他の障害種別の施設と比較してコミュニケーションや安心・安全といった業務にかかる精神的な負担は大きいものと考えられ、精神障害の施設でのロボット介護機器の導入促進に向けては、特にこうした業務負担に対応した機器等の開発を進めることが必要になると考えられる。
- 加えて、こうしたコミュニケーションや安心・安全分野の開発が進むことにより、障害分野のみならず、高齢者分野や児童といった他分野における導入・活用する可能性も十分にあると推察される。

<コロナ禍のニーズに対応したロボット介護機器等の開発の推進>

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、職員の業務負担は入居者の健康管理を中心に増大しているものと考えられる。
- 同感染症の障害福祉サービスの現場における影響は、今後、しばらくの期間は継続するものと考えられ、「with コロナ」時代の障害者施設の業務負担を踏まえた、ロボット介護機器等の開発の推進が望まれる。
- また、今回の新型コロナウイルス感染症については、ワクチンの接種などが進むとともに徐々に収束に向かうものと予想されるが、今後も新たな感染症が発生する可能性は否定できない。そのため、「After コロナ」時代も見据えたコミュニケーション機器や非接触型技術を活用した機器の開発なども進めていくことが求められる。

2) 導入・普及面からの提言

＜高齢者分野で活用されるロボット介護機器等の活用可能性の検討＞

- 今回の調査から、特に身体障害施設や知的障害施設の身体介護関連の業務において、高齢者分野で活用されている移乗・移動支援、排泄支援、入浴支援などの機器の活用可能性が一定程度あるという結果が得られた。
- 身体介護にかかる業務負担の大きい施設においては、こうした高齢者分野で既に実用化されているロボット介護機器の活用について検討を進めていくことも重要である。
- また、機器に対する情報が十分に施設側に届いていないものと推察される調査結果がみられたことから、行政等においては導入に向けた経済的な補助・助成に加え、高齢者分野で活用されている機器に関する情報提供なども同時に進めていくことが求められる。

＜先行する高齢者分野におけるロボット介護機器等導入の成功事例を活かした取組みの推進＞

- 本調査研究事業では、特に身体障害や知的障害の施設において、入浴や排泄、移動・移乗等、身体的負担の大きい業務に対して、ロボット介護機器等の導入可能性があることが明らかになった。
- この入浴や排泄、移動・移乗は、既に高齢者福祉分野において、ロボット介護機器等の導入が積極的に進められている領域であり、障害者支援施設においても、高齢者福祉分野における成功事例を活かすことで、導入を促進することができると考えられる。実際に、ヒアリングにおいても、同一法人の特別養護老人ホームでロボット介護機器を導入していた場合、スムーズに障害者支援施設においても導入することができた事例が聞かれた。
- このようなことから、ロボット介護機器等と入所者・利用者との適合、利用者・家族への同意取得、施設内での合意形成や施設内委員会の設置による活用方法の習熟など、高齢者福祉分野におけるノウハウを障害者支援施設へ移転していくような普及啓発の取組みが有効であると考えられる。

＜導入時の意思決定における現場職員の意見やニーズ把握の必要性＞

- アンケート調査結果によれば、ロボット介護機器等の導入時の意思決定は、施設の管理者により行われているとの回答が多くみられた。また、ヒアリングにおいても、一部の施設では管理者が行っているケースがみられた。
- 他方、施設管理者が現場職員の業務内容や負担の大きい業務を正確に把握しているとは限らず、アンケート調査における効率化等が可能と考えられる業務等に関する施設票の回答結果と職員票の回答結果を比較すると、やや両方で認識の相違が存在することがうかがわれる回答もみられた。
- ロボット介護機器の導入後に実際に機器を活用するのは現場職員であることから、導入を決定する際には現場職員の意見を聴取することが重要と考えられる。

＜利用者本人に対する倫理面での配慮の必要性＞

- 施設職員の負担軽減とともに、障害者本人の自立支援や質の高いケアの提供もロボット介護機器等の導入・活用の目的の1つである。

- そのため、機器の活用においては本人の同意や意向の把握も必要になるものと考えられるが、アンケート調査等の結果をみると、十分に本人の意向確認等が行われているとは言い難い状況にある。
- 今後、センサーやカメラ、AIなどの活用が進むとともに、障害者本人のプライバシーにかかる情報などを常時収集し、ケアに活用するような機器も現れてくるものと考えられる。
- この際、本人の同意取得や意思決定支援のあり方、倫理面の配慮をどのように行うかといった点について検討を行う必要がある。

＜ロボット介護機器等を踏まえた業務モデルやケアモデルの確立の必要性＞

- ロボット介護機器等の導入にあたっては、従来のケアの方法や業務手順が変更になることも少なくなく、アンケート調査では、機器に合わせた既存のケア動作や業務の見直しについて、6割が「実施した」と回答していた。
- 他方、調査では、機器の導入に合わせたケアや業務のやり方の変更が、機器導入に向けた阻害要因となっている点も明らかになった。
- こうした問題に対応していくため、先進的にロボット介護機器を導入している施設等を対象とした調査研究を行い、ロボット介護機器を活用した業務やケアの方法論についてモデルケースを確立し、その知見の横展開を図る必要があると考えられる。

＜コスト面に関する課題対応の必要性＞

- アンケート調査等では、ロボット介護機器等のコストに関する懸念点・課題を挙げる回答が多くなっていた。
- こうしたコスト面の課題への対応について、国や自治体による導入助成金などの支援が設けられているが、現状の助成制度について事務手続き等の煩雑さなどの面で活用しにくいとの意見も一定数みられた。
- こうした点を踏まえ、助成手続きの簡素化や導入に向けたインセンティブとなるような報酬制度のあり方などについても検討を行う必要があると考えられる。
- 加えて、先進的な施設などにおける導入時・運用時の費用と機器活用による効果の分析を行い、費用対効果のモデル事例として整理し、導入検討時の参考情報として広く周知を図ることも重要である。

＜機器メンテナンスのあり方の検討＞

- ロボット介護機器等の導入に向けた懸念点・課題として、導入後のメンテナンスの問題を挙げる回答も多くみられた。他方、機器の開発者の中にはベンチャー企業や中小・零細規模の企業も多く、迅速なメンテナンス対応が難しいケースもあると考えられる。
- 開発者と全国に点在している福祉用具貸与・販売事業者などが販売面のみならず、メンテナンス面でも連携する体制などを整え、こうした問題に対応していくことも考えられる。

(1) 施設票

厚生労働省 令和2年度「障害者総合福祉推進事業」 ロボット等を活用した障害者支援手法の開発に向けた調査研究 日常の業務およびロボット介護機器等に関するアンケート調査（施設票）

【本調査の趣旨】

- 本調査は、「障害福祉の現場における業務実態や業務負担の内容」、ならびに「ロボット介護機器等に関する考え方」を把握することを目的としたアンケート調査です。
- 調査結果は、質の高いケアの実現や職員の業務負担軽減に向けたロボット介護機器等の活用のあり方を検討するための、貴重なデータとして活用いたします。
- 調査結果につきましては、弊社にて集計・分析を実施し、報告書として取りまとめます。報告書は、弊社ホームページ（<https://www.yokohama-ri.co.jp>）にて2021年4月以降に公表いたします。

【記入に当たってのお願い】

- 本調査票（施設票）は、貴施設・貴事業所の施設長の方にご回答をお願いします。
- 設問文等に特にことわりのない限り、2020年10月末時点の状況をご回答ください。
- ご回答いただいた内容につきましては、本調査以外の目的で使用することはございません。また、統計的に処理いたしますので、個別の回答内容が他の方に知られることは一切ありません。
- ご記入いただきました本調査票につきましては、同封の返信用封筒（茶色、切手不要）に封入・封緘の上、**2020年11月27日（金）**までに、ご投函ください。

■調査に関するお問合せ先（調査実施主体）

株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究所

「日常の業務およびロボット介護機器等に関するアンケート調査」 担当：加藤（善）・田中・辻本

TEL：045-225-2372 FAX：045-225-2197 電子メール：kaigo@yokohama-ri.co.jp

1. 貴施設の状況についてお伺いします。

問1. 貴施設を運営する法人の法人種別を教えてください。（あてはまるものに1つだけ○）

- | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|
| 1. 社会福祉法人（社協以外） | 2. 社会福祉協議会 | 3. 医療法人 |
| 4. 特定非営利活動法人 | 5. 営利法人（株式会社など） | 6. 国・都道府県・市町村 |
| 7. その他（ ） | | |

問2. 貴施設が提供している主な入所系サービスについて教えてください。（あてはまるものに1つだけ○）

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 施設入所支援 | 2. 障害児入所支援（福祉型） |
| 3. 障害児入所支援（医療型） | 4. 共同生活援助 |

問3. 貴施設が提供する入所系サービスの対象者について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|---------------------|---------------|---------------|
| 1. 身体障害（肢体不自由・内部障害） | 2. 身体障害（視覚障害） | 3. 身体障害（聴覚障害） |
| 4. 知的障害 | 5. 精神障害 | 6. 難病 |
| 7. 発達障害 | 8. 高次脳機能障害 | |

問4. 問3において、2つ以上回答した方に伺います。回答した対象者のうち最も人数の多い障害種別を教えてください。（あてはまるものに1つだけ○）

- | | | |
|---------------------|---------------|---------------|
| 1. 身体障害（肢体不自由・内部障害） | 2. 身体障害（視覚障害） | 3. 身体障害（聴覚障害） |
| 4. 知的障害 | 5. 精神障害 | 6. 難病 |
| 7. 発達障害 | 8. 高次脳機能障害 | |

問5. 貴施設の2020年10月末現在の①定員数、および②入所者・利用者数について教えてください。（数値を記入）

①定員数	人	②入所者・利用者数	人
------	---	-----------	---

問6. 貴施設の入所者・利用者について、最も人数が多い年齢層を教えてください。(あてはまるものに1つだけ○)

1. 18 歳未満	2. 18 歳以上 40 歳未満	3. 40 歳以上 65 歳未満	4. 65 歳以上
-----------	------------------	------------------	-----------

問7. 貴施設の全入所者・利用者に占める①～③に該当する方々の割合を教えてください。(①～③について、それぞれあてはまるものに1つだけ○)

①強度行動障害のある方	1. 8 割以上	2. 5 割以上 8 割未満	3. 3 割以上 5 割未満	4. 3 割未満	5. いらない
②重症心身障害のある方	1. 8 割以上	2. 5 割以上 8 割未満	3. 3 割以上 5 割未満	4. 3 割未満	5. いらない
③(②の方を除いた)医療的ケア(※)を要する方	1. 8 割以上	2. 5 割以上 8 割未満	3. 3 割以上 5 割未満	4. 3 割未満	5. いらない

(※) 日常生活に必要とされる医療的な生活援助行為です。具体的には、痰の吸引や経管栄養等を指します。

2. 貴施設の職員の業務についてお伺いします。

問8. 貴施設の職員の日勤時(午前5時～午後10時の時間帯)における、2020年10月の1か月間の業務について、お伺いします。

【A: 貴施設の職員が日勤時に従事している業務】は、貴施設の職員(生活支援員や世話人等)が日勤時に従事している業務すべてに○を付けてください。(※実施していない業務については○を付ける必要はありません。)

【B: Aのうち、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務】は、Aで回答した業務のうち、あなた(回答者)から見て、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務すべてに○を付けてください。

【C: Aのうち、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務】は、Aで回答した業務のうち、あなた(回答者)から見て、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務(※1)すべてに○を付けてください。

(※1 業務例: 中腰や不安定な姿勢による作業、利用者の移乗介助、重量のある備品の上げ下ろし、利用者の予期せぬ行動への対応、廊下や階段の頻繁な移動などを伴い、他と比較して身体負担が大きい業務など)

【D: Aのうち、職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務】は、Aで回答した業務のうち、あなた(回答者)から見て、職員が強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務(※2)すべてに○を付けてください。

(※2 業務例: 支援の拒否があったり、意思表示が難しい利用者への対応や、利用者のケガや誤嚥への恐れなどのため、他と比較して職員が緊張を強いられ、強いストレスを感じながら行っている業務など)

【E: Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務】は、Aで回答した業務のうち、あなた(回答者)から見て、ロボット介護機器等(見守りセンサーや介護浴槽、タブレット、インカムなど)の導入により、効率化や負担の軽減を図る余地が大きいと考えられる業務すべてに○を付けてください。

職員の日勤時の業務		A: 貴施設の職員が日勤時に従事している業務	B: Aのうち、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務	C: Aのうち、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務	D: Aのうち、職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務	E: Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務
(A)業務	(B)具体的な業務内容(例)					
1. 体位変換	寝返りや起き上がりの介助、等	1	1	1	1	1
2. 姿勢保持	座位保持や立位保持に関する介助、等	2	2	2	2	2
3. 移乗・移動	(ベッドから車いす等への)移乗介助や移動介助、等(※但し、排泄・入浴時除く)	3	3	3	3	3
4. 清拭・身体整容等	整容介助、更衣介助、口腔ケア介助、洗面・手洗い介助、等(※但し、いずれも排泄・入浴時除く)	4	4	4	4	4
5. 食事	食事介助(摂食介助)、食事の配膳・下膳の準備、等	5	5	5	5	5
6. 入浴	入浴準備、入浴介助(洗身・洗髪・洗面含む)、浴室への移乗・体位交換、等	6	6	6	6	6

職員の日勤時の業務		A：貴施設の職員が日勤時に従事している業務	B：Aのうち、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務	C：Aのうち、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務	D：Aのうち、職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務	E：Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務
(A)業務	(B)具体的な業務内容（例）					
7. 排泄	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）、トイレへの移動介助、排泄時の移乗・体位交換、等	7	7	7	7	7
8. 健康管理	観察・測定・検査（バイタルチェック等）、病気の症状への対応（診察介助等）、服薬確認・薬剤の与薬、等	8	8	8	8	8
9. 日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理や買い物支援、洗濯・整理整頓等の介助、等	9	9	9	9	9
10. 情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援、意思表示が難しい入所者等とのコミュニケーション、簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援、声かけ（日常会話等）、ニーズ把握（相談対応等）、等	10	10	10	10	10
11. 行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応、入居者・利用者の行動障害への予防的対応や予防的訓練、利用者・入居者からの暴言・暴力対応、等	11	11	11	11	11
12. 安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）、急変時・事故等への対応、等	12	12	12	12	12
13. 機能訓練	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練、等	13	13	13	13	13
14. 社会生活支援	行事・クラブ活動や職業訓練等の準備・実施・後片付け、外出時の介助、等	14	14	14	14	14
15. 面談・苦情対応	利用者・入居者の家族との面談、利用者・入居者やその家族からの苦情対応、等	15	15	15	15	15
16. 間接業務（利用者に関係すること）	記録・文書作成（ケース記録作成等）、施設内環境整備（ベッドメイキング等）、サービス等利用計画関連（プラン作成、会議等）、調理作業、他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）、等	16	16	16	16	16
17. 間接業務（職員や法人に関係すること）	記録・文書作成（総務・庶務作業等）、施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）、職員のシフト作成	17	17	17	17	17

問 9. 職員の日勤時の業務の中で、下記の（1）～（4）に特にあてはまる業務をそれぞれ上位3つまでご回答ください。（（1）～（4）について、それぞれ問 8 の「(A) 業務」に記載している 1～17 までの番号を3つまで記入）

(1) 職員の身体への負担が特に大きい業務	1 位：	2 位：	3 位：
(2) 職員が精神的にストレスを感じる事が特に大きい業務	1 位：	2 位：	3 位：
(3) 効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務	1 位：	2 位：	3 位：
(4) 新型コロナウイルス感染症の流行後、（身体面・精神面を問わず総合的に見て）特に負担が増加した業務	1 位：	2 位：	3 位：

問 10. 貴施設における、職員の夜勤（午後 10 時～午前 5 時の時間帯）・宿直体制の有無を教えてください。（あてはまるもの 1 つに○）

1. 夜勤・宿直体制あり（→問 11 へ）	2. 夜勤・宿直体制なし（→問 13 へ）
-----------------------	-----------------------

問 1 1. 貴施設の職員の夜勤時（午後 10 時～午前 5 時の時間帯）における、2020 年 10 月の 1 か月間の業務について、お伺いします。

【A：貴施設の職員が夜勤時に従事している業務】は、貴施設の職員（生活支援員や世話人等）が夜勤時に従事している業務すべてに○を付けてください。（※実施していない業務については○を付ける必要はありません。）

【B：Aのうち、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務】は、Aで回答した業務のうち、あなた（回答者）から見て、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務すべてに○を付けてください。

【C：Aのうち、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務】は、Aで回答した業務のうち、あなた（回答者）から見て、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務（※1）すべてに○を付けてください。

（※1 業務例：中腰や不安定な姿勢による作業、利用者の移乗介助、重量のある備品の上げ下ろし、利用者の予期せぬ行動への対応、廊下や階段の頻繁な移動などを伴い、他と比較して身体負担が大きい業務など）

【D：Aのうち、職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務】は、Aで回答した業務のうち、あなた（回答者）から見て、職員が強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務（※2）すべてに○を付けてください。

（※2 業務例：支援の拒否があったり、意思表示が難しい利用者への対応や、利用者のケガや誤嚥への恐れなどのため、他と比較して職員が緊張を強いられたり、強いストレスを感じながら行っている業務など）

【E：Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務】は、Aで回答した業務のうち、あなた（回答者）から見て、ロボット介護機器等（見守りセンサーや介護浴槽、タブレット、インカムなど）の導入により、効率化や負担の軽減を図る余地が大きいと考えられる業務すべてに○を付けてください。

職員の夜勤時の業務		A：貴施設の職員が夜勤時に従事している業務	B：Aのうち、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務	C：Aのうち、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務	D：Aのうち、職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務	E：Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務
(A)業務	(B)具体的な業務内容（例）					
1. 体位変換	寝返りや起き上がりの介助、等	1	1	1	1	1
2. 姿勢保持	座位保持や立位保持に関する介助、等	2	2	2	2	2
3. 移乗・移動	（ベッドから車いす等への）移乗介助や移動介助、等（※但し、排泄・入浴時除く）	3	3	3	3	3
4. 清拭・身体整容等	整容介助、更衣介助、口腔ケア介助、洗面・手洗い介助、等（※但し、いずれも排泄・入浴時除く）	4	4	4	4	4
5. 食事	食事介助（摂食介助）、食事の配膳・下膳の準備、等	5	5	5	5	5
6. 入浴	入浴準備、入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）、浴室への移乗・体位交換、等	6	6	6	6	6
7. 排泄	排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）、トイレへの移動介助、排泄時の移乗・体位交換、オムツ交換・便失禁時の処理、等	7	7	7	7	7
8. 健康管理	観察・測定・検査（バイタルチェック等）、病気の症状への対応（診察介助等）、服薬確認・薬剤の与薬、等	8	8	8	8	8
9. 日常生活支援	入所者・利用者の金銭・物品管理や買い物支援、洗濯・整理整頓等の介助、等	9	9	9	9	9
10. 情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援、意思表示が難しい入所者等とのコミュニケーション、簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援、声かけ（日常会話等）、ニーズ把握（相談対応等）、等	10	10	10	10	10
11. 行動障害への対応	入居者・利用者の行動障害発生時の対応、入居者・利用者の行動障害への予防的対応や予防的訓練、利用者・入居者からの暴言・暴力対応、等	11	11	11	11	11

職員の夜勤時の業務		A：貴施設の職員が夜勤時に従事している業務	B：Aのうち、職員が著しく時間を費やしていると考えられる業務	C：Aのうち、職員の身体に過度な負担がかかっていると考えられる業務	D：Aのうち、職員が精神的に強いストレスを感じながら実施していると考えられる業務	E：Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務
(A)業務	(B)具体的な業務内容（例）					
12. 安心・安全対策	巡視・見回り（容態の観察等）、急変時・事故等への対応、等	12	12	12	12	12
13. 機能訓練	心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練、等	13	13	13	13	13
14. 社会生活支援	行事・クラブ活動や職業訓練等の準備・実施・後片付け、外出時の介助、等	14	14	14	14	14
15. 面談、苦情対応	利用者・入居者の家族との面談、利用者・入居者やその家族からの苦情対応、等	15	15	15	15	15
16. 間接業務（利用者に関係すること）	記録・文書作成（ケース記録作成等）、施設内環境整備（ベッドメイキング等）、サービス等利用計画関連（プラン作成、会議等）、調理作業、他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）、等	16	16	16	16	16
17. 間接業務（職員や法人に関係すること）	記録・文書作成（総務・庶務作業等）、施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）、職員のシフト作成	17	17	17	17	17

問 1 2. 職員の夜勤時の業務の中で、下記の(1)～(4)について特にあてはまる業務をそれぞれ上位3つまでご回答ください。((1)～(4)について、それぞれ問11の「(A)業務」に記載している1～17までの番号を3つまで記入)

(1) 職員の身体への負担が特に大きい業務	1 位：	2 位：	3 位：
(2) 職員が精神的にストレスを感じることに特に大きい業務	1 位：	2 位：	3 位：
(3) 効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務	1 位：	2 位：	3 位：
(4) 新型コロナウイルス感染症の流行後、(身体面・精神面を問わず総合的に見て) 特に負担が増加した業務	1 位：	2 位：	3 位：

3. ロボット介護機器等の導入の可能性についてお伺いします。

問1 3. 各業務において、例えば、下記のような機能・効果を有するロボット介護機器等に関して、貴施設における業務への活用可能性を教えてください。(①～⑫について、それぞれあてはまるものに1つだけ○)

※各業務において、ロボット介護機器等を活用するだけでなく、(状況に応じて)他の福祉用具等も併用し、利用者・入居者を支援することを想定してご回答下さい。

※ロボット介護機器等の情報については、最終ページに記載している「介護ロボットの開発支援の重点6分野」を参照して頂くほかに、下記のURLにも情報を掲載していますので、是非ともご参照ください。

○厚生労働省「介護ロボットの開発・普及の促進」：<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634.html>

・介護・高齢者福祉向けの情報ですが、政策動向や先行調査結果等、障害福祉領域でも参考となる情報が掲載されています。

○介護ロボットポータルサイト：<http://robotcare.jp/jp/home/index.php>

・経済産業省のロボット介護機器開発・標準化事業をはじめとするロボット介護機器に関する情報提供のためのポータルサイトです。製品化機器の一覧や機器導入事例の紹介動画があります。

○介護ロボット導入活用事例集 2019：<http://www.techno-aids.or.jp/robot/file01/jirei2019.pdf>

・(公財)テクノエイド協会が作成。介護施設等からロボット介護機器の効果的な導入活用の事例を収集し、まとめた冊子です。

業務に対応すると考えられるロボット介護機器等、およびその機能・効果 (一例)		既に導入している	活用の可能性が大いにある	活用の可能性が多少ある	どちらともいえない	活用の可能性はあまりない	活用の可能性は全くない
1. 体位変換	【①自動で体位変換を行うことが可能な支援機器】 ・褥瘡などの発生を防ぐとともに、職員による定期的な体位変換などにかかる身体的負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
2. 姿勢保持	【②姿勢保持を容易にする介助(非装着型)ロボット】 ・移乗・移動等のために、障害者の身体を起こした後に姿勢保持を行うためにかかる職員の身体的負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
3. 移乗・移動	【③重量物の持ち上げ等を容易にする移乗介助(装着型)ロボット】 ・車いすへの移乗等にかかる職員の身体的負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
4. 清拭・身体整容等	【④マウスピース型口腔ケア補助ロボット】 ・職員による歯磨き支援等を拒否する方に使用してもらい、口腔ケアの質の向上につなげる。	1	2	3	4	5	6
	【⑤衣服の着脱をサポートする支援機器】 ・衣服の着脱時における姿勢保持をサポートする機器を用い、職員の身体的負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
5. 食事	【⑥自分で食事を行うことが可能な食事支援ロボット】 ・簡易な操作により、料理を口元まで運び、腕や手が不自由な方等の単独での食事摂取を支援し、食事介助にかかる負担軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
6. 入浴	【⑦浴槽内での姿勢保持や洗い場から浴槽部への出入り動作をサポートする入浴支援機器】 ・浴槽への出入りや浴槽内の姿勢保持をサポートする機器を用い、職員の身体的負担の軽減や入浴時の転倒事故などを防ぐ。	1	2	3	4	5	6
	【⑧浴槽につかるだけで汚れを落とす機能のある入浴機器】 ・入浴支援への拒否のある方の清潔の保持、皮膚疾患の予防につなげる。	1	2	3	4	5	6
7. 排泄	【⑨排便や排尿を検知する排泄検知センサー】 ・排便や排尿を的確に検知し、「空振り」(オムツを開けたが排泄していない)や尿もれ、便もれを減らし、排泄介助の負担軽減につなげる。	1	2	3	4	5	6
	【⑩居室等に設置できる水洗ポータブルトイレ】 ・歩行に不安のある障害者が夜間等にトイレに行く際の転倒リスクを軽減するほか、排泄介助時の職員の負担軽減につなげる。	1	2	3	4	5	6
8. 健康管理	【⑪疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末】 ・体調悪化につながる気温や気圧の変化、あるいはバイタルの状態などを把握し、体調管理の質の向上や不穏行動の未然防止を図る。	1	2	3	4	5	6
	【⑫服薬管理・服薬支援ロボット】 ・処方薬の適切な服用に向けた声掛けや服薬記録の作成などを行うロボットを用い、職員の負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6

業務に対応すると考えられるロボット介護機器等、およびその機能・効果 (一例)		既に導入している	活用の可能性が大いにある	活用の可能性が多少ある	どちらともいえない	活用の可能性はあまりない	活用の可能性は全くない
9. 日常生活支援	【13障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ】 ・ 金銭管理の透明性の確保、領収書整理の負担軽減などを図る。	1	2	3	4	5	6
10. 情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	【14顔の筋肉の動き等を捕捉し、感情をデータ化・分析する感情認識AI】 ・ 意思表示等が難しい障害者とのコミュニケーションの手がかりとして感情認識AIを活用し、コミュニケーションにかかる職員の負担軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
11. 行動障害への対応	【15シルエット型のカメラやセンサー】 ・ プライバシーに配慮しつつ、居室等での行動を記録するカメラやセンサーを用い、録画した動画等を活用したアセスメントを行うことで、行動障害が生じた原因を分析し、今後の未然防止につなげる。	1	2	3	4	5	6
	【16雑音低減・ノイズキャンセリング機能のあるAIイヤホン】 ・ 周囲の騒音などが原因となり行動障害が生じる方のため、AIイヤホンを活用し、本人のカームダウンを支援する。	1	2	3	4	5	6
	【17動物型や子ども型のコミュニケーションロボット】 ・ 行動障害のある方のカームダウンや精神状態の安定を促し、暴力や暴言、破壊などの行為の未然防止を図る。	1	2	3	4	5	6
12. 安心・安全対策	【18バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー】 ・ 夜間帯等の安否確認や、在室確認にかかる職員の負担の軽減、障害者の急な体調悪化時の対応の迅速化につなげる。	1	2	3	4	5	6
13. 機能訓練	【19リハビリサポートロボット・歩行訓練ロボット】 ・ 下肢にまひのある方などを対象として、歩行訓練をサポートするロボットを活用し、リハビリに関わる職員の負担軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
	【20言語訓練を支援するソフト】 ・ 言葉の遅れた子どもや、失語症の方などを対象として、言語訓練を支援するソフトを活用し、リハビリに関わる職員の負担軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
14. 社会生活支援	【21電動ベッドの一部を電動車いすとして分離できる離床アシスト機器】 ・ 離床アシストロボットを活用し、寝たきりの方の離床や外出・移動の促進、車いす等への移乗や移動などにかかる負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
15. 面談・苦情対応	【22遠隔操作の対話型ロボット】 ・ 意思表示が難しい障害者との対話において、遠隔操作のヒューマノイドを用いることで本人が話しやすい環境を整え、意思疎通の質の向上を図るほか、職員の精神的な負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
16. 間接業務（利用者に関係すること）	【23議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト】 ・ 発話を自動的に文字化するソフト等を用い、面談記録の作成などにかかる負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
	【24パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB会議アプリ】 ・ 遠隔の利用者や支援者とのミーティング・相談対応、会議などの効率化を図る。	1	2	3	4	5	6
17. 間接業務（職員や法人に関係すること）	【25職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト（グループウェアやビジネスチャットアプリ）】 ・ 職員間での日程調整や連絡・情報共有の効率化を図る。	1	2	3	4	5	6
	【26施設内でのインカム】 ・ 職員間での指示や情報共有の効率化、移動負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6

問14. 問13で挙げた①～②⑥以外で、貴施設において活用の可能性が大きいロボット介護機器等がありましたら、教えてください。(自由回答)

4. ロボット介護機器等の導入の現状についてお伺いします。

問 1 5. 貴施設におけるロボット介護機器等の導入状況について、あらためて教えてください。(あてはまるものに1つだけ○)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 既に導入している (→問 18 へ) | 2. 導入していない (→問 16 へ) |
|-----------------------|----------------------|

【問 15 で「2. 導入していない」と回答した方にお伺いします】

問 1 6. 貴施設における今後のロボット介護機器等の導入意向について教えてください。(あてはまるものに1つだけ○)

- | | | | |
|-----------|----------------|-----------|---------------|
| 1. 導入予定あり | 2. 導入するかどうか検討中 | 3. 導入予定なし | 4. 導入するかどうか未定 |
|-----------|----------------|-----------|---------------|

問 1 7. ロボット介護機器等に対する関心の有無について教えてください。(あてはまるものに1つだけ○)

- | | |
|----------|----------|
| 1. 関心がある | 2. 関心がない |
|----------|----------|

【※問 18 については全員ご回答ください】

問 1 8. (問 13 および問 14 に記載したようなロボット介護機器等も含めて) ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等の有無について教えてください。(あてはまるものに1つだけ○)

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 懸念点や課題点がある (→問 19 へ) | 2. 懸念点や課題点は特にない (→問 20 へ) |
|-------------------------|---------------------------|

【※問 18 で「1. 懸念点や課題点がある」と回答した方にお伺いします】

問 1 9. 具体的な懸念点や課題点等について教えて下さい。(あてはまるものすべてに○)

ロボット 介護機器等の 情報	1. ロボット介護機器等で何ができるのかよくわからない 2. どのようなロボット介護機器等があるのか知らない 3. 求める機能・性能を満たしたロボット介護機器が存在しない
ロボット 介護機器等へ のイメージ	4. 入所者へのケアは人の手で行うべきと考える 5. ロボット介護機器等によるケアを入所者やその家族が嫌がる 6. 現場職員のロボット介護機器等への抵抗感・拒否感が大きい
業務 プロセスの 変更等	7. 入所者の状態の個性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい 8. 既存のケア行為や業務プロセスへの導入方法がイメージできない 9. ロボット介護機器等に合わせてこれまでの業務やケアのやり方を変える負担が大きい
操作や メンテナンス	10. 操作や取り回しが煩雑である 11. 施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない
耐久性や 安全性	12. ロボット介護機器等の耐久性に対する懸念が払しょくできない(機器が壊れやすい・故障しやすい) 13. ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない
導入・ 管理費用	14. ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額 15. ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額
導入環境の 整備	16. (無線 LAN の整備や浴室の間口など) ロボット介護機器等の導入に必要なハード面の整備がなされていない 17. 施設内にロボット介護機器等を格納・収納しておくスペースがない
その他	18. ケア行為に機器を活用した場合の効果が不明確 19. 入所者にあつたロボット介護機器等の選定・適合を行う専門家が施設内にいない 20. 加算や人員配置基準の緩和など、ロボット介護機器等を活用する制度的なインセンティブがない 21. その他 (具体的に：)

5. ロボット介護機器等の導入のプロセスについてお伺いします。

※問 20～問 23 については問 15 で「1. 既に導入している」と回答した方のみご回答ください。
(その他の方は問 24 へお進みください。)

問 20. 現在、①導入しているロボット介護機器等の分野、および②具体的な製品を教えてください。

①導入しているロボット介護機器等の対象分野を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 移乗介助	2. 移動支援	3. 排泄支援
4. 入浴支援	5. 見守り支援	6. コミュニケーション支援
7. 事務業務効率化 (記録作成等)	8. その他 (	)

②導入している機器の具体的な製品名やメーカー等が分かりましたら、教えてください。(最も使用頻度の高い機器上位 3 つまで記載)

製品名	メーカー

問 21. ロボット介護機器等の導入を主導した方について教えてください。(あてはまるものに 1 つだけ○)

※なお、複数種類のロボット介護機器を導入している場合は、現時点で最も使用頻度の高い機器を想定の上、ご回答ください。(以下同様)

1. 法人の経営者	2. 施設長・管理者	3. 現場のリーダークラス
4. 現場職員	5. 外部からの働きかけ	6. その他 (

問 22. ロボット介護機器等を導入した理由について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. ロボット介護機器等に関心があったため	2. 入居者・利用者の自立支援のため
3. 職員の身体的な負担の軽減のため	4. 職員の精神的な負担の軽減のため
5. 入居者・利用者の直接ケアの業務の効率化のため	6. 間接業務の効率化のため
7. サービスの質の向上のため	8. (導入した製品の) メーカーから勧められたため
9. 自法人の他事業所・本部等から勧められたため	10. 自法人の他施設でロボット介護機器等の導入を進めていたため
11. 自法人の経営陣から導入の指示があったため	12. その他 (

問 23. ロボット介護機器等を導入するにあたり、下記の項目の実施の有無について教えてください。

((1)～(10)について、それぞれあてはまるものに 1 つだけ○)

項 目	実施した	実施していない	わからない
(1) 試験的な導入	1	2	3
(2) 試験導入に関わった職員による機器の評価	1	2	3
(3) 利用者 (入居者) 本人から意見の聴取	1	2	3
(4) 機器導入に関するプロジェクトチームや委員会の立ち上げ	1	2	3
(5) 機器導入担当職員の任命	1	2	3
(6) 機器導入前の施設内での職員向け趣旨説明の実施	1	2	3
(7) 機器導入前の施設内での利用者や家族等への趣旨説明の実施	1	2	3
(8) 機器に合わせた既存のケア動作や業務の見直し	1	2	3
(9) 機器活用を前提とした勤務シフトの作成	1	2	3
(10) 導入したロボット介護機器の教育訓練 (外部講師の招聘等)	1	2	3

6. ロボット介護機器等の導入促進に向けたご意見についてお伺いします。

問 24 は「問 2. 施設の主なサービス」で「施設入所支援」あるいは「共同生活援助」と回答した方のみご回答ください。（「障害児入所支援（福祉型）」あるいは「障害児入所支援（医療型）」と回答した方は問 26 へお進みください。）

問 2 4. 各都道府県や政令指定都市、中核市が実施する「障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業（※）」の申請の有無について教えてください。（あてはまるものに 1 つだけ○）

（※）障害者支援施設事業者等が介護ロボット等を導入する際の経費の一部を補助する事業です。

- | | | | |
|------------------|-----------|-------------------|-----------|
| 1. 知っていて、申請した | （→問 26 へ） | 2. 知っていたが、申請しなかった | （→問 25 へ） |
| 3. 事業そのものを知らなかった | （→問 26 へ） | | |

問 2 5. 問 24 で「2. 知っていたが、申請しなかった」と回答した方にお伺いします。申請しなかった理由について教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| 1. 申請書類の作成等に時間を要するため |
| 2. 申請に関する手続きが面倒なため |
| 3. 補助対象となるロボット介護機器等がわからなかったため |
| 4. 導入したいロボット介護機器等が補助対象外だったため |
| 5. 補助額が少ないため |
| 6. 導入に関して、自法人の資金のみで十分に対応できるため |
| 7. （自施設に）ロボット介護機器等を導入することを考えていないため |
| 8. 事業を認知した時点で、既に公募締切の間際・応募が間に合わなかったため |
| 9. 経営陣や上司がロボット介護機器等を導入することに反対した（反対することが見込まれた）ため |
| 10. 自施設の職員がロボット介護機器等を導入することに反対した（反対することが見込まれた）ため |
| 11. 利用者（入居者）がロボット介護機器等を導入することに反対した（反対することが見込まれた）ため |
| 12. 既にロボット介護機器等を導入しており、特にこれ以上導入する予定がないため |
| 13. その他（ |

【問 26 以降は全員ご回答ください】

問 2 6. 今後、ロボット介護機器等の導入促進に向けて、国や自治体において実施すべきと考える取り組みを教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|------------------------------------|
| 1. ロボット介護機器等自体に関する情報の提供 |
| 2. 他施設における介護機器等の好事例の情報提供 |
| 3. （貴施設に近隣する）身近な場所での展示会等の開催 |
| 4. 導入判断における試用等の機会の充実 |
| 5. 導入に関する身近な相談機関の設置 |
| 6. 導入するための資金助成制度の充実 |
| 7. ロボット介護機器等の導入をリードするような人材の育成 |
| 8. ロボット介護機器等の導入を後押しするような人員配置基準の見直し |
| 9. ロボット介護機器等の導入を後押しするような加算の新設 |
| 10. 開発メーカーとの情報交換ができる場の提供 |
| 11. その他（ |

問 2 7. その他、ロボット介護機器の導入・活用の促進に向けたお考えについてご自由に記載してください。(自由回答)

7. 貴施設の人員体制等についてお伺いします。

問 2 8. 貴施設における①日勤時（午前 5 時～午後 10 時の時間帯）、および②夜勤時（午後 10 時～午前 5 時の時間帯）の職員の過不足の状況を教えてください。(※人員配置基準に対する人員の過不足ではなく、実際の業務量と人員数との関係性を踏まえてご回答ください) (①および②について、それぞれあてはまるものに 1 つだけ○)

①日勤時	1. 不足	2. やや不足	3. 適正	4. やや過剰	5. 過剰	
②夜勤時	1. 不足	2. やや不足	3. 適正	4. やや過剰	5. 過剰	6. 夜勤体制はなし

問 2 9. 貴施設における新型コロナウイルス感染症の流行前に比べた、新型コロナウイルス感染症流行後の現在の経営状況を教えてください。(①および②について、それぞれあてはまるものに 1 つだけ○)

①収入の基調	1. 増加傾向	2. 微増傾向	3. 横ばい	4. 微減傾向	5. 減少傾向
②収支差の状況	1. 増益	2. 若干増益	3. 横ばい	4. 若干減益	5. 減益

問 3 0. 貴施設における下記の項目への取組み状況を教えてください。(①～⑤について、それぞれあてはまるものに 1 つだけ○)

①記録・報告様式の電子化(タブレット等によるデータ入力・共有)	1. できている	2. ややできている	3. あまりできていない	4. できていない
②職員間の情報共有の効率化(インカムを用いた迅速な情報共有等)	1. できている	2. ややできている	3. あまりできていない	4. できていない
③体系的な職員研修やOJT	1. できている	2. ややできている	3. あまりできていない	4. できていない
④業務の標準化や業務マニュアル作成への取組	1. できている	2. ややできている	3. あまりできていない	4. できていない
⑤職員一人ひとりに対する PC の設置等、IT 機器の導入	1. できている	2. ややできている	3. あまりできていない	4. できていない

※今後、貴施設における日常の業務の状況やロボット介護機器等の活用状況等についてヒアリングの実施をご依頼させて頂く場合があります。ヒアリングにご協力頂ける場合は、施設名等をご記入ください。

貴法人名	
貴施設名	
回答者様の氏名（役職）	（役職： ）
電話番号	
メールアドレス	

－ 調査は以上で終わりです。長時間ご協力頂きありがとうございました。－

【参考資料】介護ロボットの開発支援の重点6分野について

○厚生労働省と経済産業省では、自立支援による高齢者の生活の質の維持・向上と介護者の負担軽減の両方の実現を図るため、「ロボット介護機器の開発重点分野」を定めており、現在、下記の6分野13項目が設定されています。

介護ロボットの開発支援の重点6分野



出典：厚生労働省資料

(2) 職員票

厚生労働省 令和2年度「障害者総合福祉推進事業」 ロボット等を活用した障害者支援手法の開発に向けた調査研究 日常の業務およびロボット介護機器等に関するアンケート調査（職員票）

【本調査の趣旨】

- 本調査は、「障害福祉の現場における業務実態や業務負担の内容」、ならびに「ロボット介護機器等に関する考え方」を把握することを目的としたアンケート調査です。
- 調査結果は、質の高いケアの実現や職員の業務負担軽減に向けたロボット介護機器等の活用のあり方を検討するための、貴重なデータとして活用いたします。
- 調査結果につきましては、弊社にて集計・分析を実施し、報告書として取りまとめます。報告書は、弊社ホームページ（<https://www.yokohama-ri.co.jp>）にて2021年4月以降に公表いたします。

【記入に当たってのお願い】

- **本調査票（職員票）は、下記の条件を全て満たす職員の方（1名）**にご回答をお願いいたします。

本調査票（職員票）の回答者について（以下の4つの条件に全て当てはまる方）

1. 入所者・利用者に対する直接ケア業務に従事している方（例：生活支援員等）
2. 2020年10月において日勤および夜勤・宿直のいずれの時間帯でも勤務をしている方
（※夜勤や宿直がない施設・事業所の場合、2の条件は除外）
3. 貴施設での勤務年数が3年程度であり、施設内の一通りの業務に対応可能な方
4. 常勤職員の方

- 設問文等に特にことわりのない限り、2020年10月末時点の状況をご回答ください。
- 本調査票につきましては、あなたご自身の考えをご記入ください。（施設の考えを記載する必要はありません）
- ご回答いただいた内容につきましては、本調査以外の目的で使用することはございません。また、統計的に処理いたしますので、個別の回答内容が他の方に知られることは一切ありません。
- あなた自身（ご回答者）が回答後、調査票と一緒に渡された返信用封筒（水色、切手不要）に封入・封緘の上、2020年11月27日（金）までに、ご投函ください。（施設長等に調査票を渡す必要はありません）

■調査に関するお問合せ先（調査実施主体）

株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部

「日常の業務およびロボット介護機器に関するアンケート調査」 担当：加藤（善）・田中・辻本

TEL：045-225-2372 FAX：045-225-2197 電子メール：kaigo@yokohama-ri.co.jp

1. あなた（ご回答者）自身についてお伺いします。

問1. あなたの年齢を教えてください。（あてはまるものに1つだけ○）

- | | | | |
|----------|----------|------------|----------|
| 1. 10 歳代 | 2. 20 歳代 | 3. 30 歳代 | 4. 40 歳代 |
| 5. 50 歳代 | 6. 60 歳代 | 7. 70 歳代以上 | |

問2. あなたの①他法人での経験を含む障害福祉サービスの経験年数、および②現在の貴施設での勤務経験年数を教えてください。（①および②について、それぞれあてはまるものに1つだけ○）

①他法人での経験を含む障害福祉サービスの経験年数

- | | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| 1. 1 年未満 | 2. 1 年以上 3 年未満 | 3. 3 年以上 5 年未満 |
| 4. 5 年以上 10 年未満 | 5. 10 年以上 | |

②現在の貴施設での勤務経験年数（自法人内で他施設の勤務経験は含みません）

- | | | |
|-----------------|----------------|----------------|
| 1. 1 年未満 | 2. 1 年以上 3 年未満 | 3. 3 年以上 5 年未満 |
| 4. 5 年以上 10 年未満 | 5. 10 年以上 | |

問3. 勤務先の入所者・利用者について、最も人数が多い年齢層を教えてください。(あてはまるものに1つだけ○)

1. 18 歳未満	2. 18 歳以上 40 歳未満	3. 40 歳以上 65 歳未満	4. 65 歳以上
-----------	------------------	------------------	-----------

問4. 現在の勤務先で①2020 年 10 月の 1 か月に勤務した日数および②夜勤をした日数(※)を教えてください。(数値を記入)

(※) ここで言う夜勤日とは、午後 10 時から午前 5 時までの時間帯で勤務した日を指します。

①2020 年 10 月の勤務日数	日	② ①のうち夜勤日数	日
-------------------	---	------------	---

問5. 現在の勤務先での残業についての考えを教えてください。(あてはまるものに1つだけ○)

1. 非常に多い	2. やや多い	3.それほど多くない	4. ほとんどない
----------	---------	------------	-----------

2. 現在のあなたの業務についてお伺いします。

問6. 日勤時(午前5時～午後10時の時間帯)における、2020年10月の1か月間の業務について、お伺いします。

【A：日勤時に従事している業務】は、あなたが日勤時に従事している業務にすべて○を付けてください。(※実施していない業務については○を付ける必要はありません。)

【B：Aのうち、著しく時間を費やしていると考える業務】は、Aで回答した業務のうち、あなたが著しく時間を費やしていると考える業務すべてに○を付けてください。

【C：Aのうち、身体に過度な負担がかかっていると業務】は、Aで回答した業務のうち、あなたの身体に過度な負担がかかっている業務(※1)すべてに○を付けてください。

(※1 業務例：中腰や不安定な姿勢による作業、利用者の移乗介助、重量のある備品の上げ下ろし、利用者の予期せぬ行動への対応、廊下や階段の頻繁な移動などを伴い、他と比較して身体負担が大きい業務など)

【D：Aのうち、精神的に強いストレスを感じながら実施している業務】は、Aで回答した業務のうち、あなたが精神的に強いストレスを感じながら実施している業務(※2)すべてに○を付けてください。

(※2 業務例：支援の拒否があったり、意思表示が難しい利用者への対応や、利用者のケガや誤嚥への恐れなどのため、他と比較して職員が緊張を強いられたり、強いストレスを感じながら行っている業務など)

【E：Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務】は、Aで回答した業務のうち、あなたがロボット介護機器等(見守りセンサーや介護浴槽、タブレット、インカムなど)の導入により、効率化や負担の軽減を図る余地が大きいと考えられる業務すべてに○を付けてください。

日勤時の業務		A：日勤時に従事している業務	B：Aのうち、著しく時間を費やしていると考える業務	C：Aのうち、身体に過度な負担がかかっている業務	D：Aのうち、精神的に強いストレスを感じながら実施している業務	E：Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務
(A) 中分類	(B) 小分類					
a. 体位変換	①寝返りや起き上がりの介助	1	1	1	1	1
b. 姿勢保持	②座位保持の介助	2	2	2	2	2
	③立位保持の介助	3	3	3	3	3
	④(ベッドから車いす等への)移乗介助	4	4	4	4	4
c. 移乗・移動	⑤移動介助(排泄・入浴除く)	5	5	5	5	5
	⑥整容介助(排泄・入浴除く)	6	6	6	6	6
	⑦更衣介助(排泄・入浴除く)	7	7	7	7	7
d. 清拭・身体整容等	⑧口腔ケア介助(義歯を含む)	8	8	8	8	8
	⑨洗面・手洗い介助(入浴時除く)	9	9	9	9	9
	⑩食事介助(摂食介助)	10	10	10	10	10
e. 食事	⑪食事の配膳・下膳の準備等	11	11	11	11	11
	⑫入浴準備	12	12	12	12	12
f. 入浴	⑬入浴介助(洗身・洗髪・洗面含む)	13	13	13	13	13
	⑭浴室への移乗・体位交換	14	14	14	14	14
g. 排泄	⑮排泄介助(失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む)	15	15	15	15	15
	⑯トイレへの移動介助	16	16	16	16	16
	⑰排泄時の移乗・体位交換	17	17	17	17	17

日勤時の業務		A：日勤時に従事している業務	B：Aのうち、著しく時間を費やしていると考える業務	C：Aのうち、身体に過度な負担がかかっている業務	D：Aのうち、精神的に強いストレスを感じながら実施している業務	E：Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務
(A) 中分類	(B) 小分類					
h. 健康管理	⑱観察・測定・検査（バイタルチェック等）	18	18	18	18	18
	⑲病気の症状への対応（診察介助等）	19	19	19	19	19
	⑳服薬確認・薬剤の与薬	20	20	20	20	20
i. 日常生活支援	㉑入所者・利用者の金銭・物品管理	21	21	21	21	21
	㉒洗濯・整理整頓等の介助	22	22	22	22	22
	㉓入所者・利用者の買い物支援	23	23	23	23	23
j. 情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	㉔視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	24	24	24	24	24
	㉕意思表出が難しい入所者等とのコミュニケーション	25	25	25	25	25
	㉖簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援	26	26	26	26	26
	㉗声かけ（日常会話等）	27	27	27	27	27
	㉘ニーズ把握（相談対応等）	28	28	28	28	28
k. 行動障害への対応	㉙入居者・利用者の行動障害発生時の対応	29	29	29	29	29
	㉚入居者・利用者の行動障害への予防的対応	30	30	30	30	30
	㉛入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	31	31	31	31	31
	㉜利用者・入居者からの暴言・暴力対応	32	32	32	32	32
l. 安心・安全対策	㉝巡視・見回り（容態の観察等）	33	33	33	33	33
	㉞急変時・事故等への対応	34	34	34	34	34
m. 機能訓練	㉟心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	35	35	35	35	35
n. 社会生活支援	㊱行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	36	36	36	36	36
	㊲職業訓練等の準備・実施・後片付け	37	37	37	37	37
	㊳外出時の介助	38	38	38	38	38
o. 面談、苦情対応	㊴利用者・入居者の家族との面談	39	39	39	39	39
	㊵利用者・入居者やその家族からの苦情対応	40	40	40	40	40
p. 間接業務（利用者に関係すること）	㊶記録・文書作成（ケース記録作成等）	41	41	41	41	41
	㊷施設内環境整備（ベッドメイキング等）	42	42	42	42	42
	㊸サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	43	43	43	43	43
	㊹調理作業	44	44	44	44	44
	㊺他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	45	45	45	45	45
q. 間接業務（職員や法人に関係すること）	㊻記録・文書作成（総務・庶務作業等）	46	46	46	46	46
	㊼施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	47	47	47	47	47
	㊽職員のシフト作成	48	48	48	48	48

問7. 日勤時の業務の中で、下記の(1)～(4)について特にあてはまる中分類の業務をそれぞれ上位3つまでご回答ください。(1)～(4)について、それぞれ問6の(A)中分類に記載しているa～qまでの文字を3つまで記入) ※小分類の業務の番号(①～④⑧)ではありませんので、ご注意ください。

(1) 身体への負担が特に大きい業務	1位：	2位：	3位：
(2) 精神的にストレスを感じる事が特に大きい業務	1位：	2位：	3位：
(3) 効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務	1位：	2位：	3位：
(4) 新型コロナウイルス感染症の流行後、(身体的・精神的問わず総合的に) 特に負担が増加した業務	1位：	2位：	3位：

問 8. 夜勤時（午後 10 時～午前 5 時の時間帯）における、2020 年 10 月の 1 か月間の業務について、お伺いします。

【なお、夜勤体制や宿直がない施設で勤務している方につきましては、問 8 および問 9 にご回答いただく必要はありません。（問 10 にお進みください）】

【A：夜勤時に従事している業務】は、あなたが夜勤時に従事している業務にすべて○を付けてください。（※実施していない業務については○を付ける必要はありません。）

【B：Aのうち、著しく時間を費やしていると考ええる業務】は、Aで回答した業務のうち、あなたが著しく時間を費やしていると考ええる業務すべてに○を付けてください。

【C：Aのうち、身体に過度な負担がかかっている業務】は、Aで回答した業務のうち、あなたの身体に過度な負担がかかっている業務（※1）すべてに○を付けてください。

（※1 業務例：中腰や不安定な姿勢による作業、利用者の移乗介助、重量のある備品の上げ下ろし、利用者の予期せぬ行動への対応、廊下や階段の頻繁な移動などを伴い、他と比較して身体負担が大きい業務など）

【D：Aのうち、精神的に強いストレスを感じながら実施している業務】は、Aで回答した業務のうち、あなたが精神的に強いストレスを感じながら実施している業務（※2）すべてに○を付けてください。

（※2 業務例：支援の拒否があったり、意思表示が難しい利用者への対応や、利用者のケガや誤嚥への恐れなどのため、他と比較して職員が緊張を強いられたり、強いストレスを感じながら行っている業務など）

【E：Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務】は、Aで回答した業務のうち、あなたがロボット介護機器等（見守りセンサーや介護浴槽、タブレット、インカムなど）の導入により、効率化や負担の軽減を図る余地が大きいと考えられる業務すべてに○を付けてください。

夜勤時の業務		A：夜勤時に従事している業務	B：Aのうち、著しく時間を費やしていると考ええる業務	C：Aのうち、身体に過度な負担がかかっている業務	D：Aのうち、精神的に強いストレスを感じながら実施している業務	E：Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務
(A) 中分類	(B) 小分類					
a. 体位変換	①寝返りや起き上がりの介助	1	1	1	1	1
b. 姿勢保持	②座位保持の介助	2	2	2	2	2
	③立位保持の介助	3	3	3	3	3
c. 移乗・移動	④（ベッドから車いす等への）移乗介助	4	4	4	4	4
	⑤移動介助（排泄・入浴除く）	5	5	5	5	5
d. 清拭・身体整容等	⑥整容介助（排泄・入浴除く）	6	6	6	6	6
	⑦更衣介助（排泄・入浴除く）	7	7	7	7	7
	⑧口腔ケア介助（義歯を含む）	8	8	8	8	8
	⑨洗面・手洗い介助（入浴時除く）	9	9	9	9	9
e. 食事	⑩食事介助（摂食介助）	10	10	10	10	10
	⑪食事の配膳・下膳の準備等	11	11	11	11	11
f. 入浴	⑫入浴準備	12	12	12	12	12
	⑬入浴介助（洗身・洗髪・洗面含む）	13	13	13	13	13
	⑭浴室への移乗・体位交換	14	14	14	14	14
g. 排泄	⑮排泄介助（失禁後の排泄処理やオムツ交換を含む）	15	15	15	15	15
	⑯トイレへの移動介助	16	16	16	16	16
	⑰排泄時の移乗・体位交換	17	17	17	17	17
h. 健康管理	⑱観察・測定・検査（バイタルチェック等）	18	18	18	18	18
	⑲病気の症状への対応（診察介助等）	19	19	19	19	19
	⑳服薬確認・薬剤の与薬	20	20	20	20	20
i. 日常生活支援	㉑入所者・利用者の金銭・物品管理	21	21	21	21	21
	㉒洗濯・整理整頓等の介助	22	22	22	22	22
	㉓入所者・利用者の買い物支援	23	23	23	23	23
j. 情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	㉔視覚・聴覚障害者への情報提供・情報入手支援	24	24	24	24	24
	㉕意思表示が難しい入所者等とのコミュニケーション	25	25	25	25	25
	㉖簡易な言葉への言い換え等の読解等の支援	26	26	26	26	26
	㉗声かけ（日常会話等）	27	27	27	27	27
	㉘ニーズ把握（相談対応等）	28	28	28	28	28

夜勤時の業務		A：夜勤時に従事している業務	B：Aのうち、著しく時間を費やしていると考える業務	C：Aのうち、身体に過度な負担がかかっている業務	D：Aのうち、精神的に強いストレスを感じながら実施している業務	E：Aのうち、効率化や負担軽減を図る余地が大きいと考えられる業務
(A) 中分類	(B) 小分類					
k. 行動障害への対応	㉔入居者・利用者の行動障害発生時の対応	29	29	29	29	29
	㉕入居者・利用者の行動障害への予防的対応	30	30	30	30	30
	㉖入居者・利用者の行動障害への予防的訓練	31	31	31	31	31
	㉗利用者・入居者からの暴言・暴力対応	32	32	32	32	32
l. 安心・安全対策	㉘巡視・見回り（容態の観察等）	33	33	33	33	33
	㉙急変時・事故等への対応	34	34	34	34	34
m. 機能訓練	㉚心身機能や日常生活動作、言語機能等のための各種機能訓練	35	35	35	35	35
n. 社会生活支援	㉛行事・クラブ活動の準備・実施・後片付け	36	36	36	36	36
	㉜職業訓練等の準備・実施・後片付け	37	37	37	37	37
	㉝外出時の介助	38	38	38	38	38
o. 面談、苦情対応	㉞利用者・入居者の家族との面談	39	39	39	39	39
	㉟利用者・入居者やその家族からの苦情対応	40	40	40	40	40
p. 間接業務（利用者に関係すること）	㊱記録・文書作成（ケース記録作成等）	41	41	41	41	41
	㊲施設内環境整備（ベッドメイキング等）	42	42	42	42	42
	㊳サービス等利用計画関連（プランの作成、会議等）	43	43	43	43	43
	㊴調理作業	44	44	44	44	44
	㊵他法人や他職種等との調整業務（打合せ等）	45	45	45	45	45
q. 間接業務（職員や法人に関係すること）	㊶記録・文書作成（総務・庶務作業等）	46	46	46	46	46
	㊷施設内調整業務・内部会議（朝礼・申し送り等）	47	47	47	47	47
	㊸職員のシフト作成	48	48	48	48	48

問9. 夜勤時の業務の中で、下記の(1)～(4)について特にあてはまる中分類の業務をそれぞれ上位3つまでご回答ください。(1)～(4)について、それぞれ問8の(A)中分類に記載しているa～qまでの文字を3つまで記入) ※小分類の業務の番号(㉔～㊸)ではありませんので、ご注意ください。

(1) 身体への負担が特に大きい業務	1位：	2位：	3位：
(2) 精神的にストレスを感じることに特に大きい業務	1位：	2位：	3位：
(3) 効率化や負担軽減を図る余地が大きいと感じる業務	1位：	2位：	3位：
(4) 新型コロナウイルス感染症の流行後、(身体的・精神的問わず総合的に) 特に負担が増加した業務	1位：	2位：	3位：

3. ロボット介護機器等についてお伺いします。

問10. 各業務において、例えば、下記のような機能・効果を有するロボット介護機器等に関して、貴施設における業務への活用可能性を教えてください。(①～⑫について、それぞれあてはまるものに1つだけ○)

※各業務において、ロボット介護機器等を活用するだけでなく、(状況に応じて)他の福祉用具等も併用し、利用者・入居者を支援することを想定してご回答下さい。

※ロボット介護機器等の情報については、同封した資料「介護ロボットの開発支援の重点6分野」を参照して頂くほかに、下記のURLにも情報を掲載していますので、是非ともご参照ください。

○厚生労働省「介護ロボットの開発・普及の促進」：<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634.html>
・介護・高齢者福祉向けの情報ですが、政策動向や先行調査結果等、障害福祉領域でも参考となる情報が掲載されています。

○介護ロボットポータルサイト：<http://robotcare.jp/jp/home/index.php>
・経済産業省のロボット介護機器開発・標準化事業をはじめとするロボット介護機器に関する情報提供のためのポータルサイトです。製品化機器の一覧や機器導入事例の紹介動画があります。

○介護ロボット導入活用事例集2019：<http://www.techno-aids.or.jp/robot/file01/jirei2019.pdf>
・(公財)テクノエイド協会が作成。介護施設等からロボット介護機器の効果的な導入活用事例を収集し、まとめた冊子です。

業務に対応すると考えられるロボット介護機器等、およびその機能・効果 (一例)		既に導入している	活用の可能性が大いにある	活用の可能性が多少ある	どちらともいえない	活用の可能性はあまりない	活用の可能性は全くない
1. 体位変換	【①自動で体位変換を行うことが可能な支援機器】 ・褥瘡などの発生を防ぐとともに、職員による定期的な体位変換などにかかる身体的負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
2. 姿勢保持	【②姿勢保持を容易にする介助(非装着型)ロボット】 ・移乗・移動等のために、障害者の身体を起こした後に姿勢保持を行うためにかかる職員の身体的な負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
3. 移乗・移動	【③重量物の持ち上げ等を容易にする移乗介助(装着型)ロボット】 ・車いすへの移乗等にかかる職員の身体的な負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
4. 清拭・身体整容等	【④マウスピース型口腔ケア補助ロボット】 ・職員による歯磨き支援等を拒否する方に使用してもらい、口腔ケアの質の向上につなげる。	1	2	3	4	5	6
	【⑤衣服の着脱をサポートする支援機器】 ・衣服の着脱時における姿勢保持をサポートする機器を用い、職員の身体的な負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
5. 食事	【⑥自分で食事を行うことが可能な食事支援ロボット】 ・簡易な操作により、料理を口元まで運び、腕や手が不自由な方等の単独での食事摂取を支援し、食事介助にかかる負担軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
6. 入浴	【⑦浴槽内での姿勢保持や洗い場から浴槽部への出入り動作をサポートする入浴支援機器】 ・浴槽への出入りや浴槽内の姿勢保持をサポートする機器を用い、職員の身体的な負担の軽減や入浴時の転倒事故などを防ぐ。	1	2	3	4	5	6
	【⑧浴槽につかるだけで汚れを落とす機能のある入浴機器】 ・入浴支援への拒否のある方の清潔の保持、皮膚疾患の予防につなげる。	1	2	3	4	5	6
7. 排泄	【⑨排便や排尿を検知する排泄検知センサー】 ・排便や排尿を的確に検知し、「空振り」(オムツを開けたが排泄していない)や尿もれ、便もれを減らし、排泄介助の負担軽減につなげる。	1	2	3	4	5	6
	【⑩居室等に設置できる水洗ポータブルトイレ】 ・歩行に不安のある障害者が夜間等にトイレに行く際の転倒リスクを軽減するほか、排泄介助時の職員の負担軽減につなげる。	1	2	3	4	5	6
8. 健康管理	【⑪疲労度や心拍、睡眠状態などを測定するウェアラブル端末】 ・体調悪化につながる気温や気圧の変化、あるいはバイタルの状態などを把握し、体調管理の質の向上や不穏行動の未然防止を図る。	1	2	3	4	5	6
	【⑫服薬管理・服薬支援ロボット】 ・処方薬の適切な服用に向けた声掛けや服薬記録の作成などを行うロボットを用い、職員の負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6

業務に対応すると考えられるロボット介護機器等、およびその機能・効果 (一例)		既に導入している	活用の可能性が大いにある	活用の可能性が多少ある	どちらともいえない	活用の可能性はあまりない	活用の可能性は全くない
9. 日常生活支援	【13障害者のために職員が行う出納記録の作成や現金の入出金を自動で実施してくれる機器・アプリ】 ・ 金銭管理の透明性の確保、領収書整理の負担軽減などを図る。	1	2	3	4	5	6
10. 情報入手・意思表示・コミュニケーション支援	【14顔の筋肉の動き等を捕捉し、感情をデータ化・分析する感情認識AI】 ・ 意思表示等が難しい障害者とのコミュニケーションの手がかりとして感情認識AIを活用し、コミュニケーションにかかる職員の負担軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
11. 行動障害への対応	【15シルエット型のカメラやセンサー】 ・ プライバシーに配慮しつつ、居室等での行動を記録するカメラやセンサーを用い、録画した動画等を活用したアセスメントを行うことで、行動障害が生じた原因を分析し、今後の未然防止につなげる。	1	2	3	4	5	6
	【16雑音低減・ノイズキャンセリング機能のあるAIイヤホン】 ・ 周囲の騒音などが原因となり行動障害が生じる方のため、AIイヤホンを活用し、本人のカームダウンを支援する。	1	2	3	4	5	6
	【17動物型や子ども型のコミュニケーションロボット】 ・ 行動障害のある方のカームダウンや精神状態の安定を促し、暴力や暴言、破壊などの行為の未然防止を図る。	1	2	3	4	5	6
12. 安心・安全対策	【18バイタルや睡眠状態、行動などを把握し、イレギュラーな動きが生じた場合にはアラームを鳴らす見守りセンサー】 ・ 夜間帯等の安否確認や、在室確認にかかる職員の負担の軽減、障害者の急な体調悪化時の対応の迅速化につなげる。	1	2	3	4	5	6
13. 機能訓練	【19リハビリサポートロボット・歩行訓練ロボット】 ・ 下肢にまひのある方などを対象として、歩行訓練をサポートするロボットを活用し、リハビリに関わる職員の負担軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
	【20言語訓練を支援するソフト】 ・ 言葉の遅れた子どもや、失語症の方などを対象として、言語訓練を支援するソフトを活用し、リハビリに関わる職員の負担軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
14. 社会生活支援	【21電動ベッドの一部を電動車いすとして分離できる離床アシスト機器】 ・ 離床アシストロボットを活用し、寝たきりの方の離床や外出・移動の促進、車いす等への移乗や移動などにかかる負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
15. 面談、苦情対応	【22遠隔操作の対話型ロボット】 ・ 意思表示が難しい障害者との対話において、遠隔操作のヒューマノイドを用いることで本人が話しやすい環境を整え、意思疎通の質の向上を図るほか、職員の精神的な負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
16. 間接業務（利用者に関係すること）	【23議事録自動作成ツール、音声入力支援ソフト】 ・ 発話を自動的に文字化するソフト等を用い、面談記録の作成などにかかる負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6
	【24パソコンやスマートフォン、タブレット端末などのビデオ・WEB会議アプリ】 ・ 遠隔の利用者や支援者とのミーティング・相談対応、会議などの効率化を図る。	1	2	3	4	5	6
17. 間接業務（職員や法人に関係すること）	【25職員のスケジュール管理や情報共有のための専用ソフト（グループウェアやビジネスチャットアプリ）】 ・ 職員間での日程調整や連絡・情報共有の効率化を図る。	1	2	3	4	5	6
	【26施設内でのインカム】 ・ 職員間での指示や情報共有の効率化、移動負担の軽減を図る。	1	2	3	4	5	6

問 1 1. 問 10 で挙げた①～②⑥以外で、日常の業務に活用の可能性が大きいロボット介護機器等がありましたら、教えてください。(自由回答)

問 1 2. (問 10 および問 11 に記載したようなロボット介護機器等も含めて) ロボット介護機器等の導入・活用に関する懸念点や課題点等の有無について教えてください。(あてはまるものに 1 つだけ○)

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1. 懸念点や課題点がある (→問 13 へ) | 2. 懸念点や課題点は特にない (→質問は以上です) |
|-------------------------|----------------------------|

【※問 12 で「1. 懸念点や課題点がある」と回答した方にお伺いします】

問 1 3. 具体的な懸念点や課題点等について教えて下さい。(あてはまるものすべてに○)

ロボット 介護機器等の 情報	1. ロボット介護機器等で何ができるのかよくわからない 2. どのようなロボット介護機器等があるのか知らない 3. 求める機能・性能を満たしたロボット介護機器が存在しない
ロボット 介護機器等へ のイメージ	4. 入所者へのケアは人の手で行うべきと考える 5. ロボット介護機器等によるケアを入所者やその家族が嫌がる 6. 現場職員のロボット介護機器等への抵抗感・拒否感が大きい
業務 プロセスの 変更等	7. 入所者の状態の個性が高く、汎用性を前提とした機器は活用が難しい 8. 既存のケア行為や業務プロセスへの導入方法がイメージできない 9. ロボット介護機器等に合わせてこれまでの業務やケアのやり方を変える負担が大きい
操作や メンテナンス	10. 操作や取り回しが煩雑である 11. 施設内で定期的なメンテナンス等を行う技術がない
耐久性や 安全性	12. ロボット介護機器等の耐久性に対する懸念が払しょくできない(機器が壊れやすい・故障しやすい) 13. ロボット介護機器等の安全性に対する懸念が払しょくできない
導入・ 管理費用	14. ロボット介護機器等の導入等に係るイニシャルコストが高額 15. ロボット介護機器等のメンテナンス等にかかるランニング費用が高額
導入環境の 整備	16. (無線 LAN の整備や浴室の間口など) ロボット介護機器等の導入に必要なハード面の整備がなされていない 17. 施設内にロボット介護機器等を格納・収納しておくスペースがない
その他	18. ケア行為に機器を活用した場合の効果が不明確 19. 入所者にあったロボット介護機器等の選定・適合を行う専門家が施設内にいない 20. 加算や人員配置基準の緩和など、ロボット介護機器等を活用する制度的なインセンティブがない 21. その他 (具体的に：)

ー 調査は以上で終わりです。長時間ご協力頂きありがとうございました。ー

厚生労働省「令和２年度 障害者総合福祉推進事業」
**ロボット等を活用した障害者支援手法の開発に向けた調査研究事業
調査結果報告書**

令和３年３月発行

調査実施主体 株式会社浜銀総合研究所

〒220-8616 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-1-1 横浜銀行本店ビル

TEL : 045-225-2372 FAX : 045-225-2197

ホームページアドレス : <https://www.yokohama-ri.co.jp/index.html>